

小野派一刀流の門人とその周辺 ― 江戸後期「分限帳」翻刻と分析結果 ―

西脇 康（前東京大学史料編纂所員）

はじめに

本稿は、日野市立新選組のふるさと歴史館「平成二十七年度特別展 幕臣尊攘派―浪士組から江戸開城へ― 山岡鉄舟らの軌跡―」開催（註1）に伴う、全生庵文書の悉皆調査によって得られた研究成果の一部である。

小野派一刀流は、徳川將軍家の劍術指南役の一流派である。伊藤一刀齋を師と仰ぐ初代小野次郎右衛門忠明が二代將軍徳川秀忠に仕えはじめ、徳川氏旗本として代々当主は次郎右衛門を襲名し、家紋は劍花菱であった。家禄ははじめ六〇〇石、寛永一〇年（一六三三）二月七日二〇〇石を増されて八〇〇石となった。

小野次郎右衛門家は、初代忠明（？生く寛永五年一月七日没）のあと、第二代忠常（？生く寛文五年二月六日没 家督は寛永五年一月七日頃く寛文五年二月六日、書院番士を経て小普請）、第三代忠於（寛永一七年生く正徳二年二月二十九日没 家督は寛文五年二月一日く正徳二年二月二十九日、書院番士・屋敷改・火事場目付・本所火事場目付を経て寄合）、第四代忠一（万治三年生く元文三年没 家督は正徳三年二月二十六日く元文三年五月三日、小性組番士・進物番・御腰物奉行・

御先鉄砲頭・御弓頭を経て寄合）、第五代忠方（正徳三年生く寛延二年一月十八日没 家督は元文三年五月三日く寛延二年一月十八日、小性組番士）と続いた。

そして、第六代忠喜は寛延二年（一七四九）二月二日家督を継承し、宝暦九年（一七五九）二月七日小性組番士、明和三年（一七六六）二月一日中奥番士、安永四年（一七七五）二月二日西丸徒頭、同七年閏七月二六日西丸目付、天明三年（一七八三）八月一日御先鉄砲頭に左遷され、同一〇年二月十七日御鑓奉行に転任したが、同年一月二十九日に死去した。第七代忠孝は寛政五年（一七九三）二月六日書院番士となり、同一〇年二月二十七日家督を継承した。その後、文政一年（一八二八）二月二日徒頭を経て、天保二年（一八四一）正月二十九日老衰につき辞職したとする。第八代忠貞は家督年未詳。はじめ書院番士、弘化三年（一八四六）西丸徒頭を経て、嘉永六年（一八五三）九月二十七日からは本丸徒頭をつとめた。安政二年（一八五五）頃も徒頭と見える^{＊1}。

この限りでも旗本家としては、御番入は小性組番士か書院番士を振り出しとする両御番の家格を誇り、順当にいけば徒頭か御先手頭に出世する大身千石クラス旗本の家柄であったことが判明する。なお、初代忠

明の弟忠也ただなりが別に忠也派ちゅうやをおこしている(註2)。

本稿で分析の対象とする門人帳当時の屋敷は江戸浜町・蛸殻町に所在し、「分限帳」記載当時の当主は(註3)第六代忠喜と第七代忠孝に相当する。將軍家による劍術の台覧は一代につき一度が恒例であり、第三代忠於は家宣在世の宝永七年(一七一〇)四月一日に、第四代忠一は吉宗在世の享保一年(一七二六)九月二日にあったが、第五代忠方は若年死亡によりその機会がなかった。第六代忠喜についても、寛政四年(一七九二)四月六日に「家の劍術秘事たるをもつて近侍するの臣のみその席に侍する事をゆるされ、伝ふる所の刀法残すことなく將軍(家齊)の台覧にそなふべきむね(せ) 仰下され、この日其術をつとめしにより、時服三領をたまふ」と、当時嫡男の忠孝も「父忠喜が劍術を台覧あるとき相手をつとめて時服二領をたまふ」とそれぞれ記される(註4)。このことは忠喜が小野派一刀流劍術の継承だけでなく、その普及にも熱心であり、「分限帳」の調製もその努力を反映するものであったと考えられる。

旗本家文書自体の伝存がきわめて少ないなかで、門人帳を含めた將軍家劍術指南役旗本家の劍術史関係の古文書が、たとえ少数ではあっても家譜類を含めて伝存していることは、類例をみない希有の事例である。

日本史学、とくに江戸時代史においては、実証的な劍術史研究は皆無に等しい状況にあった。たとえあったとしても、それは現在継承される「小野派一刀流」の流儀の基本理念、国家・自然観、道徳的・倫理的価値観、および作法・秘術という精神・行動・様式論に帰結する動機のもとでの諸研究の展開であるとみられる(註5)。

しかし、本稿は時期を江戸時代後半に限定した小野派一刀流門人の存在形態とそれから類推できる諸様相を分析対象とするものである。

一 小野派「一刀流劍術分限帳」全四巻について

(一) 分限帳の形態と翻刻

まず、この史料の基本的な記載事項について述べておきたい。その伝来は明治時代、小野派一刀流を継承して「無刀流」を創始した山岡鉄舟によって全生庵(東京都台東区谷中)に寄贈され、現在も同寺の所蔵に帰している。

史料表紙には「一刀流劍術 分限帳 壹」と記され、以下それぞれ「一刀流劍術 分限帳 貳」「一刀流劍術 分限帳 参」「一刀流劍術 分限帳 四」の全四巻からなる(五巻以下が存在したかどうかは未詳)。表紙・裏表紙ともに薄板を和紙で包んだ表紙にそれぞれ標題が墨書された、折本の形態である。ただし原本は剥離・展開が容易でなく、しかも虫損などの損傷を受けていたため、修補に伴う欠損も考慮して、剥離一丁ごとに画像撮影を行って保存し、同時に細心の注意を払いながら翻刻にもあった。

まず、その記載を巻頭から若干部分につき翻刻文で例示しておこう(文中の「」や□は主として虫損による欠損)。なお、以下においては、この史料を「分限帳」と略称したい。

(板表紙・和紙貼付造本、折本、寸法は縦300mm・横183mm前後)

(表紙)

「一刀流

分限帳 壹

劍術

(本文)

御門入明和元申年六月十九日

「」

御門入明和元申年六月十九日

御門入明和元申年六月十九日

西丸

御小性組式番

長「」

「」

「」目録寛政元酉年三月廿五日
仮名字目録寛政八辰年三月十日
皆伝寛政十一未年十一月十九日

宿所本郷御茶之水

御門入明和元申年七月廿四日

高六百石

松平伝三郎

御門入明和元申年七月廿九日

松平因幡守家来

山村小左衛門

御門入明和元申年七月廿九日

本間右源太

御門入明和元申年七月廿九日

成瀬城之助

御門入明和元申年七月廿九日

御門入明和元申年七月廿九日

御門入明和元申年七月廿九日

御門入明和元申年八月八日

久津見伊藤太

寺島又四郎家来

山口武兵衛

御門入明和元申年八月廿八日

岡部小左衛門家来

恩田八十次

御門入明和元申年八月廿八日

牧野兵部家来

加藤□之進

御門入明和元申年九月十九日

松平□之助家来

早野弥「」

御門入明和元申年九月廿三日

御勘定

美濃部恒太郎

十二ヶ条目録
仮名字目録天明「」年七月

高百五拾俵

御門入明和元申年十月廿三日

岡部内膳正家来

広野軍五郎

十二ヶ条目録
仮名字目録

皆伝「」

御門入明和二酉年正月十八日

長田「」進

御門入明和二酉年正月十八日

朝岡半蔵

御門入明和二酉年正月十八日

宇都平次郎

「」二酉年正月十八日

楠本弥市

御門入明和二酉年正月十八日

小川求馬

御門入明和二酉年四月廿八日

吉田喜太郎

御門入明和二酉年六月十日

水上九十九

御門入明和二酉年九月廿日

御徒頭

石河惣右衛門

宿所本所緑町

高五百五拾石

御門入明和二酉年九月廿九日

古谷逸平

御門入明和二酉年九月廿九日

細川口蔵

御門入明和二酉年十一月八日

松平和泉守家来

藤巻久次郎

御門入明和二酉年十一月十四日

田沼右衛門督家来

浅岡喜右衛門

(二) 分限帳の記載事項

この「分限帳」には序文・跋文・奥書や当主署名などは一切記されていない。したがって「分限帳」とはいえ、内容からすれば基本的に門人帳とする判断は妥当と思われる。本文には掲げたように、入門者一人ごとの氏名とその属性(出自・所属・身分・禄高・役職・居所)、および昇段履歴が記載されている。ただし、氏名の記載は江戸時代の身分序列を反映させたものであつて、大名・旗本とその子弟を基準として、大名家来(藩士)・旗本家来と内弟子の氏名はそれぞれ一文字を下げて書き始められ、しかもやや小さな文字で書かれている。

昇段履歴は、御門入・払捨刀・十二ヶ条目録・仮名字目録・皆伝・免状の順番となつている。入門者の属性としては、本人氏名に加えて幕府役職、当主との続柄(惣領・養子・次男・三男・四男・五男、次嫡・嫡孫、伯父・叔父など)、主人との続柄(家来)、ほかに内弟子が記載される。なお、すべてが有姓の門人であるが、続柄で「惣領」「次男」ではなく「伴」と書かれた人名は、次の七例に限られる。

兼松勘次郎 (兼松) 弥助伴

小山勝三郎 火之番 (小山) 直三郎伴 百俵・五人扶持

寺沢新五左衛門 (寺沢) 治部右衛門伴

二葉徳次郎 御玄関番 (二葉) 丈助伴

松崎長次郎 御畳方手代 (松崎) 六助伴

湯原数馬

(湯原) 栄庵伴

綿貫儀次郎

野馬掛 (綿貫) 夏右衛門伴

いずれも役職から判断して軽輩の者たちばかりであり、御目見え以下の御家人であったと推定される。その推定が妥当であれば、入門者は基本的に旗本と諸藩の藩主とその子弟・藩士に限られていたことの反映と考えられる、しかし、門人たちを厳密な意味で旗本と御家人に区別・確定することは困難である。ほかに、宿所(江戸屋敷)と禄高が記載される場合もある。

収録の期間は、明和元年(一七六四)六月一九日から天保四年(一八三三)四月七日である。しかし、そのうち途中の安永五年(一七七六)八月七日から同七年(一七七八)五月七日、および同七年八月二日から天明八年(一七八八)一月二日の約一二年五か月分が欠損し、実質は約七〇年間に限られる。その収録人数は欠損部分を除き一、〇五七人である。

なお、同姓同名が五人(奥新平・小侯新之丞・白井源助・松田進・森本六郎)収録されていた。これらは同一人物の再入門、襲名慣行による同一姓名、まったくの別人などと推測されるが、本稿では別々に集計した。また、この「分限帳」は墨書の筆致がほぼ一貫しており、七〇年という期間に順次追記されたというよりは、天保年間以降それも幕末の一時点において新規に調製されたもの、ないし門人帳原本の一括写本である可能性がある。

(三) 小野派一刀流の門人データ

「分限帳」には、「御門入」の年代順をもって順次氏名が記載されているが、第1表として掲げた小野派一刀流の門人データでは、一般的な検索の便宜を考慮して、氏名をおおむね五十音順に配列しなおした。

なお、表中の記載で「□」「」とした部分は虫損・剥離等による欠損文字である。また一般フォントに含まれない文字も「□」と表記した。たとえば、「□(金十失)」とあれば、□の文字は「鉄」、「□(サズイ十壽)」とあれば、□の文字は「濤」をあらわす。訓読には正確を期せなかったもので、音訓ともにあたりをつけてご活用いただきたい。また、「身分」欄の記載は筆者の造語であるほかは、すべて史料原本の記載をそのまま継承して反映させてある。

二 小野派一刀流入門者の年次別推移と昇段

(一) 入門者の年次的推移と寛政改革

第2表に掲げた通り、小野派一刀流門人で収録されているのは合計一、〇五七人であり、そのうち記載から判明する旗本とその家来は五六四人(五三・四%)、御家人は七人(〇・七%)、藩主とその子弟および藩士は二九四人(二七・八%)、未詳は一九二人(一八・二%)である。

第2表によれば、六二年間の年平均入門者は一七・〇四人、年最高は寛政五年(一七九三)の四九人、同二年の四三人、年最低は安永六年(一七七七)の零人であった。通期的にみれば、明和六年(一七九六)から安永四年(一七七五)、寛政元年(一七八九)から同九年(一七九七)、文化四年(一八〇七)から同十二年(一八一五)、文政五年(一八二二)から同一〇年(一八二七)に入門のピークがみとめられる。とりわけ寛政元年から同一二年は、わずか一二年間で三三一人が入門しており、これは入門者総数の実に三〇・三%にのぼっている。

この全体的推移と旗本・御家人の推移とを対照・比較するため、第2表には両者の人数を併記したが、そのうち後者が全体の半数以上を占め

第二表 入門者の年次的推移

	人 数	うち旗本関係
文化 元年	12	3
2 年	12	8
3 年	11	7
4 年	19	12
5 年	7	3
6 年	9	3
7 年	18	12
8 年	24	11
9 年	7	6
10 年	14	8
11 年	29	3
12 年	30	13
13 年	9	8
14 年	7	5
文政 元年	9	7
2 年	6	5
3 年	12	9
4 年	7	6
5 年	39	15
6 年	16	5
7 年	7	4
8 年	30	16
9 年	34	9
10 年	19	10
11 年	9	6
12 年	16	6
天保 元年	7	3
2 年	10	9
3 年	12	6
4 年	12	1

	人 数	うち旗本関係
明和 元年	18	7
2 年	13	1
3 年	9	2
4 年	2	0
5 年	13	7
6 年	17	1
7 年	34	8
8 年	20	3
安永 元年	20	7
2 年	14	2
3 年	23	8
4 年	17	6
5 年	10	2
6 年	0	0
7 年	15	13
天明 8 年	1	1
寛政 元年	32	17
2 年	43	31
3 年	30	24
4 年	39	33
5 年	49	39
6 年	5	3
7 年	39	30
8 年	16	15
9 年	34	17
10 年	7	7
11 年	17	15
12 年	10	9
13 年	3	3
享和 元年	13	10
2 年	22	13
3 年	19	9

た場合については太字で示した。そうすると、小野派一刀流が將軍家の
 剣術指南であるからといって、記録の始期である明和元年から安永六年
 までの一四年間は、旗本らの入門者数とその平均割合はけっして高くは
 なかった(平均三・九人、全体の平均占有率二五・七%)。それが、安永

七年(一七七八)になると旗本・御家人の入門人数が半数以上を占めは
 じめ、以降その傾向が続くこととなっている。これはとりもおさず、
 旗本・御家人の入門者の増加が全体の増加となつて表れていることと判
 断される。

したがって、入門者の急激な増加は、幕府の寛政改革による文武振興政策と大きな関連があるとみられ、入門者の激増は、当時の幕政の動向に左右されたものと推定される。

(二) 入門の目次

なお、入門の日には概して一定しなかったが（占ったり、陰陽道による吉日を選んだことであろう）、毎月二・七・九のつく日が多かったことが判明する。

(三) 昇段年数の実際と入門しただけの者たち

第1表に見られるように、本人の力量と意志、および昇段をとりまく諸環境が整えば、だいたい入門一年以内に「払捨刀」と「十二ヶ条目録」の取得は可能であったことが判明する。しかし、それ以上の昇段は一定程度の年数を必要としていた。

第3表は皆伝・免許者の一覧である。それによれば、極位の「免状」へ到達するには、入門からもっとも速かった酒井松之丞（敦賀藩主惣領）であっても足かけ二四年、もっとも遅かった鈴木平之丞（田辺藩士）は四三年と大きな年数幅があるが、平均としては二九・六年の期間を必要としていた。

「皆伝」は同様に、入門からもっとも早かったのが那須八郎左衛門（人吉藩士）の四年、それに続くのが大村藩士であった沢勢敬助（大村藩士）と富永小太郎の八年であった。もっとも遅いのが禄高六〇〇石の旗本某（虫損による欠損）の三六年とやはり年数幅があり、平均としては二〇年であった。

「仮名字目録」は同様に、入門からもっとも早かったのが田中吉蔵・芦屋五郎三郎（ともに旗本）の七年、それに続くのが平岩与次右衛門（旗

本）・依田茂八郎（旗本惣領）・酒井忠象（敦賀藩主次男）の八年であった。もっとも遅いのが飯河保之助（旗本弟）の二五年とやはり年数幅があり、平均としては一一・七年であった。

次に、継続率という観点にたつて検討してみたい。入門はしたが、昇段しなかった者を対象としたのである。その実数は入門者総数一、〇五七人のうち、実に八四五人（七九・九％）にのぼってるからである。これは昇段がひじょうに困難であったことを示唆する可能性もあるが、他方で入門者に昇段する意欲がそもそもなかったり（入門は履歴搭載するための方便か）、昇段のための外的な環境が整わなかった（付度や諸入用負担による昇段辞退か）という可能性もある。統計だけを根拠する場合、これ以上は不毛な議論となるので慎みたい。

総数の内訳は、旗本・御家人関係は四二五人（四〇・二％）、藩（大名）関係は二四三人（二三・〇％）、未詳は一七七人（二六・八％）となっている。それぞれを入門者数の内訳で表示すれば、旗本・御家人関係は五七一人、藩関係は二九四人となり、前者が後者に占める割合は、旗本・御家人が七四・四％、藩関係が八二・六％であり、藩関係の方が若干高かった。

入門者の継続状況は、「分限帳」では昇段した者だけにつき一定程度判明するが、入門しただけの者のそれ以降の動向については、まったく手がかりがない。

(四) 昇段の目次

なお、昇段の日には概して一定しなかったが、「払捨刀」と「十二ヶ条目録」については、毎月二〇日が多かったことが判明する。それより上位の「仮名字目録」・「皆伝」・「免状」については、まったく日にちが一定しなかった。

第三表 小野派一刀流 皆伝・免許者

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	捨捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状	到達年数
四三	万年三郎次郎 久昌卜改	四百俵	旗本	西丸御小性	免許(免状)	明和五年正月八日	安永五年六月二十日	天明四年二月	天明四年十一月	天明五年五月	未記載	未詳
七八七	鈴木平之丞		丹後国田辺藩士	牧野豊前守家来	免状	文化十二年三月十九日	文政三年六月二十日	文政四年六月二十八日	文政九年四月十日	天保九年八月十八日	安政四年十一月十四日	43
九〇〇	常井祥助		肥前国大村藩士	大村上総介(純昌)家来	免状	文政六年七月二十五日	未記載	文政十二年八月二十五日	文政十三年十月二十七日	天保三年閏十一月十一日	弘化四年四月十四日	25
九四二	黒川与次郎		旗本惣領	御小納戸(黒川)内匠惣領	免状	文政九年正月二十二日	文政十年十一月二十日	天保二年九月二十日	天保七年九月二十日	弘化二年六月三日	嘉永五年十二月十九日	27
九五二	高根金弥		秋田藩士	右同人(佐竹右京大夫義厚)家来	免状	文政九年	文政十三寅年九月二十日	文政十三年十月六日	天保三年閏十一月十一日	弘化二年四月二十一日	嘉永七年十二月十一日	29
一〇〇七	酒井松之丞		越前国敦賀藩主惣領	大坂御城番(酒井)飛騨守惣領 改右京亮	免状	文政十二年六月十六日	天保五年午年四月二十六日	天保六年九月十一日	天保七年五月十一日	天保十二年十月十八日	嘉永五年九月朔日	24
五	未詳(欠損)	六百石	旗本		皆伝	「明和元年」	未詳(欠損)	寛政元年三月二十五日	寛政八年三月十日	寛政十一年十一月十九日		36
一八	広野軍五郎		和泉国岸和田藩士	岡部内膳正(長住)家来	皆伝	明和元年十月二十三日	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未詳
七八	平野六右衛門 牛歩卜改		下野国烏山藩士	大久保山城守(忠卿)家来	皆伝	明和七年二月二十九日	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未詳
八四	寺田勘兵衛		未詳	未記載	皆伝	明和七年四月九日	天明四年	未記載	天明五年三月十二日	未記載	未記載	21
二三四	米田久次郎 太夫卜改	百俵	旗本	一ツ橋御用人	皆伝	寛政元年三月二十七日	寛政十二年十一月六日	未記載	享和三年十二月二十二日	文化四年十二月十五日		19
四八五	松田進		肥前国大村藩士	大村信濃守家来	皆伝	寛政九年正月二十二日	寛政十年四月二十五日	寛政十年四月二十五日	寛政十一年二月二十七日	未記載	未記載	未詳
五二四	沢勢敬助		肥前国大村藩士	大村信濃守家来	皆伝	寛政十一年正月七日	未記載	享和元年十二月二十三日	享和二年十月二十八日	文化三年五月四日		8
五二八	佐竹鼎		旗本次男	(佐竹)左近次男	皆伝	享和二年正月七日	享和三年二月十一日	文化元年五月十日	文政六年十二月二十日	文政十二年四月四日		31
五六四	榊織部	七百石	旗本	御書院番	皆伝	享和二年八月七日	文化二年二月二十日	文化八年十二月七日	文政二年四月十六日	天保三年閏十一月十一日		31
五七七	内藤新太郎死	百五拾俵	旗本	御小性組	皆伝	享和二年八月二十二日	文化二年十一月二十日	文化四年十二月十五日	文化十二年十月六日	文政五年五月六日		21
七三四	那須八郎左衛門		肥後国入吉藩士	相良志摩守(頼徳)家来	皆伝	文化十年七月六日	文化十一年十二月	文化十二年四月四日	文化十三年四月四日	文化十四年三月十日		4
七三八	杉浦鉄吉		旗本養子	西丸御小性組(杉浦)大輔養子	皆伝	文化十一年正月七日	文政六年十二月	未記載	文政九年十二月	天保三年十一月十一日		19
七六五	富永小太郎		肥前国大村藩士	大村信濃守家来	皆伝	文化十一年八月十八日	文化九年十一月二十日	未記載	文化十二年五月晦日	文政四年十月二十五日		8
八四一	服部駒之助		旗本惣領	御書院番(服部)剛次郎惣領	皆伝	文政四年八月二十二日	文政七年三月二十日	文政八年七月二十四日	天保二年九月二十日	天保十二年八月九日		21
九〇八	佐竹右京大夫		秋田藩主佐竹義厚	未記載	皆伝	文政七年九月十四日	文政十一年二月十九日	文政九年二月四日	天保七年九月二日	弘化二年四月二十八日		22
九二一	吉川武左衛門		肥前国大村藩士	大村丹波守(純昌)家来	皆伝	文政八年二月十二日	未記載	文政九年二月六日	天保三年閏十一月十一日	天保十二年閏正月二十一日		17
一〇〇〇	那須六郎左衛門		肥後国入吉藩士	相良志摩守(頼之)家来	皆伝	文政十一年十月二十二日	文政十二年寅年九月二十日	文政十三年十月六日	天保八年四月二十五日	弘化五年三月二十九日		18
一〇一一	加藤兵次郎		越前国敦賀藩士	右同人(酒井飛騨守)家来	皆伝	文政十二年六月十六日	天保七年申年十一月二十日	天保八年四月十八日	天保十三年九月二十三日	弘化五年三月十四日		20
一〇三二	永野佐五右衛門		对馬藩士	宗对馬守家来	皆伝	天保二年八月七日	未記載	天保十二年八月二十五日	嘉永三年三月十九日	嘉永七年十一月十九日		24

三 旗本・御家人の入門者

(一) 昇段者

旗本とその家来の合計は五六二人、うち昇段は「払捨刀」四人、「十二ヶ条目録」九五入、「仮名字目録」二四人、「皆伝」七人、「免許」二人、「替流断」(他流派へ転身)一四人、ほかに御家人が五人いた(昇段者なし)。

第3表によれば旗本で「免許」を取得したのは、西丸小性をつとめる禄高四〇〇俵の万年三郎次郎(久昌と改め)、小納戸(黒川)内匠の惣領黒川与次郎であった。「皆伝」は同様に禄高六〇〇石の某(虫損欠損)、一ツ橋御用人をつとめる米田久次郎(吉太夫と改め)、(佐竹)左近の次男佐竹鼎、書院番士をつとめる禄高七〇〇石の榊織部、小性組番士をつとめる禄高一五〇俵の内藤新太郎、西丸小性組番士(杉浦)大輔の養子杉浦鉄吉、書院番士(服部)剛次郎の惣領服部駒之助、小納戸(黒川)内匠の惣領黒川与次郎であった。

(二) 内弟子

「御内弟子」としては、寛政二年(一七九〇)入門の栗原善蔵・飯塚半蔵が初見である。つづいて、同三年入門の高橋宜蔵・田村貢が、同六年入門の向井幸蔵・高口(槌?)仙蔵が、同七年入門の黒川政之進・佐藤庄八、同九年入門の大久保新十郎、享和二年(一八〇二)入門の行木新左衛門が、文化元年(一八〇四)入門の堀内久甫が、同七年入門の西村正吉が見え、その合計は十二人にのぼった。しかし、いずれもその出自と稽古在任期間は未詳であり、昇段者は「十二ヶ条目録」の田村貢のみにとどまっていた。「内弟子」が登場することと、入門者の急増は密接な関連があると予見される。

(三) 交代寄合・寄合

また、すべてを網羅するものではないが、入門者には参勤交代する交代寄合や大身の寄合旗本が多く見受けられるのが特徴となっている。

「分限帳」に明記してある交代寄合の子弟・家来は、榊原越中守家来(安西四郎次・五十川矢柄・斎藤一次郎・高尾政五郎・高尾登・津村男成・野本金十郎・藤本万之助)、最上監物惣領(最上鉄五郎)・那須与市だけである。しかし、そのほかに伊東(伊藤)山城守(五千石)・大岡伊織(五千石)・大久保外記・加藤平内・佐野右兵衛尉(四千石)・藤堂栄次郎(千石)・中山助六郎(三千石)・能勢筑前守(四千石)・松平小豊次(三千石)なども交代寄合であった可能性がある。

四 諸藩の入門者

(一) 諸藩の分布

入門者を出身藩でみると、通期的には以下に掲げたとおり、全国三九藩(陸五・出羽三・下野二・常陸二・下総一・安房一・武蔵一・相模一・三河三・美濃一・伊勢一・紀伊一・越後二・越前二・丹後一・和泉一・播磨二・安芸一・因幡一・出雲二・石見一・肥前二・肥後一・対馬一)に分布する。なかでも次の諸藩は断続的に入門者を送っていることが判明する。

陸奥国弘前藩(藩主津軽氏)

七人

(うち一人は藩主津軽越中守寧親、四人は家老大道寺内蔵助関係)

陸奥国仙台藩(藩主伊達氏)

一人

陸奥国白河藩(藩主松平氏)

一人

陸奥国会津藩 (藩主松平氏)	二人
陸奥国二本松藩 (藩主丹羽氏)	九人
(うち一人は藩主丹羽加賀守長貴)	
出羽国山形藩 (藩主秋元氏)	四人
出羽国秋田藩 (藩主佐竹氏)	四六人
(うち二人は藩主佐竹右京大夫義厚とその弟佐竹豊前)	
出羽国上山藩 (藩主松平氏)	六人
下野国烏山藩 (藩主大久保氏)	三三人
下野国足利藩 (藩主戸田氏)	一人
常陸国麻生藩 (藩主新庄氏)	一〇人
常陸国笠間藩 (藩主牧野氏)	三人
下総国関宿藩 (藩主久世氏)	三人
安房国北条藩 (藩主水野氏)	一人
武蔵国岩槻藩 (藩主大岡氏)	一人
相模国相良藩 (藩主田沼氏)	一人
三河国吉田藩 (藩主松平氏)	八人
三河国田原藩 (藩主三宅氏)	一人
三河国西尾藩 (藩主松平氏)	二人
美濃国大垣藩 (藩主戸田氏)	一人
伊勢国神戸藩 (藩主本多氏)	一人
紀伊国紀伊藩 (藩主徳川氏)	八人
越後国新発田藩 (藩主溝口氏)	一人
越後国村上藩 (藩主内藤氏)	一人
越前国鯖江藩 (藩主間部氏)	一人
越前国敦賀藩 (藩主酒井氏)	二三人
(うち二人は藩主惣領とその弟)	

丹後国田辺藩 (藩主牧野氏)	六八人
和泉国岸和田藩 (藩主岡部氏)	六人
播磨国赤穂藩 (藩主森氏)	一人
播磨国三草藩 (藩主丹羽氏)	一人
安芸国広島藩 (藩主浅野氏)	三人
因幡国鳥取藩 (藩主池田氏)	一人
出雲国広瀬藩 (藩主松平氏)	二人 (うち一人は藩主弟)
出雲国松江藩 (藩主松平氏)	一人 (藩主弟三助)
石見国津和野 (藩主亀井氏)	三人
肥前国島原藩 (藩主松平氏)	一人
肥前国大村藩 (藩主大村氏)	二二人
肥後国吉藩 (藩主相良氏)	五人
対馬国対馬藩 (藩主対馬氏)	四人

(二) 昇段者 ― 秋田藩主佐竹義厚は皆伝の大名 ―

その合計は二九四人であったが、うち昇段は「払捨刀」二人、「十二ヶ条目録」三〇人、「仮名字目録」三人、「皆伝」一人、「免状(免許)」四人、「替流断」(多流派へ転身) 一人であった。

そのなかに「皆伝」の大名(藩主)として、秋田藩主佐竹右京大夫義厚(文政七年入門、弘化二年皆伝)が見えることが注目される。

(三) 個別諸藩の動向

以下、個別に検討していきたい。まず、丹後国田辺藩(藩主牧野氏)は合計六八人の入門者があり、諸藩の群を抜いている。「分限帳」の範囲では文化一〇年(一八一三)の渥美鎌蔵が初見であり、同一一年二三人、同一二年一人、文政六年(一八二三)七人、同八年四人、同九年

五人、同一〇年九人という大量の入門者を送っている。

このなかには藩主牧野豊前守以成の弟春之助が文化十一年(一八一四)に入門し、同一三年には「十二ヶ条目録」を取得している。藩士のなかにも鈴木平之丞が文政三年(一八二〇)に入門し、安政四年(一八五七)に「免状」を取得したのをはじめ、「十二ヶ条目録」を取得した者が六人(大羽半助・滝口武右衛門・関重次兵衛・坂寄道次郎・佐幸田武助・中川小一郎)であった。田辺藩では藩をあげての剣術振興があったと予想され、数值的にも小野派一刀流の大きな発展の様相がみてとれる。

出羽国秋田藩(藩主佐竹氏) 入門合計は四六人である。寛政元年(一七八九)の奥山老三郎が初見であり、以後は文政五年(一八二二)一六人、同八年五人、同九年一六人の入門者を送っている。その間、藩主佐竹右京大夫義厚が文政七年に入門し、弘化二年(一八四五)「皆伝」を果たしている。その弟佐竹豊前も文政八年(一八二五)に入門し、天保元年(一八三〇)「十二ヶ条目録」を取得している。

秋田藩では藩士のなかにも高橋金弥が文政九年(一八二六)に入門し、嘉永七年(一八五四)「免状」を取得したのをはじめ、「十二ヶ条目録」は四人(高瀬伝蔵・安田敬蔵・小林与三郎・介川亀次)にのぼっている。秋田藩における小野派一刀流の大きな発展の様相が推測される。

下野国烏山藩(藩主大久保氏) 入門合計は三三人である。そのうち明和七年(一七七〇)四人、寛政元年(一七八九)九人、同九年一二人という集中的な入門者を送っている。明和七年に入門した平野六右衛門(のち牛歩)は寛政三年以降に「皆伝」となっており、寛政九年に入門した大塚孫八郎は、文化七年(一八一〇)「十二ヶ条目録」を取得している。藩主家の介在はなく、平野六右衛門の個人的な入門と普及活動が背景にあったと予想される。

越前国敦賀藩(藩主酒井氏) 入門合計は二二人である。その初見は

文政一二年(一八二九)の藩主酒井飛驒守(忠盡)惣領の松之丞・右京亮の入門であり、同人は嘉永五年(一八五二)には「免状」を取得している。同時期に入門したその弟(次男)忠象も、天保七年(一八三六)に「仮名字目録」を取得している。

入門者のピークは文政一二年(一八二九)九人、天保四年(一八三三)の一人であり、藩士のなかでは加藤兵次郎が天保七年に入門して、弘化五年(一八四八)に「皆伝」を果たし、「十二ヶ条目録」の取得者も二人(加藤兵次郎・井沢喜右衛門)であった。

肥前国大村藩(藩主大村氏) 入門合計は二二人である。寛政二年(一七九〇)黒坂新左衛門・佐藤雄之助を初見とするコンスタントな入門であり、文政六年(一八二三)入門の常井祥助が弘化四年(一八四七)に「免状」を取得している。また、寛政一一年入門の沢勢敬助が文化三年に、文化一一年入門の富永小太郎が文政四年(一八二二)に、文政八年入門の吉川武左衛門が天保一二年(一八四二)に、それぞれ「皆伝」を取得したのをはじめ、「仮名字目録」は二人(松田進・江頭晋太郎)、「十二ヶ条目録」は七人(森左右多・土屋右源太・松田寛左衛門・井村勘十郎・中村正助・原重太郎・宇都小十郎)にのぼった。

常陸国麻生藩(藩主新庄氏) 入門合計は一〇人である。明和五年(一七七八)入門の河田伊三郎を初見として、明和六年二人、安永四年(一七七五)一人、寛政五年(一七九三)三人が入門している。寛政五年に入門した三好孫惣は享和元年(一八〇一)「十二ヶ条目録」を取得している。

陸奥国二本松藩(藩主丹羽氏) 入門合計は九人である。初見の入門者年次は文化六年(一八〇九)の五人であった。そのうち一人は丹羽加賀守長貴という藩主本人であり、同人は藩士二人(戸城伝左衛門・神田求馬)とともに文化八年に「十二ヶ条目録」を取得している。文化八年

にも入門者を三人送っている。

三河国吉田藩（藩主松平氏） 入門合計は八人である。入門者は享和元年（一八〇一）の間瀬木五太夫が初見であり、同人は文化元年（一八〇四）「十二ヶ条目録」を取得している。入門者は、享和二年二人、同三年五人となっている。

紀伊国紀伊藩（藩主徳川氏）は合計八人であり、寛政二年（一七九〇）の筒井松之丞ら五人が初見であり、以後文政六年（一八二二）までに三人が入門した。そのうち寛政二年入門の牧弥藤次は年未詳であるが、文政六年入門の後藤孫三郎は天保三年（一八三二）に、それぞれ「扨捨刀」を取得した。

陸奥国弘前藩（藩主津軽氏） 入門合計は七人である。初見は安永三年（一七七四）の木島嘉兵衛と絹笠音吉であり、うち四人は同藩家老大道寺内蔵助の弟と家来が占めている。大道寺助四郎は寛政五年（一七九三）入門し、同二年「十二ヶ条目録」を取得している。

また、藩主津軽越中守が文化八年に入門し、文政二年（一八一九）「仮名字目録」を取得していることが注目される。

出羽国上山藩（藩主松平氏） 入門合計は六人である。文化一四年（一八一七）入門の金田極太を初見として、文政八年（一八二五）には藩主松平中務少輔信行の惣領三郎太郎が藩士長谷川輪平・中村才次とともに入門している。

和泉国岸和田藩（藩主岡部氏） 入門合計は六人である。明和元年（一七六四）広野軍五郎の入門を初見とする。同人は年未詳だが、「皆伝」を果たしている。

肥後国吉藩士（藩主相良氏） 入門合計は五人である。寛政五年（一七九三）の阿川三太左衛門を初見とする。文化一〇年（一八一三）に入門した那須八郎左衛門が同一四年に、文政二年（一八二八）入門

の那須六郎左衛門が弘化二年（一八四五）に、それぞれ「皆伝」を果たしている。

このほかにも藩主子弟の門人として、松江藩主松平出羽守治郷の弟三助が寛政七年（一七九五）に入門し、同一〇年に「十二ヶ条目録」を、出雲国広瀬藩主の三男真次郎が寛政七年に入門し、享和元年（一八〇一）にやはり「十二ヶ条目録」を取得していることが判明する。

なお、親藩御三家のうちで尾張藩はまったく、水戸藩は一人しか門人がいないのは、それぞれの藩が別の指南流派を指定していたからだと思われる。

流派の振興・拡大や地方伝播については、藩主や交代寄合当主の個人的な嗜好に藩士や家来が大きな影響を受けたであろうことは容易に推測されるが、逆に藩士や家来の自発的入門が藩主や旗本主人を啓発したこともあったであろう。諸藩の藩主・藩士や交代寄合の旗本は、基本的には江戸在勤中に小野家の道場に入門して稽古に励み、帰国後にあっては在所に道場を創設するなどして流派の振興に尽力し、これがひいては小野派一刀流の地方伝播・普及、および門人獲得に大きく貢献することになったと予想される。

おわりに

以上、この史料を使った今後の史実検討や研究発表が、いずれ日本近世剣術史の研究に新たな機運をもたらすという（研究深化の起爆剤）、それほどの可能性を秘めた史料が「分限帳」であると痛感する。主として時代小説で描かれてきた通俗の虚像とは一線を画した、將軍家剣術指南役のもとでの門人実像（史実）の一端が明らかにできるからである。

門人の氏名とその情報をすべて明示したことで、寡聞な筆者には予想もなかった門人に、劍客としての脚光が将来あたることなどがあるならば、それだけで望外の仕合わせと思う。そのような興味つきない、知的好奇心を満たしてくれる楽しみが、この「分限帳」にはいっぱい詰まっているのである。小野派一刀流の諸藩への普及についても、関係する自治体史などでいちいち照合すべきであるが、その研究の楽しみは今後同好の課題としたい。

全生庵に伝来した劍術関係文書(註6)は、一門の小野朝右衛門家や山岡家などの家譜類や若干の個別文書を含み、当主・一門の動向の一端を史実として押さえることができるのも特徴となっている。また、「御殿」劍術とも揶揄されがちな武家高位者に普及した劍術と、天然理心流・北辰一刀流など実践的で庶民にも開放された「町道場」劍術との比較・検討をする際には(註7)、従来の研究史にいくつかの新たな切り込みができるものと期待される。

博物館・歴史館など歴史系展示施設にとつては、たんなる刀劍陳列にとどまらず、データベースなどの活用によって、多くの立体的な図表類をつくることができ、展示企画・研究内容の可視化と展示のビジュアル化をいっそう推進するものとなる。

なお、次郎右衛門家・朝右衛門家の当主とその周辺についての考察は、史料環境がまだ整備しておらず、今はその発表は時期尚早と判断されるため、今後の研究者の課題としておきたい。

註

1 『日野市立新選組のふるさと歴史館叢書』第一四輯(二〇一六年同館

製作・日野市発行)に収録。

2 『新訂寛政重修諸家譜』第一五(一九六五年続群書類従完成会、六〇〇六二頁)、小川恭一『寛政譜以降 旗本家百家事典』第一卷(一九九七年東洋書林、七三八頁)、進士慶幹「旗本一覽」(『読史総覧』一九六六年人物往来社、一五七頁)。

3 前掲「旗本一覽」によれば、文政年間頃の当主は小野忠孝、通称は次郎右衛門、書院番士をつとめる禄高八〇〇石の旗本で、屋敷は浜町と蛸殻町と見える。

4 前掲『新訂寛政重修諸家譜』第一五。

5 そのような近年の研究としては、吉田鞆男「小野派一刀流について—小野家伝書(春風館文庫)と津軽家伝書からうかがえる流儀の刀法とその意思及び無刀流への継承に関する一考察」(平成一九年度のプロジェクト研究)、魚住孝至・吉田鞆男・大保木輝雄・仙土克博・田中守・立木幸敏・朴周鳳「武道文化の展開—流派劍術から擊劍、近代劍道へ」(『武道・スポーツ科学研究』第一三三号、二〇〇七年国際武道大学)、吉田鞆男「小野派一刀流における五点の意義」(『武道学研究』第二六号、一九九三年日本武道学会)、吉田鞆男「小野家伝書に見る、切落し」の仕様—特に組太刀全体における位置づけ—(『武道学研究』第二五号、一九九二年日本武道学会)、佐瀬霞山「武道と禅 小野派一刀流と劍道について」(『禅』第三七号、二〇一二年人間禅出版部)、立木幸敏「小野派一刀流における「切落」の由来について—「三重」および「五点」を参考に—」(『国際武道大学研究紀要』第三二号、二〇一六年国際武道大学研究紀要)、清野武治「小野派一刀流の特質」(『武道学研究』第二卷第二号、一九七〇年日本武道学会)などがある。

6 全生庵文書のうち劍術関係文書については、筆者も分担執筆した日

野市立新選組のふるさと歴史館製作『特別展 幕臣尊攘派―浪士組から江戸開城へ―山岡鉄舟らの軌跡―』（東京都日野市立新選組のふるさと歴史館叢書第一四輯、二〇一六年日野市発行・有償頒布）を参照されたい。

7 拙著『増補改訂版 井上源三郎資料館所蔵 新選組・八王子千人同心関係資料集』（井上源三郎資料館研究集録第二冊）二〇一七年、六八〜七二頁）において、著者も天然理心流印可の訓読を試みていたが、残念ながら奥深い内容解説には及んでいない。

【付記】

本稿校正中に、念のためウェブで小野派一刀流を検索してみたところ、ヤフーオークションで小野派一刀流宗家の享和元年（一八〇一）二月二日付「二刀流兵法十二ヶ条」目録が出品されていた。その発給者は「御書院番小野次郎右衛門忠孝（花押・朱印）」であり、宛所には「三好孫惣との」とあった（二〇二五年三月二十五日終了のヤフーオークション、ID：f11763252020）。この文書は掲示された画像から、書式・筆致などを勘案して、正式・真正な目録と判断された。敬称が「殿・様・さま」付ではなく、「との」付であり、年月日に対してどの位置に姓名が認めはじめられるかなど、ほかの目録との比較・検討が望まれる。

本稿で分析対象とした分限帳においては、記載順位四一〇の三好孫惣まじぞうの十二ヶ条目録取得年月日が享和元年二月二日とされており、その記載と合致している。すなわち、三好孫惣は御門入の寛政五年（一七九三）八月二十七日当時は常陸国麻生藩一万石の藩士（藩主は新庄（越前守）駿河守直侯、居所は現茨城県行方市麻生）であり、同藩士として享和元年二月二日に十二ヶ条目録を取得したことが確定できた。麻生藩で入門した藩士一〇人のなかでは、唯一の十二ヶ条目録取得者であった。

また後日、小野派一刀流関係の史料（古文書）は、金沢市立玉川図書館近世史料館、国文学研究資料館所蔵の「陸奥国弘前津軽家文書」などに伝存していること、最近の刊本として一般財団法人禮樂堂『小野一刀流宗家所蔵刀剣文書集』（二〇二三年八月発行、A4判、カラー五二頁）があることが判明した。ともにその検討については、今後の課題としておきたい。

第一表 小野派一刀流の門人データ

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
六九	相沢糸八		未詳		御門入	明和六丑年九月四日					
四六八	青木熊次郎	貳千石余	旗本養子	西丸御小性組 (青木) 久右衛門養子	十二ヶ条目録	寛政八辰年三月十日	未記載	寛政十二申年四月十二日			
一七九	青木作左衛門		下野国烏山藩士	大久保山城守家来	御門入	安永三年八月廿二日					
八〇四	青山勘六死		播磨国赤穂藩士	森越中守 (忠敬) 家来	御門入	文化十三年四月廿七日					
九二〇	青山三右衛門		旗本	御書院番	払捨刀	文政八酉年二月十二日	文政十亥年十一月廿日				
六二三	赤堀清助		旗本家来	溝口駒之助家来	十二ヶ条目録	文化二丑年二月七日	文化四卯年三月廿日	文化四卯年十月十五日			
六七九	赤堀藤助		旗本家来	溝口駒之助家来	御門入	文化七年二月十一日					
六二一	赤堀徳兵衛		旗本家来	溝口駒之助家来	十二ヶ条目録	文化二丑年二月七日	文化五辰年五月廿日	文化五辰年初月廿八日			
四〇四	阿川三太左衛門		肥後国人吉藩士	相良老岐守 (頼之) 家来	御門入	寛政五丑年五月十五日					
五九五	秋山恵一郎		三河国吉田藩士	松平伊豆守家来	御門入	享和三亥年五月廿二日					
三〇	浅岡喜右衛門		大名家来 (のち相良藩士)	田沼右衛門督 (意次) 家来	御門入	明和二酉年十一月十四日					
二十	朝岡半蔵		未詳		御門入	明和二酉年正月十八日					
四〇六	浅尾当太郎		未詳		御門入	寛政五丑年六月二日					
二七六	朝倉政右衛門		旗本家来	同人 (能勢筑前守) 家来	御門入	寛政二戌年五月廿八日					
四五一	浅野鉄之丞		旗本	小普請組	御門入	寛政七卯年十月十八日					
七三一	浅見三弥		陸奥国二本松藩士	丹羽加賀守 (長祥) 家来	御門入	文化十酉年正月廿六日					
七二二	芦屋 □		旗本四男	西丸奥御右筆 源五右衛門四男 (芦屋)	十二ヶ条目録	文化九申年十月七日	文化十三年八月廿日	文政元寅年十月廿五日			
一〇二九	芦屋磯吉		旗本五男	西丸御右筆組頭 源五右衛門五男 (芦屋)	御門入	天保二卯年三月十二日					
一〇二八	芦屋郡次郎		旗本	御小性組	御門入	天保二卯年三月十二日					
五五二	芦屋五郎三郎		旗本	御小性組	仮名字目録	享和元酉年二月廿二日			文化四卯年十月十五日		
六七五	芦屋巳之助死		旗本三男	西丸奥御右筆 (芦屋) 源五右衛門三男	十二ヶ条目録	文化七年正月廿二日	文化十酉年四月廿日	文化十一戌年十二月七日			
六八八	東 倩太郎		旗本家来	右同人 (能勢熊之助) 家来	御門入	文化七年七月五日					
二七三	東 多宮		旗本家来	能勢筑前守家来	御門入	寛政二戌年五月廿八日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
七三七	渥美鎌蔵		丹後国田辺藩士	牧野豊前守(以成) 家来	御門入	文化十酉年十月十九日					
九七二	渥美吉平		丹後国田辺藩士	牧野山城守家来	御門入	文政九戌年十一月廿七日					
四一	阿部左門		未詳		御門入	明和四亥年八月十九日					
二一九	綾部勇八		旗本家来	村瀬伊左衛門家来	御門入	安永七戌年六月廿二日					
三二〇	新井金左衛門		旗本家来	松平左源次家来	御門入	寛政三亥年六月廿二日					
七六三	新井敬助		丹後国田辺藩士	牧野豊前守家来	御門入	文化十一戌年八月十八日					
九五	荒井定		未詳		御門入	明和七寅年八月九日					
一二二	阿良賀東馬		未詳		御門入	明和八卯年九月十四日					
三三七	安西四郎次		旗本(交代寄合)	同人(榊原越中守) 家来	御門入	寛政四子年正月廿二日					
九〇三	安藤鏝蔵		旗本次男	諏訪部□(サンズイ+文九郎次男)	十二ヶ条目録	文政七申年正月廿二日	文政十三寅年九月廿日	天保二卯年九月廿日			
一〇五六	安藤喜八		越前国敦賀藩士	酒井飛騨守家来	御門入	天保四巳年三月廿一日					
一〇一	飯河新右衛門	七百石	旗本	御書院番	御門入	明和七寅年九月一〇日					
五二三	飯河新十郎		旗本次男	(飯河) 新右衛門次男	御門入	寛政十一未年正月七日					
四二五	飯河頼母	七百石	旗本惣領	西丸御書院番 (飯河) 新右衛門惣領	御門入	寛政七卯年正月七日					
四二六	飯河茂吉		旗本次男	(飯河) 新右衛門次男	御門入	寛政七卯年正月七日					
一一〇	飯河保之助死		旗本弟	(飯河) 新右衛門弟 西丸御書院番	仮名字目録	明和八卯年二月九日	天明四辰年三月十二日	未記載	寛政七卯年八月十五日		
八二四	飯田万吉		旗本家来	右同人(室賀兵庫) 家来	御門入	文政二卯年二月廿二日					
一〇四三	飯田勇次郎		石見国津和野藩士	亀井大隅守(茲方) 家来	御門入	天保三辰年十一月十三日					
九五八	飯塚伝也		秋田藩士	右同人(佐竹右京大夫義厚) 家来	御門入	文政九戌年					
三〇〇	飯塚半蔵		未詳	御内弟子	御門入	寛政二戌年十月廿七日					
三六	五十嵐市五郎	四百俵	旗本	御小性組四番	御門入	明和三成年五月廿日					
四六一	五十嵐千之丞		旗本	小普請組	御門入	寛政七卯年閏十一月廿八日					
五八五	五十嵐長之助		旗本弟	(五十嵐) 岩五郎弟	十二ヶ条目録	享和二戌年十一月廿七日	文化五丑年十一月廿日	文化四卯年十二月十五日			

記載順	氏名	禄高	身分	主家・統柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
三三六	五十川矢柄		旗本(交代寄合)	同人(榑原越中守)家来	御門入	寛政四子年正月廿二日					
一六八	伊勢二三太		未詳		御門入	安永三年五月廿七日					
六五九	石原忠蔵		旗本家来	溝口駒之助家来	御門入	文化五年正月廿九日					
七六六	石原久助		秋田藩士	佐竹右京大夫(義厚)家来	御門入	文化十一年八月十八日					
六七二	石原卯之助		旗本家来	溝口駒之助家来	御門入	文化六年四月十二日					
八四九	石黒祐助		秋田藩士	佐竹右京大夫(義厚)家来	御門入	文政五年正月廿八日					
四三二	石谷十蔵	式千五百石	旗本	小普請組	十二ヶ条目録	寛政七卯年二月廿日	寛政九巳年三月廿日	寛政十年年正月七日			
二二五	石川 亘		旗本家来	黒川近江守家来	御門入	安永七年八月十二日					
三二九	石河鍋吉	五百石	旗本惣領	御徒頭(石河)惣左衛門惣領	御門入	寛政三亥年十月十七日					
一〇五三	石川富蔵		越前国敦賀藩士	右同人(酒井飛騨守)家来	御門入	天保四巳年正月廿六日					
八四八	石川大助		秋田藩士	佐竹右京大夫(義厚)家来	御門入	文政五年正月廿八日					
二六	石川惣右衛門	五百五拾石	旗本	御徒頭	御門入	明和二年九月廿日					
一〇四八	石川源次郎		越前国敦賀藩士	酒井飛騨守家来	御門入	天保四巳年正月廿六日					
五七八	石井三男吉		三河国吉田藩士	松平伊豆守家来	御門入	享和二年八月廿二日					
九四八	石井彦七		秋田藩士	佐竹右京大夫(義厚)家来	御門入	文政九戌年					
九四九	石井庄司		秋田藩士	佐竹右京大夫(義厚)家来	御門入	文政九戌年					
九五三	石井駒之助		秋田藩士	佐竹右京大夫(義厚)家来	御門入	文政九戌年					
三一	石口口八		未詳		御門入	明和二年十一月廿五日					
一〇一七	井沢喜右衛門		越前国敦賀藩士	酒井飛騨守家来	十二ヶ条目録	文政十三寅年三月十六日	天保七申年十一月廿日	天保八酉年四月十八日			
九六九	池田鉄平		丹後国田辺藩士	右同人(牧野山城守)家来	御門入	文政九戌年八月十七日					
三九六	池田修理	九百石	旗本養子	大目付(池田)筑後守養子	御門入	寛政五年四月廿六日					
一四〇	壹岐兵蔵		旗本家来	寄合 伊東山城守家来	御門入	明和九年七月十九日					
四四五	壹岐鉄弥		旗本家来	右同人(伊東主膳)家来	御門入	寛政七卯年五月十二日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
一五二	磯村清次郎		未詳		御門入	安永二巳年正月廿九日					
六〇八	市川友太郎		出羽国山形藩士	秋元但馬守(永朝)家来	御門入	文化元子年三月三日					
二六九	市橋文司		旗本家来	平賀式部少輔(貞愛)家来	御門入	寛政二戌年五月十二日					
八〇一	市村鍬五郎		旗本家来	近藤平五郎家来	御門入	文化十三子年二月廿七日					
三五八	一柳忠吉		旗本家来	同人(神保佐渡守)家来	御門入	寛政四子年五月十一日					
五〇六	一色金弥		下野国烏山藩士	右同人(大久保山城守)家来	御門入	寛政九巳年十月晦日					
二五四	一色次郎助		下野国烏山藩士	同人(大久保山城守)家来	御門入	寛政元酉年十月十六日					
一九七	伊藤音三郎		未詳		御門入	安永四未年九月十六日					
二九〇	伊藤亀次郎	五千石	旗本(寄合)	寄合(伊藤)山城守惣領	十二ヶ条目録	寛政二戌年九月十七日	寛政四子年二月十九日	寛政四子年二月十九日			
四三三	伊藤(伊藤)主膳	五千石	旗本(寄合)	寄合	十二ヶ条目録	寛政七卯年二月廿日	寛政九巳年三月廿日	寛政十年年正月七日			
一四二	伊東次左衛門		旗本家来	御側衆 平岡美濃守家来	御門入	明和九辰年八月四日					
六三四	伊東左左衛門		旗本	大御番	御門入	文化三寅年八月二日					
一七一	伊東山城守	五千石	旗本(寄合)	寄合	御門入	安永三年年七月六日					
二三〇	伊藤和市		旗本家来	同人(中山勝太郎)家来	御門入	寛政元酉年二月廿七日					
八五九	糸賀駒吉		秋田藩士	右同人(佐竹右京大夫義厚)家来	御門入	文政五午年閏正月晦日					
六二二	糸原勘三郎		旗本	御書院番	仮名字目録	文化二丑年二月七日	文化六巳年三月廿日	文化六巳年十月廿六日	文化十二亥年十一月十二日		
九一七	稲垣門弥		旗本家来	八木丹波守家来	御門入	文政八酉年二月二日					
三六八	稲垣八十五郎		旗本	御使番	御門入	寛政四子年九月廿四日					
四六七	稲富音三郎		旗本弟	西丸御書院番 三田清八郎弟	御門入	寛政八辰年正月廿五日					
二二七	伊奈勇助		旗本家来	小幡又十郎家来	御門入	寛政元酉年二月十七日					
一〇一四	井上宇平		越前国敦賀藩士	右同人(酒井飛驒守)家来	御門入	文政十二丑年六月十六日					
二二一	井上金吾		旗本家来	同人(生駒監物)家来	御門入	安永七戌年閏七月十七日					
九四四	井上鹿蔵		常陸国笠間藩士	右同人(牧野越中守)家来	御門入	文政九戌年正月廿二日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
九七九	上野小十郎		丹後国田辺藩士	右同人(牧野山城守)家来	御門入	文政十亥年正月廿九日					
一二	植月口馬		未詳		御門入	明和元年七月廿九日					
三一一	上田三右衛門		肥前国大村藩士	大村信濃守(純鎮)家来	御門入	寛政三亥年四月六日					
一〇四九	上田謙蔵		越前国敦賀藩士	右同人(酒井飛騨守)家来	御門入	天保四巳年正月廿六日					
三一九	植木新兵衛		旗本家来	松平小豊次家来	御門入	寛政三亥年六月廿二日					
一三〇	植木勝之助		未詳		御門入	寛政三亥年六月十九日					
一二八	岩本石見守	式千石	旗本惣領	西丸御側衆(岩本)内膳正惣領	御門入	明和九辰年二月九日					
二九一	岩間彦三郎		旗本家来	伊東山城守家来	御門入	寛政二戌年九月十七日					
三一六	岩間惣三郎		旗本家来	伊東山城守家来	御門入	寛政三亥年五月廿八日					
二八〇	岩波勘蔵		旗本家来	同人(能勢筑前守)家来	御門入	寛政二戌年五月廿八日					
九〇六	岩永一三		肥前国大村藩士	右同人(大村上総介)家来	御門入	文政七申年二月十日	寛政十一未年六月廿九日	寛政十二申年四月十二日			
三九二	岩出六之助	式百五拾俵	旗本	小普請	十二ヶ条目録	寛政五丑年三月廿二日					
一七〇	岩附大八郎		未詳		御門入	安永三年七月二日					
八九三	岩崎新蔵		丹後国田辺藩士	牧野豊前守家来	御門入	文政六未年三月八日					
四〇	岩崎喜十郎		未詳		御門入	明和三年十一月五日					
八六八	井村勘十郎		肥前国大村藩士	大村上総介(純昌)家来	十二ヶ条目録	文政五年二月廿七日	文政六未年三月廿日	文政六未年九月			
九八八	今村栄次		丹後国田辺藩士	牧野山城守家来	御門入	文政十亥年八月廿六日					
三七四	今井定六		下野国烏山藩士	大久保山城守家来	御門入	寛政五丑年正月七日					
一九三	今井主計		未詳		御門入	安永四年八月廿七日					
五三六	猪倉俣次		旗本家来	岡部内記家来	御門入	寛政十一未年五月十七日					
四四六	猪瀬伴治		旗本	小普請組	御門入	寛政七卯年五月十八日					
七一二	井上茂平太		陸奥国二本松藩士	丹羽加賀守(長祥)家来	御門入	文化八未年五月廿六日					
六三	井上又次郎		下総国関宿藩士	久世出雲守(広明)家来	御門入	明和六丑年六月十九日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
五九八	江崎文治		旗本家来	加藤平内家来	御門入	月十七日					
八〇五	江坂勘之丞		旗本	小普請組	御門入	文化十三年十月廿七日					
六九二	江頭晋太郎		肥前国大村藩士	大村信濃守家来	仮名字目録	文化七年十一月廿三日	文化八未年十一月廿日	文化八未年十二月七日	文政四巳年二月十六日		
三八八	宇留野銀蔵		常陸国麻生藩士	同人(新庄駿河守)家来	御門入	寛政五年二月廿二日					
四一六	浦野彦太郎	三百俵	旗本	小普請	御門入	寛政五年一月十八日					
五八六	浦上斧一郎		旗本	御小性組	御門入	享和三亥年正月十四日					
八一	梅本郡次		下野国烏山藩士	同人(大久保山城守)家来	御門入	明和七年九月九日					
一〇二三	梅野滝之助		对馬藩士	宗对馬守家来	御門入	文政十三年十一月二日					
六一八	鶴殿与六郎		未詳		御門入	文化二丑年正月廿二日					
六六五	鶴殿重五郎		未詳		十二ヶ条目録	文化五辰年八月七日	文化十酉年四月廿日	文化十一年十二月七日			
二一	宇都平次郎		未詳		御門入	明和二酉年正月十八日					
八八二	宇都小十郎		肥前国大村藩士	大村上総介(純昌)家来	十二ヶ条目録	文政五年十一月十七日	文政五年三月廿日	文政十亥年三月			
五五八	宇都諫見		旗本家来	土岐大膳大夫家来	御門入	文政五年三月廿七日					
一〇五二	内山敏司		越前国敦賀藩士	酒井飛騨守家来	御門入	享和元酉年三月廿六日					
八一三	内田泰一郎		丹後国田辺藩士	牧野豊前守家来	御門入	天保四巳年正月七日					
八九九	内田小六		秋田藩士	佐竹右京大夫(義厚)家来	御門入	文化十五寅年十月十四日					
八三八	内田惠喜太郎		丹後国田辺藩士	牧野豊前守家来	御門入	文政三辰年十月四日					
三三	内田栄次郎		未詳		御門入	明和三戌年三月十三日					
五八七	宇田川郷右衛門		旗本	御小納戸	御門入	明和三亥年正月廿八日					
一〇三五	宇慶亥三雄		丹後国田辺藩士	牧野山城守(節成)家来	御門入	天保三辰年正月廿二日					
九七一	植村宗助		旗本	小普請組	十二ヶ条目録	文政九年九月廿三日	未記載	未記載			
九八六	上原新之丞		旗本惣領	衛門惣領(上原)藤左	御門入	文政十亥年五月廿七日					
九六六	上野繁太郎		丹後国田辺藩士	牧野山城守家来	御門入	文政九戌年八月十七日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・統柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
七六一	大草 鍵三郎		丹後国田辺藩士	右同人(牧野豊前守)家	御門入	八月十八日					
七四	大久保 弥九郎	千貳百石	旗本	御使番	御門入	文化十一戌年 月廿九日					
八七	大久保 平次郎		未詳		御門入	明和七寅年 月廿九日					
四九一	大久保 新十郎		未詳	御内弟子	御門入	寛政九巳年 月六日					
五一七	大久保 権之助	千貳百石	旗本	小普請組	御門入	寛政十年 月十二日					
八九四	大久保 吉五郎		旗本(寄合)	領 寄合(大久保)外記惣	御門入	文政六未年 月十一日	天明四辰年 月廿七日	天明五巳年 二月二日			
一九五	大久保 荒之助	千貳百石	旗本	小普請	十二ヶ条目録	安永四未年 月十六日					
五二	大岡 忠四郎	千四百石	旗本	御書院番	御門入	明和五子年 月十四日					
五四三	大岡 千太郎	三千石	旗本(寄合)	寄合(大岡)伊織惣領	十二ヶ条目録	寛政十二申年 三月七日	未記載	未記載			
九九八	大岡 清之助		旗本三男	御代官(大岡)源右衛門三男	御門入	文政十一子年 十月七日					
八六四	大岡 金之助		旗本次男	大御番組頭 矢部七郎左衛門次男	御門入	文政五午年閏 正月廿五日					
四六二	大岡 織次郎		旗本	小普請組	御門入	文政七卯年十 二月三日					
三二三	大岡 伊織	三千石	旗本(寄合)	寄合	十二ヶ条目録	寛政三亥年八 月十七日	寛政九巳年三 月	未記載			
四三八	大井 良助		旗本家来	大岡伊織家来	御門入	寛政七卯年三 月十一日					
六三〇	大井 約郎		未詳		御門入	文化三寅年正 月廿七日					
五一二	大井 七之助		旗本三男	平賀式部少輔(貞愛)三男	十二ヶ条目録	寛政九巳年十 一月二日	享和三亥年三 月十六日	未記載			
一六五	大石 金吾		未詳		御門入	安永三年二 月廿二日	享和三亥年三 月十六日	未記載			
五一一	大井 三十郎		旗本次男	平賀式部少輔(貞愛)次男	十二ヶ条目録	寛政九巳年十 一月二日	享和三亥年三 月十六日	未記載			
三七七	遠藤 官次		旗本家来	岡部内記家来	御門入	寛政五丑年正 月七日					
八八五	海老原 栄蔵		秋田藩士	佐竹右京大夫(義厚)家来	御門入	文政五年年十 二月廿四日					
五三一	榎本 林右衛門		旗本	御徒十三番組	御門入	寛政十一年 四月十七日					
一〇四七	榎本 典		越前国敦賀藩士	右同人(酒井飛騨守)家来	御門入	天保四巳年正 月廿六日					
二二九	榎本 為八		旗本家来	中山勝太郎家来	御門入	寛政元酉年二 月廿七日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
七三九	大河内善□右衛門		旗本	西丸御切手番之頭	御門入	文化十一戌年六月二日					
七九六	大河内鉄五郎		旗本弟	(大河内)善右衛門弟	十二ヶ条目録	文化十二亥年八月廿二日	文政四巳年九月廿日	文政六未年四月二日			
七九七	大河内鉄三郎		旗本弟	(大河内)善右衛門弟	十二ヶ条目録	文化十三子年正月七日	文政九戌年五月廿日	文政十亥年十月廿日			
二一一	大沢浅蔵		未詳		御門入	安永七戌年五月七日					
八一八	大沢三七郎		旗本惣領	田安殿物頭	十二ヶ条目録	文化十五寅年三月廿二日	文政四巳年八月廿日	文政四巳年十月六日			
六四六	大島雲四郎		旗本	御使番	十二ヶ条目録	文化四卯年六月十四日	文化七午年五月廿日	文化八未年十月七日			
八五三	大島長八郎		秋田藩士	佐竹右京大夫(義厚)家来	御門入	文政五午年正月廿八日					
五三七	太田熊次郎		旗本次男	奥医師(太田)元達次男	御門入	寛政十一未年十二月七日					
六一〇	大竹四郎		陸奥国会津藩士	松平肥後守(容頌)家来	御門入	文化元子年五月十二日					
八五二	太田貞吉		秋田藩士	右同人(佐竹右京大夫義厚)家来	御門入	文政五午年正月廿八日					
八五五	大田原龍助		秋田藩士	右同人(佐竹右京大夫義厚)家来	御門入	文政五午年閏正月晦日					
九〇四	大館(金十将)吉		旗本次男	横瀬駿河守次男	仮名字目録	文政七申年二月七日	文政十亥年十一月廿日	天保二卯年九月廿日	天保(未記載)		
六五〇	大津勝太郎		旗本	大御番	十二ヶ条目録	文化四卯年七月廿二日	文化七午年五月廿日	文化八未年五月十四日			
五八九	大塚半三郎		三河国吉田藩士	右同人(松平伊豆守)家来	御門入	享和三亥年正月廿八日					
六四五	大塚孫八郎		下野国烏山藩士	大久保山城守家来	十二ヶ条目録	文化四卯年正月廿七日	文化七午年五月廿日	文化七午年九月十日			
一七七	大槻此次郎		旗本家来	田付又四郎家来	御門入	安永三午年七月廿二日					
九五四	大槻助吉		秋田藩士	右同人(佐竹右京大夫義厚)家来	御門入	文政九戌年正月廿二日					
三九〇	大津吉之助	三百俵	旗本惣領	西丸御書院番(大津)秦太郎惣領	御門入	寛政五丑年三月七日					
四六五	大津(伴?)幸三郎		旗本次男	(大津)秦太郎次男	御門入	寛政八辰年正月廿二日					
一六六	大津秦太郎	三百石	旗本	西丸御書院番	十二ヶ条目録	安永三午年四月十日	天明四辰年四月廿七日	天明四辰年三月十二日			
二一八	大西民次		旗本家来	同人(村瀬伊左衛門)家来	御門入	安永七戌年六月廿七日					
一七六	大野常次郎		旗本家来	田付又四郎家来	御門入	安永三午年七月廿二日					
二五六	大橋為蔵		下野国烏山藩士	同人(大久保山城守)家来	御門入	寛政元酉年十月十五日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
七四二	大羽半助		丹後国田辺藩士	牧野豊前守家来	十二ヶ条目録	文化十一戊年八月八日	文政二巳年四月廿日	文政三辰年三月			
一〇五一	大平龍蔵		越前国敦賀藩士	右同人(酒井飛騨守)家来	御門入	天保四巳年正月廿六日					
九九一	大前勝之進死		旗本四男	(大前)若狭守四男	御門入	文政十亥年十一月三日					
八二五	大前熊次郎		旗本	御書院番	仮名字目録	文政二卯年閏四月十三日	文政四巳年三月廿日	文政四巳年十一月廿八日	文政十亥年二月廿一日		
九九〇	大前綱三郎		旗本三男	御小納戸(大前)若狭守三男	御門入	文政十亥年十一月三日					
六二〇	大村古邑		旗本家来	大前孫兵衛家来	御門入	文化二丑年正月廿二日					
八六七	大村恕助		秋田藩士	佐竹右京大夫(義厚)家来	御門入	文政五年二月十七日					
五九三	大屋春次郎		未詳		御門入	享和三亥年四月七日					
三九一	岡田円平		旗本家来	三島但馬守家来	御門入	寛政五丑年三月廿日					
三四六	岡野権次郎		旗本養子	御徒(岡野)三郎左衛門養子	御門入	寛政四子年閏二月三日					
八一七	岡部金十郎		旗本	大御番	御門入	文化十五寅年二月〇日					
八一五	岡部長三郎		旗本弟	(岡部)内記弟	十二ヶ条目録	文化十五寅年二月七日	文政四巳年三月廿日	文政四巳年十月六日			
三七五	岡部内記	千五百石	旗本	御使番	十二ヶ条目録	寛政五丑年正月七日	文政四巳年三月十六日	未記載			
八一四	岡部万之助		旗本惣領	御使番 内記惣領	十二ヶ条目録	文化十五寅年二月七日	文政四巳年八月廿日	文政四巳年十月六日			
一〇三六	岡部龍之助		旗本弟	小普請組(岡部)万之助弟	御門入	天保三辰年正月廿二日					
八三七	岡村条次郎死		旗本惣領	小十人頭(岡村)備後守惣領	替流断	文政三辰年九月十七日					
二八一	岡村万蔵		旗本家来	能勢筑前守家来	御門入	寛政二戌年五月廿八日					
二三	小川求馬		未詳		御門入	明和二酉年正月十八日					
五〇九	小川四郎治		下野国烏山藩士	右同人(大久保山城守)家来	御門入	寛政九巳年十月晦日					
五五七	小川丈助		旗本家来	右同人(川勝金次郎)家来	御門入	享和元酉年三月廿七日					
七二三	小川次郎兵衛		未詳		御門入	文化九申年十月十七日					
三一〇	小川万之丞		旗本家来	能勢筑前守家来	御門入	寛政三亥年三月十七日					
二七九	奥岩太郎		旗本家来	同人(能勢筑前守)家来	御門入	寛政二戌年五月廿八日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
二七二	奥新平		旗本家来	能勢筑前守家来	十二ヶ条目録	寛政二戌年五月廿八日	寛政四子年閏二月廿五日	未記載			
六八六	奥新平		旗本家来	能勢熊之助家来	御門入	文化七午年七月五日					
一八九	奥田与八郎		未詳		御門入	安永四未年四月十七日					
三四五	奥村矢次郎		未詳		御門入	寛政四子年閏二月三日					
九二九	奥山貞蔵		秋田藩士	右同人(佐竹右京大夫義厚)家来	御門入	文政八酉年五月八日					
三九五	奥山鉄吉	八百石	旗本	小普請	御門入	寛政五丑年四月廿二日					
二三七	奥山老三郎		秋田藩士	佐竹右京大夫(義厚)家来	御門入	寛政元酉年六月廿二日					
四九	奥屋六太郎		未詳		御門入	明和五子年五月廿五日					
七九一	小倉銀平		丹後国田辺藩士	牧野豊前守家来	御門入	文化十二亥年四月廿九日					
七九二	尾高新悦		丹後国田辺藩士	牧野豊前守家来	御門入	四月廿九日					
四七六	小田切富三郎	百五拾俵	旗本	小普請組	御門入	寛政八辰年十月十二日					
九九四	織田捨次郎		丹後国田辺藩士	右同人(牧野山城守)家来	御門入	文政十一子年正月廿二日					
五四五	越知弥門		旗本	小普請組	御門入	寛政十二申年三月廿二日					
九六一	小貫小平		秋田藩士	佐竹右京大夫(義厚)家来	御門入	天保二卯年十月七日					
一〇三二	小野鉄次郎		旗本次男	御徒頭(小野)左太夫次男	御門入	文政二卯年正月廿二日					
八二二	小野喜三郎		紀州藩士	紀伊殿附	御門入	天保二卯年七月七日					
一〇三三	小野鎌三郎		旗本三男	(小野)左太夫三男	御門入	天保二卯年七月七日					
一一〇	小野崎勇		未詳		御門入	明和八卯年六月廿九日					
一〇〇五	小野猪太郎		旗本惣領	西丸御小納戸(小野)勝五郎惣領	御門入	文政十二丑年二月廿九日					
八七一	小野田熊之助		旗本	小普請組	十二ヶ条目録	文政五年六月廿七日	文政十亥年十一月廿日	文政十亥年十一月廿日			
一〇〇六	小野三千吉		旗本次男	(小野)勝五郎次男	御門入	文政十二丑年二月廿九日					
八三一	小幡勘兵衛		旗本惣領	(小幡)又兵衛惣領	替流断	文政三辰年三月廿九日					
二三一	小幡小守		旗本家来	浦上松次郎家来	御門入	寛政元酉年三月十七日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
九〇	加藤吉五郎		未詳		御門入	月廿九日					
一五	加藤口之進		常陸国笠間藩士	牧野兵部(貞喜)家来	御門入	明和元申年八月廿八日					
六〇三	勝浦道益		水戸藩士	水戸殿医師	御門入	享和三亥年十一月十二日					
二〇五	粕河増五郎		未詳		御門入	安永五申年六月七日					
一〇三九	神代次郎兵衛		石見国津和野藩士	亀井大隅守(茲方)家来	御門入	天保三辰年二月二日					
八三四	風間惣之助		旗本家来	小幡又兵衛家来	御門入	文政三辰年四月十二日					
四〇二	風間貞市		旗本家来	小幡又十郎家来	御門入	寛政五丑年五月九日					
五五六	笠原源吾		旗本家来	川勝金次郎家来	御門入	享和元酉年三月廿七日					
三二一	垣屋幾久蔵		旗本家来	伊東山城守家来	御門入	寛政三亥年六月廿五日					
八三二	柿沢力太郎		旗本家来	小幡又兵衛家来	御門入	文政三辰年三月廿九日					
八三三	柿沢邦助		旗本家来	右同人(小幡又兵衛)家来	御門入	月十二日					
三七六	垣沢金吾		旗本家来	小幡又十郎家来	御門入	寛政五丑年正月七日					
四八八	加川与八郎		旗本家来	生駒主殿家来	御門入	寛政九巳年二月七日					
四九二	加川弥之助		旗本家来	浅野老岐守家来	御門入	月十四日					
八〇二	甲斐庄助太郎		旗本惣領	御書院番(甲斐庄)長三郎惣領	御門入	文化十三子年三月七日					
一四	恩田八十次		旗本家来	岡部小左衛門家来	御門入	明和元申年八月廿八日					
六一五	小俣千蔵		旗本家来	長野佐左衛門家来	御門入	一月七日					
七四一	小俣新之丞		旗本家来	向井将監家来	御門入	文化元子年十一月七日					
七三五	小俣新之丞		旗本家来	向井将監家来	御門入	文化十一戌年八月六日					
六五四	小俣志津摩		旗本家来	向井将監家来	御門入	月七日					
七五二	小花五郎八		丹後国田辺藩士	右同人(向井将監)家来	御門入	文化四卯年八月十三日					
五二一	小幡又三郎		旗本	牧野豊前守(牧野豊前守)家来	御門入	文化四卯年八月十八日					
一八一	小幡又十郎		旗本	小普請組	御門入	正月七日					
				小普請	御門入	寛政十一未年					
					御門入	安永三年年十月廿二日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
三二四	加藤三郎右衛門		旗本家来	大岡伊織家来	御門入	寛政三亥年八月十七日					
一八四	加藤次郎太郎		常陸国麻生藩士	新庄越前守(直規)家来	御門入	安永四未年正月十七日					
一〇一一	加藤兵次郎		越前国敦賀藩士	右同人(酒井飛騨守)家来	皆伝	文政十二丑年六月十六日	天保七申年十月廿日	天保八酉年四月十八日	天保十三寅年九月廿三日	弘化五申年三月十四日	
五九七	加藤平内		旗本(寄合)	寄合	御門入	享和三亥年九月十七日					
七〇一	兼子金次		旗本家来	柳亀八郎家来	御門入	文化八未年閏二月二日					
五四四	金子清八		旗本家来	大岡伊織家来	御門入	寛政十二申年三月七日					
三七八	金子藤次郎		旗本家来	岡部内記家来	御門入	寛政五丑年正月七日					
八三六	金田斧太郎		旗本(寄合)	寄合(金田)多宮惣領	御門入	文政三辰年九月十六日					
四八一	金田亀三郎		旗本弟	(金田)伝左衛門弟	御門入	寛政九巳年正月廿二日					
八〇九	金田極太		出羽国上山藩士	松平中務少輔(信行)家来	御門入	文化十四丑年三月廿八日					
四一九	金田伝左衛門	三百俵	旗本(寄合)	寄合	十二ヶ条目録	寛政五丑年十二月七日	寛政十二申年四月廿日	寛政十二申年十二月六日			
三九	兼田安五郎		未詳		御門入	明和三戌年十一月五日					
四五六	兼松勘次郎		御家人倅	(兼松)弥助倅	御門入	寛政七卯年十一月十七日					
七九八	加納揖郎		旗本次男	中山勘之丞次男	御門入	文化十三子年二月二日					
五三五	神足新太郎		旗本家来	佐野右兵衛家来	御門入	寛政十一未年五月十二日					
三四四	神尾伊三郎	九百石	旗本惣領	御作事奉行(神尾)佐渡守惣領	御門入	寛政四子年二月廿五日					
九四五	神尾隈五郎		旗本	御書院番	御門入	文政九戌年二月十二日					
六六〇	神尾権八郎		旗本	西丸御小性組	十二ヶ条目録	文化五辰年六月二日	文化七午年五月廿日	文化八未年五月十四日			
四一一	上条吉之助	百俵	旗本	小普請	御門入	寛政五丑年九月五日					
三〇三	亀井内記		旗本弟	(亀井)平三郎弟	御門入	寛政三亥年二月二日					
八六〇	亀井孫三郎		旗本養子	郎養子(亀井)孫四	御門入	文政五午年閏正月十一日					
五九〇	川合逸守		旗本家来	松平因幡守家来	御門入	享和三亥年三月廿四日					
二九五	川合伴作		旗本家来	千本吉之丞家来	御門入	寛政二戌年十月廿七日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・統柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
一〇一六	川勝貞之丞		旗本惣領	御小納戸 主税惣領	十二ヶ条目録	文政十二丑年 閏八月十六日	天保十二丑年 五月廿日	十二ヶ条目録 天保十五辰年 四月九日			
二八六	川勝千之丞	七百石	旗本惣領	二丸御留守居 (川勝) 齋宮惣領	十二ヶ条目録	寛政二戌年八 月十二日	寛政七卯年正 月廿五日	寛政七卯年八 月十九日			
七〇六	川勝主税		旗本	御小納戸	十二ヶ条目録	文化八未年四 月廿八日	文化十三子年 八月廿日	文政元寅年十 二月廿五日			
八二〇	川口源八郎		旗本惣領	御書院番 (川口) 源三 郎惣領	替流断	文政元寅年八 月十二日	替流断				
八二一	川口鋼五郎		旗本弟	(川口) 源三郎弟	御門入	文化二丑年九 月十二日					
六二七	川口政蔵		旗本次男	(川口) 久助次男	御門入	文化二丑年九 月廿五日					
四三九	川瀬惣吉		旗本	小普請	御門入	寛政七卯年三 月十三日					
五五	河田伊三郎		常陸国麻生藩士	新庄駿河守(直侯) 家来	御門入	明和五子年十 月九日					
二九九	川地芳蔵		旗本	小普請方	御門入	寛政二戌年十 二月二日					
七七〇	河村幸吉		丹後国田辺藩士	牧野豊前守家来	御門入	文化十二亥年 二月十日					
七四八	河村 蒨		丹後国田辺藩士	右同人(牧野豊前守) 家 来	御門入	文化十一戌年 八月十八日					
九四	瓦林三郎兵衛	八百石	旗本	西丸御書院番	替流断	明和七寅年八 月九日					
三六九	瓦林大次郎	九百石	旗本惣領	御小性組 (瓦林) 助次 郎惣領	十二ヶ条目録	寛政四子年十 月二日	未記載	寛政十二申年 四月十二日			
七四五	神田□之進		丹後国田辺藩士	右同人(牧野豊前守) 家 来	御門入	文化十一戌年 八月十八日					
一八五	神田仙蔵		常陸国麻生藩士	新庄越前守家来	御門入	安永四未年正 月十七日					
六六九	神田求馬		陸奥国二本松藩士	丹羽加賀守(長祥) 家来	十二ヶ条目録	文化六巳年二 月九日	文化八未年三 月廿六日	文化八未年四 月廿一日			
六三七	神戸九左衛門		未詳		御門入	文化三寅年十 月十七日					
一一一	菊地多津間		未詳		御門入	明和八卯年二 月九日					
五九九	菊地牧太		旗本家来	右同人(加藤平内) 家来	御門入	享和三亥年九 月十七日					
五〇七	岸 岩五郎		下野国烏山藩士	大久保山城守家来	御門入	寛政九巳年十 月晦日					
八二	岸吉之助		未詳		御門入	明和七寅年四 月九日					
三五四	岩田 蒨		旗本家来	同人(平賀式部少輔) 家 来	御門入	寛政四子年四 月二日					
一五七	岸免 毛		未詳		御門入	安永二巳年三 月十九日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
一七三	木島嘉兵衛		弘前藩家老家来	大道寺内蔵助家来	御門入	安永三年七月十三日					
二八四	鬼島平次郎		弘前藩家老家来	大道寺内蔵助家来	御門入	寛政二戌年七月二日					
五五四	北尾三次		秋田藩士	佐竹右京大夫(義厚)家来	御門入	享和元酉年二月廿七日					
九三〇	北川次之助		秋田藩士	右同人(佐竹右京大夫義厚)家来	御門入	文政八酉年五月八日					
九六七	喜多村鉄次郎		丹後国田辺藩士	右同人(牧野山城守)家来	御門入	文政九戌年八月十七日					
一八八	北村監物		弘前藩士	津軽土佐守家来	御門入	安永四未年四月十二日					
九一〇	喜多村貞之助		丹後国田辺藩士	牧野豊前守家来	御門入	文政八酉年二月二日					
二九二	喜多村友馬		旗本家来	同人(伊東山城守)家来	御門入	寛政二戌年九月十七日					
六〇〇	北脇八弥		旗本家来	右同人(加藤平内)家来	御門入	享和三亥年十月二日					
七四六	木寺勘右衛門		丹後国田辺藩士	右同人(牧野豊前守)家来	御門入	文化十一戌年八月十八日					
七五七	木寺万三郎		丹後国田辺藩士	右同人(牧野豊前守)家来	御門入	文化十一戌年八月十八日					
一七四	絹笠音吉		弘前藩士	津軽土佐守(信明)家来	御門入	安永三年七月廿二日					
六一三	木下新吉死		未詳		御門入	文化元子年七月十二日					
四一七	木村永次郎		旗本	小普請	御門入	寛政五丑年十一月十八日					
七八九	木村善太郎		旗本家来	右同人(平賀信濃守)家来	御門入	文化十二亥年三月廿二日					
四五七	木村定蔵		旗本	小普請組	御門入	寛政七卯年閏十一月三日					
三五三	木村 貢		旗本家来	平賀式部少輔(貞愛)家来	御門入	寛政四子年四月二日					
五二五	吉良源六郎	千五拾貳石	旗本	表高家	御門入	寛政十一未年正月廿二日					
五七三	行木新左衛門		未詳	御内弟子	御門入	享和二戌年六月九日					
一一一	日下作左衛門		未詳		御門入	明和八卯年八月三日					
五四一	久城鎌蔵		旗本家来	柳沢伊勢守家来	御門入	寛政十二申年三月二日					
二二	楠本弥一		未詳		御門入	明和二酉年正月十八日					
三	久津見伊藤太		未詳		御門入	明和元申年六月十九日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・統柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
九六二	国安弁吉		秋田藩士	右同人(佐竹右京大夫義厚)家来	御門入	文政九戌年					
一二三	久野直次郎		和泉国岸和田藩士	岡部美濃守(長住)家来	御門入	明和八卯年九月十九日					
一一二	久保梅七				御門入	明和八卯年三月十九日					
二〇四	久保田丈助				御門入	安永五申年六月十七日					
六二六	久保寺院平				御門入	文化二丑年閏八月廿七日					
六六二	熊谷雲之助		下野国烏山藩士	右同人(大久保山城守)家来	御門入	文化五辰年六月三日					
二六一	熊倉銀蔵		旗本家来	神織部家来	御門入	寛政二戌年三月廿二日					
八一六	栗島藤吉				御門入	文化十五寅年二月廿七日	文政四巳年三月廿日	文政四巳年十月六日			
五〇四	栗田藤五郎		下野国烏山藩士	右同人(大久保山城守)家来	御門入	寛政九巳年十月晦日					
五七六	栗原勝三郎		三河国吉田藩士	松平伊豆守家来	御門入	享和二戌年八月九日					
三八四	栗原政右衛門		旗本家来	万年三郎次郎家来	御門入	寛政五丑年二月二日					
二九八	栗原善蔵				御門入	寛政二戌年十二月二日					
三二七	久留七郎次郎		旗本惣領	大御番組頭(久留)源三郎惣領	替流断						
二二三	黒川谷五郎		旗本	清水勤番	十二ヶ条目録	安永七戌年八月十二日	未記載	未記載			
七二五	黒川勝次郎		旗本家来	青山美濃守家来	十二ヶ条目録	文化十酉年正月七日	文政元寅年六月「」日	文政「」年二月十二日			
九八一	黒川喜八郎		丹後国田辺藩士	牧野山城守家来	御門入	文政十亥年正月廿九日					
六一九	黒川権九郎		旗本	御書院番	御門入	文化二丑年正月廿二日					
四五二	黒川政之進				御門入	寛政七卯年十月十三日					
三七一	黒川仙助		旗本惣領	御小性頭取(黒川)近江守惣領	御門入	寛政五丑年正月七日					
三〇七	黒川善十郎	千七石	旗本		御門入	寛政三亥年二月七日	未記載	寛政十二申年十二月六日			
三七二	黒川内匠	千六百三石	旗本		御門入	寛政五丑年正月七日					
六二五	黒川鉄三郎		未詳		御門入	文化二丑年五月廿七日					
八六六	黒川口(金十冬)五郎		旗本養子	御書院番(黒川)権九郎養子	御門入	文政五年二月十四日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
九七六	黒川寅三郎		旗本	小普請組	仮名字目録	文政十亥年正月廿二日	文化十三寅年九月廿日	天保三辰年閏十一月十一日	天保八酉年四月廿五日		
九三九	黒川鋒次郎		旗本惣領	(清水徳川)恒之丞(齊疆)殿近習番 (黒川)清助惣領	御門入	文政九戌年正月七日					
一〇四〇	黒川巳之吉		旗本三男	御小納戸 (黒川)内匠三男	御門入	天保三辰年三月十七日					
八四〇	黒川弥録		旗本家来	諏訪新之丞家来	御門入	文政四巳年三月十二日					
九四二	黒川与次郎		旗本惣領	御小納戸 (黒川)内匠惣領	免状	文政九戌年正月廿二日	文政十亥年十一月廿日	天保二卯年九月廿日	天保七申年九月廿日		嘉永五子年十月十九日
四六四	黒川和三郎		旗本次男	(黒川)近江守次男	御門入	寛政八辰年正月七日					
二六七	黒坂新左衛門		肥前国大村藩士	大村信濃守(純鎮)家来	御門入	寛政二戌年五月七日					
二一三	黒沢官次		旗本家来	窪口五郎「」家来	御門入	安永七戌年六月二日					
一八〇	桑島伊織		未詳		御門入	安永三午年九月廿二日					
一〇四二	犬童雄助		肥后国人吉藩士	相良志摩守(頼之)家来	御門入	天保三辰年九月廿日					
一九九	小出安吉		旗本惣領	御小性組 (小出)善左衛門惣領	御門入	安永四未年十一月廿七日					
八九二	向後喜三郎		丹后国田辺藩士	右同人(牧野豊前守)家来	御門入	文政六未年三月八日					
一〇二六	高坂一二		旗本家来	吉良式部家来	御門入	天保二卯年正月廿二日					
四二三	木暮免七		旗本家来	大島織之助家来	御門入	寛政六寅年六月二日					
六八七	小坂市太郎		旗本家来	右同人(能勢熊之助)家来	御門入	文化七午年七月五日					
一四九	越川要助		未詳		御門入	安永二巳年正月十九日					
一六四	小島一馬		未詳		御門入	安永三午年二月廿二日					
四四九	小島常次郎		旗本家来	右同人(最上監物)家来	御門入	寛政七卯年九月十二日					
五八四	小玉銀次		旗本家来	山寺妙之助家来	御門入	享和二戌年十一月二日					
五九六	児玉矢柄		三河国吉田藩士	右同人(松平伊豆守)家来	御門入	享和三亥年五月廿二日					
一一九	小西弥蔵		未詳		御門入	明和八卯年六月廿九日					
一二五	小長谷伊織		未詳		御門入	明和八卯年十月四日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	扨捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
四八〇	小長谷鉄太郎		旗本	清水勤番	御門入	寛政九巳年正月七日					
二〇三	小林栄蔵		未詳	同人(平賀式部少輔)家	御門入	安永五申年四月二日					
二七〇	小林左太夫		旗本家来	来	御門入	寛政二戌年五月十二日					
四六三	小林造酒之助		未詳	右同人(佐竹右京大夫義厚)家来	御門入	寛政七卯年十月三日					
八五六	小林与三郎		秋田藩士	厚)家来	十二ヶ条目録	文政五午年閏正月晦日	文政八酉年三月廿日	文政七申年六月廿日			
九二二	小堀源三郎		旗本家来	八木丹波守家来	御門入	文政八酉年二月十三日					
五六七	小堀中務		旗本	京都御代官	御門入	享和二戌年二月十二日					
二六四	駒木根伊織		紀州藩士	同(紀伊殿家士)	御門入	寛政二戌年四月廿四日					
八三	小松勝之助		未詳		御門入	明和七寅年四月九日					
五二九	小山勝三郎	百俵五人扶持	御家人伴	火之番(小山)直三郎伴	御門入	寛政十一未年二月十五日					
六四〇	小山弥一郎		未詳		御門入	文化四卯年正月廿二日					
一四三	近藤勘左衛門	千四百六石	旗本	御小性組	御門入	明和九辰年九月四日					
六六四	近藤宮内		旗本惣領	御書院番頭(近藤)讚岐守惣領	十二ヶ条目録	文化五辰年八月七日	文化七午年五月廿日	文化八未年十月七日			
八〇〇	近藤捨五郎		旗本弟	(近藤)平五郎弟	御門入	文化十三子年二月廿七日					
五八二	近藤宗左衛門		旗本	御蔵奉行	十二ヶ条目録	享和二戌年十一月二日	文化二丑年十一月廿日	文化四卯年十月十五日			
七四〇	近藤恒次郎		未詳		替流断	文化十一戌年六月二日					
七七二	近藤口(金十分)五郎		旗本	(清水徳川)恒之丞(齊彊)殿書院番	御門入	文化十二亥年二月廿一日					
七一一	近藤平五郎		未詳		替流断	文化八未年五月廿六日					
五三	近藤弁蔵		出羽国山形藩士	秋元撰津守(涼朝)家来	御門入	明和五子年十月四日					
九一九	近藤廉蔵		旗本家来	右同人(八木丹波守)家来	御門入	文政八酉年二月二日					
八九六	後藤金五郎		旗本次男	(後藤)大和守次男	替流断	文政六未年三月廿七日					
三三〇	五島金弥		常陸国麻生藩士	新庄駿河守(直規)家来	御門入	寛政三亥年十月廿七日					
七〇二	後藤清三郎		旗本	御小納戸	仮名字目録	文化八未年三月七日	文政元寅年十一月廿日	文政四巳年六月廿八日	文政五年五月七日		

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
九二四	後藤長八郎		旗本惣領	御小納戸 清三郎惣領	替流断	文政八酉年三月廿八日	替流断				
六二	五島彦助		未詳		御門入	明和六丑年四月四日	天保三辰年六月廿日				
八八六	後藤孫三郎		紀州藩士	紀伊殿附 (後藤) 喜左衛門次男	払捨刀	文政六未年正月廿二日					
八六	五島百助		未詳		御門入	明和七寅年四月十九日					
九二五	後藤弥一郎		旗本四男	(後藤) 大和守四男	替流断	文政八酉年三月廿八日	替流断				
九八九	五味昌悦		丹後国田辺藩士	牧野山城守家来	御門入	文政十亥年八月廿六日					
三四二	齋藤一次郎		旗本(交代寄合)	同人(榊原越中守)家来	御門入	寛政四子年二月七日					
九六	齋藤吉次郎		未詳		御門入	明和七寅年八月九日					
五四二	齋藤熊三郎		旗本家来	佐竹亀丸家来	御門入	寛政十二申年三月二日					
五三二	齋藤太仲		旗本家来	平賀式部少輔(貞愛)家来	御門入	寛政十一未年四月十七日					
四二〇	齋藤東助		旗本家来	松平多膳家来	御門入	寛政六寅年二月廿七日					
四六九	齋藤豊吉		旗本家来	岡部源八郎家来	御門入	寛政八辰年四月十五日					
一〇二	齋藤半次郎		未詳		御門入	明和七寅年十月九日					
一一七	齋藤半弥		未詳		御門入	明和八卯年六月十九日					
八九五	三枝右馬之助		旗本養子	御書院番 (三枝) 兵橋養子	替流断	文政六未年三月十六日	替流断				
六〇六	三枝左兵衛		旗本	御使番	十二ヶ条目録	享和四子年二月十二日	文化五辰年十一月廿日	文化六巳年四月八日			
八七四	坂井金之丞		旗本	小普請組	御門入	文政五年八月六日					
七九四	坂井為蔵		旗本家来	永井隠岐守家来	御門入	文化十二亥年七月十二日					
一〇〇八	酒井忠象		越前国敦賀藩主次男	(酒井) 飛騨守次男	仮名字目録	文政十二丑年六月十六日	天保五年年四月廿六日	天保六未年九月十一日	天保七申年五月十一日		
一三二	坂井徳五郎		未詳		御門入	明和九辰年三月廿日					
五六五	境野金次郎死		旗本惣領	(境野) 六左衛門惣領	御門入	享和二戌年正月廿二日					
九二六	境野幸之助		旗本	田安殿小性	替流断	文政八酉年五月七日	替流断				
六五一	酒井増次郎		旗本	大御番	御門入	文化四卯年七月廿二日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・統柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
一〇〇七	酒井松之丞		越前国敦賀藩主惣領	大坂御城番(酒井)飛騨守(忠)草冠+盡)惣領 改右京亮	免状	文政十二丑年六月十六日	天保五午年四月廿六日	天保六未年九月十一日	天保七申年五月十一日	天保十二丑年十月十八日	嘉永五子年九月朔日
一三一	坂井主水		未詳		御門入	明和九辰年三月廿日	享和三亥年二月廿日	文化八酉年十月七日	文政二卯年四月十六日	天保三辰年閏十一月十一日	
五六四	榊 織部	七百石	旗本	御書院番	皆伝	享和二戌年正月七日	享和三亥年二月廿日	文化八酉年十月七日	文政二卯年四月十六日		
三三三	榊原伊三郎		旗本弟	(榊原)越中守弟	御門入	寛政四子年正月廿二日					
三二二	榊原因幡守	千八百石	旗本	久能御門番	御門入	寛政三亥年八月十二日					
三三二	榊原越中守	千八百石	旗本	久能御門番	御門入	寛政四子年正月廿二日					
一六三	榊原平十郎	千三百石	旗本	西丸御書院番	御門入	安永三午年二月廿二日					
六四七	坂口八郎兵衛		未詳		御門入	文化四卯年六月十九日					
二二二	佐方友次		因幡国鳥取藩士	松平相模守(池田重寛)家来	御門入	安永七戌年五月七日					
三三一	坂部三十郎	五百石	旗本惣領	西丸留守居(坂部)能登守惣領	払捨刀	寛政三亥年十月二日	未記載				
九四〇	坂間錦之助		旗本惣領	(清水徳川)恒之丞(齊)久左衛門惣領(坂間)	御門入	文政九戌年正月七日					
六九〇	坂間清助		旗本	(清水徳川)恒之丞(齊)久左衛門惣領	御門入	文化七午年七月廿八日					
八二九	坂本鱗蔵		旗本家来	神長十郎家来	御門入	文政三辰年二月廿三日					
七七八	坂寄右源太		丹後国田辺藩士	牧野豊前守家来	御門入	文化十二亥年三月八日					
九八〇	坂寄壮四郎		丹後国田辺藩士	右同人(牧野山城守)家来	御門入	文政十亥年正月廿九日					
八四三	坂寄道次郎		丹後国田辺藩士	牧野豊前守家来	御門入	文政四巳年九月七日	文政九戌年十月廿日	文政十亥年十一月七日			
七九〇	坂寄弥太郎		丹後国田辺藩士	牧野豊前守家来	御門入	文化十二亥年三月廿二日					
五八一	桜井英五郎		未詳			享和二戌年九月廿二日	文化二丑年十一月廿日	文化四巳年十一月十五日			
三七〇	桜井栄次郎		旗本	御天守番	十二ヶ条目録	寛政四子年十一月十三日	享和元酉年十月廿二日	未記載			
五六八	桜井金弥		旗本家来	黒川八左衛門家来	御門入	享和二戌年二月十二日					
七一一	桜井政之助		未詳		御門入	文化八未年六月八日					
三六五	櫻井八弥太		旗本家来	万年三左衛門家来	御門入	寛政四子年八月九日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
八九〇	佐幸田武助		丹後国田辺藩士	右同人(牧野豊前守)家	十二ヶ条目録	文政六未年三月八日	文政六亥年十一月廿日	文政十一子年十一月			
三五五	佐々市五郎	三百俵	旗本	御書院番	十二ヶ条目録	寛政四子年四月七日	未記載	寛政十年年正月七日			
七〇八	佐々木忠蔵		広島藩士	松平安芸守(浅野齐賢)家来 浅野甲斐守家来	御門入	文化八未年五月十二日					
三六二	佐々木九十九		旗本家来	川勝斎宮家来	御門入	寛政四子年七月十二日					
一〇四五	佐々木鉄五郎		旗本	(清水徳川)恒之丞殿小十人(齐彊)	御門入	天保三辰年閏十一月二日					
五三九	佐々儀三郎		旗本惣領	小普請組 (佐々)市五郎惣領	御門入	寛政十二申年正月七日					
七一一	笹本健次郎		旗本弟	(笹本)金平弟	御門入	文化九申年正月廿二日					
七一一	笹本金平		旗本	小普請	替流断	文化九申年正月廿二日					
二〇八	笹山三次郎		未詳		御門入	安永五申年八月七日					
九〇八	佐竹右京大夫		秋田藩主佐竹義厚	未記載	皆伝	文政七申年九月十四日	文政十一子年二月十九日	文政十二丑年四月四日	天保七申年九月二日	弘化二巳年四月廿八日	
五二八	佐竹 鼎		旗本次男	(佐竹)左近次男	皆伝	寛政十一未年二月七日	享和三亥年二月十一日	文化元子年五月十日	文政六未年十月廿日	文政十二丑年四月四日	
五二七	佐竹富之進		旗本惣領	(佐竹)左近惣領	十二ヶ条目録	寛政十一未年二月七日	享和三亥年二月十一日	文化元子年五月十日			
九二三	佐竹豊前		秋田藩主弟	厚(佐竹)右京大夫(義厚)弟	十二ヶ条目録	文政八酉年三月廿四日	文政十二丑年四月四日	天保元寅年十一月十四日			
四五三	佐藤庄八		未詳	御内弟子	御門入	寛政七卯年十月十三日					
九六〇	佐藤多門		秋田藩士	右同人(佐竹右京大夫義厚)家来	御門入	文政九戌年					
八九	佐藤豊八		未詳		御門入	明和七寅年四月廿四日					
二二〇	佐藤直八		旗本家来	生駒監物(親睦)家来	御門入	安永七戌年閏七月十七日					
三二五	佐藤勇次郎		旗本家来	大岡伊織家来	御門入	寛政三亥年八月十七日					
二六八	佐藤雄之助		肥前国大村藩士	同人(大村信濃守)家来	御門入	寛政二戌年五月七日					
二三五	早苗牧太		旗本家来	千本吉之丞家来	御門入	寛政元酉年四月十九日					
一〇一〇	真田元蔵		越前国敦賀藩士	右同人(酒井飛騨守)家来	十二ヶ条目録	文政十二丑年六月十六日	天保七申年十二月廿日	天保八酉年四月十八日			
一六一	佐野次郎兵衛		未詳		御門入	安永三年年正月廿二日					
五三三	佐野鉄之進	四千石	旗本(寄合)	寄合(佐野)右兵衛尉嫡孫	十二ヶ条目録	寛政十一未年五月十二日	文化二丑年三月廿日	文化二丑年四月廿五日			

記載順	氏名	禄高	身分	主家・統柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
一〇	白井藤太		未詳		御門入	明和元年七月廿九日					
七八五	白石大八郎		丹後国田辺藩士	右同人(牧野豊前守)家	御門入	文化十二亥年三月十九日					
九四六	白井源助		出羽国上山藩士	松平中務少輔(信行)家	御門入	文化九戌年四月九日					
六九七	白井源助		旗本家来	松平因幡守家来	御門入	文化八未年二月廿一日					
六〇二	庄司茂一郎		三河国吉田藩士	松平伊豆守家来	御門入	享和三亥年十一月九日					
一一九	庄司吉左衛門		未詳		御門入	明和九辰年二月九日					
二二二	下村才次		旗本家来	同人(生駒監物)家来	御門入	安永七戌年閏七月十七日					
七八四	下田亦八郎		丹後国田辺藩士	牧野豊前守家来	御門入	三月十九日					
二五八	清水富吉		下野国烏山藩士	同人(大久保山城守)家来	御門入	文化十二亥年二月十五日					
三四	島田庄五郎		未詳		御門入	明和三戌年三月十五日					
三〇四	島岡鉞之助		旗本家来	近藤淡路守家来	御門入	寛政三亥年二月二日					
二〇七	芝山源三郎	貳百俵	旗本	小普請組頭	御門入	安永五申年八月七日					
六二四	柴野弥十郎		旗本	小普請組	御門入	文化二丑年五月廿七日	文化七年八月廿日	文化八未年十月廿七日			
七二〇	柴田主水正		旗本	御小性	御門入	文化九申年二月三日					
七七五	柴田澄五郎		未詳		御門入	文化十二亥年二月晦日					
七一九	篠田藤四郎		旗本	御書物奉行	御門入	文化九申年正月廿二日					
九九	篠崎朴庵	貳百俵	旗本		御門入	明和七寅年九月朔日					
四三四	品川喜四郎		旗本家来	石谷十蔵家来	御門入	寛政七卯年二月廿日					
七二八	志賀幸助		旗本次男	裏御右筆組頭(志賀)藤四郎次男	御門入	文化十酉年正月廿二日	「」丑年九月廿日	「」六日			
七二七	志賀金八郎		旗本	奥御右筆	御門入	文化十四酉年正月廿二日					
一七八	沢伴之丞		下野国烏山藩士	大久保山城守(忠喜)家来	御門入	安永三年八月七日					
四九九	沢田右門		旗本家来	松平多膳家来	御門入	寛政九巳年八月二日					
五二四	沢勢敬助		肥前国大村藩士	大村信濃守家来	皆伝	寛政十一未年正月七日	未記載	十二ヶ条目録 享和元酉年十月廿三日	仮名字目録 享和二戌年十月廿八日	文化三寅年五月	

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
一四一	城定忠助		未詳		御門入	明和九辰年八月四日					
六九三	城田弥五兵衛		陸奥国二本松藩士	丹羽加賀守(長祥)家来	御門入	文化八未年二月四日					
九九五	新庄伝之助		旗本家来	黒川権九郎家来	御門入	文政十一子年正月廿二日					
一〇二一	新庄安蔵		旗本家来	黒川権九郎家来	御門入	文政十三寅年八月廿七日					
一〇一九	菅 左司馬		越後国村上藩士	内藤紀伊守(信親)家来	御門入	文政十三寅年閏三月十二日					
四二九	菅田又右衛門		旗本家来	黒川近江守家来	御門入	寛政七卯年正月七日					
七七	菅沼喜内		旗本家来	同人(能勢筑前守)家来	御門入	明和七寅年二月十四日					
五二〇	杉浦鎌蔵		旗本養子	小普請方(杉浦)助左衛門養子	御門入	寛政十年十一月廿四日					
七三八	杉浦鉄吉		旗本養子	西丸御小性組大輔養子	御門入	文化十一戌年正月七日	文政六未年十月	未記載	文政九戌年十一月	天保三辰年十一月十一日	
九四七	杉田恒次		出羽国上山藩士	右同人(松平中務少輔信行)家来	御門入	文政九戌年四月九日					
六三三	小杉万次郎		旗本家来	神亀八郎家来	御門入	文化三寅年四月十六日					
二九三	杉山鉄蔵		旗本家来	伊東山城守家来	御門入	寛政二戌年十月五日					
九五七	介川亀次		秋田藩士	佐竹右京大夫(義厚)家来	御門入	文政九戌年二月六日	未記載	弘化二巳年四月十八日			
七六九	鈴木厚吉郎		旗本弟	御細工所頭(鈴木)清兵衛弟	御門入	文化十二亥年二月六日					
三六〇	鈴木嘉蔵		安房国北条藩士	水野耆岐守(忠韶)家来	御門入	寛政四子年七月九日					
九三八	鈴木九五		旗本家来	右同人(松平小豊次)家来	御門入	文政八酉年十一月十日					
一〇二二	鈴木久次郎		旗本惣領	御小納戸(鈴木)修理惣領	御門入	文政十三寅年八月廿七日					
一五六	鈴木弘司		未詳		御門入	安永二巳年三月十九日					
一八二	鈴木三弥		未詳		御門入	安永三年十月廿二日					
一八七	鈴木三六		未詳		御門入	安永四未年三月廿七日					
八三五	鈴木繁之丞		旗本弟	御小納戸(鈴木)修理弟	御門入	文政三辰年八月十二日	文政五年二月六日	文政五年五月六日	文政十一子年正月廿二日		
七三三	鈴木 蒨		旗本家来	黒川八左衛門家来	御門入	〔文化十年〕					
七〇七	鈴木修理		旗本	御小納戸	御門入	文化八未年五月二日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
三八九	鈴木政吉		旗本家来	稲垣八十五郎家来	御門入	寛政五丑年二月廿二日					
八七六	鈴木清之助		肥前国島原藩士	松平主殿頭(忠侯)家来	御門入	文政五年九月廿七日					
三六一	鈴木忠三郎		旗本	御徒	御門入	寛政四子年七月十二日					
二五一	鈴木常七		下野国烏山藩士	同人(大久保山城守)家来	御門入	寛政元酉年十月十五日					
八〇	鈴木伝吾		下野国烏山藩士	同人(大久保山城守)家来	御門入	明和七寅年四月九日					
三七	鈴木東口		未詳		御門入	明和三年八月廿日					
二九六	鈴木友蔵		旗本家来	篠山熊次郎家来	御門入	寛政二戌年十月二日					
九八	鈴木直右衛門		未詳		御門入	明和七寅年八月廿九日					
八一二	鈴木八弥		弘前藩家老家来	大道寺内蔵助家来	御門入	文化十四丑年五月廿八日					
一〇九	鈴木兵助		旗本家来	横田筑後守家来	御門入	明和八卯年二月九日					
七八七	鈴木平之丞		丹後国田辺藩士	牧野豊前守家来	免状	文化十二亥年三月十九日	文政三辰年六月廿日	文政四巳年六月廿八日	文政九戌年四月十日	天保九戌年八月十八日	安政四巳年十一月十一日
四六六	鈴木万五郎		旗本	小普請組	十二ヶ条目録	寛政八辰年正月廿二日	未記載	未記載			
五〇八	鈴木六蔵		下野国烏山藩士	右同人(大久保山城守)家来	御門入	寛政九巳年十月晦日					
二八七	須田文助		旗本家来	室賀図書家来	御門入	寛政二戌年八月十二日					
八〇六	諏訪鋳之助		旗本	小普請組	十二ヶ条目録	文化十四丑年正月廿二日	文政四巳年三月廿日	文政四巳年十月六日			
八〇七	諏訪鋳吉		旗本次男	御小性組 (諏訪) 新之丞次男	十二ヶ条目録	文化十四丑年正月廿二日	文政四巳年三月廿一日	文政四巳年十月六日			
九〇二	諏訪部鎌五郎		旗本惣領	御召御馬預り(諏訪部) □(サンズイ+文)九郎惣領	御門入	文政七申年正月廿二日					
一五〇	関口忠左衛門		未詳		御門入	安永二巳年正月廿四日					
七五五	関重次兵衛		丹後国田辺藩士	牧野豊前守家来	十二ヶ条目録	文化十一戌年八月十八日	文政四巳年四月廿日	文政四巳年六月廿八日			
七五三	関林八郎		丹後国田辺藩士	右同人(牧野豊前守)家来	御門入	文化十一戌年八月十八日					
九五九	瀬谷播吉		秋田藩士	右同人(佐竹右京大夫義厚)家来	御門入	文政九戌年八月十八日					
九一六	仙石駒之進		旗本家来	八木丹波守家来	御門入	文政八酉年二月二日					
六五七	千本小太郎		旗本	小普請組	御門入	文化四卯年十月七日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
九〇五	莊 寛助		肥前国大村藩士	大村上総介(純昌) 家来	御門入	文政七申年二月十日					
七一〇	十河佐善太		広島藩士	右同人(松平安芸守) 家来	御門入	文化八未年五月十二日					
九七五	曾根栄吉		旗本四男	右同人(曾根主税) 四男	十二ヶ条目録	文政十亥年正月七日	文政十三寅年九月廿日	天保三辰年九月廿日			
五二二	曾根七郎兵衛		旗本家来	小幡又三郎家来	御門入	寛政十一未年正月七日					
九七三	曾根伝吉		旗本次男	西丸御小納戸(曾根) 主税次男	御門入	文政十亥年正月七日					
六八〇	曾根孫之丞死		旗本	御小性組	十二ヶ条目録	文化七午年四月廿二日	文化十一戌年十月廿日	文化十二亥年十一月十二日			
六九五	曾根八十吉		旗本	御書院番	十二ヶ条目録	文化八未年二月十七日	文化十酉年四月廿日	文化十一戌年十二月七日			
七三二	高井右京亮		旗本	御小性	御門入	文化十酉年二月十六日					
四三〇	高井嘉根吉死		旗本弟	(高井) 新十郎弟	御門入	寛政七卯年二月七日					
三〇五	高井新十郎	千二十九石 六斗二升六 合九勺	旗本	御小性頭取	十二ヶ条目録	寛政三亥年二月二日	未記載	寛政九巳年三月			
五一四	高井大次郎		旗本弟	(高井) 新十郎弟	御門入	寛政十年正月七日					
八三九	高井本次郎		旗本次男	御小性頭取(高井) 对馬守次男	御門入	文政三辰年十一月廿七日					
三三九	高尾政五郎		旗本(交代寄合)	榊原越中守家来	御門入	寛政四子年正月廿七日					
三四一	高尾 登		旗本(交代寄合)	同人(榊原越中守) 家来	御門入	寛政四子年二月七日					
六〇一	高木破出助		旗本家来	右同人(加藤平内) 家来	御門入	享和三亥年十月二日					
二八九	高瀬猪蔵		秋田藩士	佐竹右京大夫(義厚) 家来	御門入	寛政二戌年八月十七日					
一一三	高瀬十蔵		未詳		御門入	明和八卯年三月十九日					
八五〇	高瀬伝蔵死		秋田藩士	右同人(佐竹右京大夫義厚) 家来	十二ヶ条目録	文政五午年正月廿八日	文政八酉年三月廿日	文政七申年六月廿日			
四二二	高□(槌?) 仙蔵		未詳	御内弟子	御門入	寛政六寅年六月二日					
三六三	高津周助		旗本家来	榊原因幡守家来	御門入	寛政四子年七月廿三日					
五九一	高取新太郎		出羽国山形藩士	秋元但馬守(永朝) 家来	御門入	享和三亥年三月廿七日					
九五二	高根金弥		秋田藩士	右同人(佐竹右京大夫義厚) 家来	免状	文政九戌年	文政十三寅年九月廿日	文政十三寅年十二月六日	天保三辰年閏十一月十一日	弘化二巳年四月廿一日	嘉永七寅年十二月十一日

記載順	氏名	禄高	身分	主家・統柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
一〇一五	高野大八		越前国敦賀藩士	右同人(酒井飛騨守)家来	御門入	文政十二丑年六月十六日					
三〇九	高橋宦蔵		未詳	御内弟子	御門入	寛政三亥年三月十六日					
一八六	高橋滝五郎		未詳		御門入	安永四未年三月廿七日					
四三六	高橋唯八		旗本家来	石谷十蔵家来	御門入	寛政七卯年二月廿日					
六四	高橋鉄弥		下総国関宿藩士	同人(久世出雲守)家来	御門入	明和六丑年六月十九日					
二四一	高橋平蔵		旗本家来	土岐大膳大夫家来	御門入	寛政元酉年閏六月廿九日					
三九三	高林虎之助	五百俵	旗本	小普請	十二ヶ条目録	寛政五丑年三月廿二日	寛政十一未年六月廿九日	寛政十二申年四月十二日			
八八	高松長太郎		未詳		御門入	明和七寅年四月廿四日					
七八八	高村伊太郎		旗本家来	平賀信濃守(貞愛)家来	御門入	文化十二亥年三月廿二日					
八一〇	高山平左衛門		旗本	御小納戸	御門入	文化十四丑年四月十四日					
二五〇	多賀三五郎		下野国烏山藩士	大久保山城守家来	御門入	寛政元酉年十二月十五日					
七七九	滝(金十禹)五郎		丹後国田辺藩士	牧野豊前守家来	御門入	文化十二亥年三月八日					
七五九	滝口甲五郎		丹後国田辺藩士	牧野豊前守家来	御門入	文化十一戌年八月十八日					
七五〇	滝口武右衛門		丹後国田辺藩士	右同人(牧野豊前守)家来	十二ヶ条目録	文化十一戌年八月十八日	文化十四丑年三月廿日	文化十五寅年二月晦日			
五一〇	滝口文長		下野国烏山藩士	大久保山城守家来	御門入	寛政九巳年十月晦日					
五三四	竹内元次郎		旗本家来	佐野右兵衛家来	御門入	寛政十一未年五月十二日					
七〇四	竹田甚五郎		未詳		替流断	文化八未年三月廿七日					
五六	竹田藤右衛門	八百石	旗本	御腰物方	御門入	明和六丑年二月九日					
四七二	竹中鎌吉	貳千石	旗本惣領	(竹中)求馬惣領	御門入	寛政八辰年八月七日					
四九五	竹中勇吉	七百石	旗本惣領	西丸御裏御門番之頭(竹中)藤兵衛惣領	御門入	寛政九巳年五月十四日					
二六六	武光文之丞		紀州藩士	同(紀伊殿家士)	御門入	寛政二戌年四月廿六日					
五七五	竹本小膳		未詳		御門入	享和二戌年八月四日					
五七四	竹本祐八		未詳		御門入	月四日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
一一四	田沢平八		未詳	右同人(佐竹右京大夫義厚)家来	御門入	明和八卯年三月廿九日					
九二八	田代源太		秋田藩士		御門入	文政八酉年五月八日					
一〇六	多田新太郎		未詳		御門入	明和七寅年十一月九日					
一三五	立花与兵衛	五百石	旗本	御書院番	御門入	明和九辰年三月廿四日					
一一〇	立岡弁蔵		未詳		御門入	安永五申年八月七日					
一九〇	田付四郎兵衛	八百石	旗本	御鉄砲方	御門入	安永四未年七月十七日					
二四〇	田中卯八		旗本家来	同人(川勝金次郎)家来	御門入	寛政元酉年閏六月廿七日					
五四八	田中吉蔵		旗本	奥御右筆	仮名字目録	寛政十三酉年正月廿七日	享和三亥年二月廿日	文化元申年五月十日	文化四卯年十二月十五日		
四〇七	田中金蔵		未詳		御門入	寛政五丑年六月十二日					
九一一	田中源五郎		丹後国田辺藩士	右同人(牧野豊前守)家来	御門入	文政八酉年二月二日					
一三九	田中五郎左衛門		旗本	大御番	仮名字目録	明和九辰年七月十九日	天明四辰年三月	未記載	天明六年七月		
三六四	田中順佐		旗本	御坊主	御門入	寛政四子年七月廿三日					
六三一	田中政蔵		旗本家来	大前孫兵衛家来	御門入	文化三寅年正月廿七日					
三五七	田中多市		旗本家来	神保佐渡守家来	御門入	寛政四子年五月十一日					
九七〇	田中為次郎		旗本	新御番(田中)宍五郎惣領	御門入	文政九戌年八月廿五日					
二五五	田中铁次郎		下野国烏山藩士	同人(大久保山城守)家来	御門入	寛政元酉年十二月十五日					
六四八	田中猶之助		旗本家来	松平兵庫頭家来	御門入	文化四卯年六月十九日					
一五九	田中安之丞		未詳		御門入	安永二巳年七月六日					
一五五	田中勇助		未詳		御門入	安永二巳年三月九日					
四二八	田辺十左衛門	四百俵	旗本	小普請	十二ヶ条目録	寛政七卯年正月廿二日	寛政十一未年六月廿九日	寛政十二申年四月十二日			
一三四	田辺多内		未詳		御門入	明和九辰年三月廿四日					
一〇二七	谷 泉吉		旗本弟	曾根八十吉弟	御門入	天保二卯年正月廿七日					
八七八	田部田從蔵		旗本家来	横瀬駿河守家来	御門入	文政五年十月六日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
一〇二〇	筒井奎之助		旗本養子	御書院番 (筒井) 次左衛門養子	御門入	文政十三寅年八月廿二日					
二六三	筒井松之丞		紀州藩士	紀伊殿家士	御門入	寛政二戌年四月廿四日					
三八	筒井□□		未詳		御門入	明和三年十一月五日					
六四三	土屋七郎		肥前国大村藩士	大村信濃守家来	御門入	文化四卯年正月廿九日					
六一七	土屋右源太		肥前国大村藩士	大村信濃守家来	十二ヶ条目録	文化二丑年正月廿一日	文化六巳年七月廿日	文化七午年九月十日			
六九六	土屋伊左衛門		旗本家来	松平因幡守家来	御門入	文化八未年二月廿一日					
七六八	津田武兵衛		旗本	小十人組	御門入	文化十二亥年二月二日					
二四七	津軽定吉		未詳		御門入	寛政元酉年十月廿四日					
六九九	津軽越中守		弘前藩主津軽寧親	未記載	仮名字目録	文化八未年閏二月朔日	文化十一戌年八月朔日	文化十二亥年五月朔日	文政二卯年四月十六日		
五七二	塚原藤蔵		未詳		御門入	享和二戌年五月廿七日					
八七三	千村安之助死		旗本	小普請組	払捨刀	文政五年七月廿七日	文政十亥年十一月廿日				
八五七	知久六蔵		秋田藩士	佐竹右京大夫(義厚)家来	御門入	文政五年閏正月晦日					
六一	千賀弥太郎		常陸国麻生藩士	新庄駿河守(直侯)家来	御門入	明和六丑年三月十四日					
二四九	千賀伝蔵死		未詳		十二ヶ条目録	寛政元酉年十二月十二日	未記載	寛政五丑年二月廿日			
九六四	大道寺仁太郎		旗本	西丸御書院番	御門入	文政九戌年五月廿八日					
四一五	大道寺助四郎		弘前藩家老弟	(大道寺)内蔵助弟	十二ヶ条目録	寛政五丑年十月朔日	寛政十一未年六月廿九日	寛政十二申年四月廿二日			
五〇	大道寺極		未詳		御門入	明和五年六月九日					
七九三	田屋岩吉		旗本家来	平賀信濃守(貞愛)家来	御門入	文化十二年六月十七日					
三一三	田村貢		未詳	御内弟子	十二ヶ条目録	寛政三亥年四月廿二日	寛政四子年二月十九日	未記載			
三九四	田村鉄三郎	五百石	旗本次男	屋敷改 (田村)又四郎次男	御門入	寛政五丑年三月廿三日					
八五八	田村千太郎		秋田藩士	右同人(佐竹右京大夫義厚)家来	御門入	文政五年閏正月晦日					
三五二	玉虫左兵衛	五百石	旗本	御書院番	御門入	寛政四子年三月十二日					
四八六	玉置富三郎		旗本	清水中ノ口番	御門入	寛政九巳年正月廿二日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
一九二	都築久左衛門		旗本	大御番	御門入	安永四未年八月七日					
五五九	都長幸七		旗本家来	右同人(土岐大膳大夫)家来	御門入	享和元酉年三月廿七日					
九〇〇	常井祥助		肥前国大村藩士	大村上総介(純昌)家来	免状	文政六未年七月廿五日	未記載	文政十二丑年八月廿五日	文政十三寅年十月廿七日	天保三辰年閏十一月十一日	弘化四未年四月十四日
九七七	恒川九十郎		丹後国田辺藩士	牧野山城守家来	御門入	文政十亥年正月廿五日					
三九七	角田半蔵		旗本家来	池田筑後守(長発)家来	御門入	寛政五丑年四月廿六日					
一〇四	坪内右膳	七百石	旗本養子	(坪内)久四郎養子 大御番組頭	十二ヶ条目録	明和七寅年十一月九日	寛政五丑年三月廿日	未記載			
三二八	坪内益次郎		旗本養子	大御番組頭(坪内)久四郎養子 右膳惣領	御門入	寛政三亥年九月十一日					
三三五	津村男成		旗本(交代寄合)	榊原越中守家来	御門入	寛政四子年正月廿二日					
八二八	寺沢新五左衛門		御家人伴	(寺沢)治部右衛門伴	御門入	文政三辰年正月廿二日					
八四	寺田勘兵衛		未詳	未記載	皆伝	明和七寅年四月九日	天明四辰年	未記載	月 天明五巳年三月	月 寛政二戌年三月	
八八〇	寺田長之助		旗本家来	榊原左衛門家来	御門入	文政五年十一月十七日					
一〇一三	寺町孫兵衛		越前国敦賀藩士	酒井飛騨守家来	御門入	文政十二丑年六月十六日					
四〇五	東城勘ヶ由		旗本弟	吉良式部弟	御門入	寛政五丑年五月廿七日					
五六二	藤堂市郎死		未詳		御門入	享和元酉年十月七日					
五六三	藤堂栄次郎	千石	旗本(寄合)	寄合	御門入	享和元酉年十月七日					
一一八	土岐藤之丞		未詳		御門入	明和八卯年六月廿九日					
四五四	土岐隼太		秋田藩士	佐竹右京大夫(義厚)家来	御門入	寛政七卯年十月廿七日					
七八六	徳田□(サンズイ+慈)之助		丹後国田辺藩士	牧野豊前守家来	御門入	文化十二亥年三月十九日					
六六八	戸城伝左衛門		陸奥国二本松藩士	丹羽加賀守(長祥)家来	十二ヶ条目録	文化六巳年二月九日	文化八未年三月廿六日	文化八未年四月廿一日			
九八四	宮田米吉		旗本次男	西丸御小性組(宮田)勘四郎次男	御門入	文政十亥年四月十二日					
五一	富永岩次郎		未詳		御門入	明和五子年九月十四日					
七六五	富永小太郎		肥前国大村藩士	大村信濃守家来	皆伝	文化十一戌年八月十八日	文化九申年十一月廿日	未記載	文化十二亥年五月晦日	文政四巳年十月廿五日	
二〇二	富永左門		未詳		替流断	安永五申年二月二日	替流断				

記載順	氏名	禄高	身分	主家・統柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
九三五	中村才次		出羽国上山藩士	右同人(松平中務少輔信行)家来	御門入	文政八酉年九月廿一日					
一三六	中村才次郎		未詳		御門入	明和九辰年三月廿九日					
一二六	中野卯之助		下野国足利藩士	戸田長門守(忠言)家来	御門入	明和八卯年十月廿九日					
三八二	中根弥市		旗本家来	小幡又十郎家来	御門入	寛政五丑年正月廿七日					
二二六	中根大之助		旗本弟	(中根)勘ヶ由弟	御門入	寛政元酉年六月二日					
四八	中根勘ヶ由	貳千石	旗本	御書院番	御門入	明和五子年五月廿四日					
七六七	中西堅蔵		丹後国田辺藩士	牧野豊前守家来	替流断	文化十二亥年正月廿六日	替流断				
九八二	中西鉞蔵		丹後国田辺藩士	右同人(牧野山城守)家来	御門入	文政十亥年正月四日					
一四四	中島金蔵		旗本家来	近藤勘左衛門家来	御門入	文政十亥年正月四日					
三四九	中沢牧太		旗本家来	最上監物家来	御門入	寛政四子年閏二月七日					
八九一	中川小一郎		丹後国田辺藩士	右同人(牧野豊前守)家来	十二ヶ条目録	文政六未年三月八日	文政六亥年十一月廿日	文政十一子年十一月			
九六八	中川熊蔵		丹後国田辺藩士	右同人(牧野山城守)家来	御門入	文政九戌年八月十七日					
五〇一	中井富三郎		下野国烏山藩士	右同人(大久保山城守)家来	御門入	寛政九巳年十月晦日					
一九六	中井清次		未詳		御門入	安永四未年九月十六日					
四一四	直喜富次郎		旗本家来	千本吉之丞家来	御門入	寛政五丑年九月廿七日					
四五〇	直井恩治		旗本家来	坂部能登守家来	御門入	寛政七卯年九月十二日					
八七二	内藤八百次郎死		旗本次男	(内藤)新十郎次男	御門入	文政五午年七月廿七日					
九〇七	内藤巳之助		旗本	一橋殿広敷添番	御門入	文政七申年八月十七日					
五七七	内藤新太郎死	百五拾俵	旗本	御小性組	皆伝	文政七申年八月廿二日	文化二丑年十一月廿日	文化四巳年十二月十五日	文化十二亥年十一月十二日	文政五午年五月六日	
五九四	内藤佐十郎		肥後国吉藩士	相良老岐守(頼之)家来	御門入	享和二戌年八月廿二日					
九一八	鳥居喜六		旗本家来	右同人(八木丹波守)家来	御門入	享和三亥年五月二日					
六四二	朝長平太		肥前国大村藩士	大村信濃守家来	御門入	文化四卯年正月廿九日					
六六一	戸村門太郎		下野国烏山藩士	大久保山城守家来	御門入	文化五辰年六月二日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
八七五	中村正助		肥前国大村藩士	大村上総介(純昌) 家来	十二ヶ条目録	文政五年八月十六日	文政六年三月廿日	文政六年九月			
一〇〇九	中村宗蔵		越前国敦賀藩士	酒井飛驒守家来	御門入	文政十二年六月十六日					
四二	中村豊八		未詳		御門入	明和四年四月十九日					
四九四	中村豊太郎		常陸国麻生藩士	新庄駿河守(直侯) 家来	御門入	寛政九巳年五月四日					
六四四	中村弥平次		旗本家来	松平因幡守家来	御門入	文化四卯年三月廿三日					
二四三	中山伊織	五百石	旗本惣領	御旗奉行(中山) 周防守惣領	御門入	寛政元酉年八月十日					
二二八	中山助六郎	三千石	旗本(寄合)	寄合	御門入	寛政元酉年二月廿日					
六〇四	中山大吉		旗本	小普請組	御門入	享和三亥年十月廿七日	文化三寅年六月廿日	文化四卯年十一月十五日	文化十二亥年十一月十二日		
二二四	中山勇兵衛		旗本家来	川勝金次郎家来	御門入	安永七戌年六月二日					
一二四	中綿権蔵		伊勢国神戸藩士	本多伊予守(忠升) 家来	御門入	明和八卯年九月廿九日					
四	長「」(欠損)		旗本	西丸御小性組式番	御門入	〔明和元年〕					
八六五	永井一郎		旗本	御書院番	仮名字目録	文政五年二月十二日	文政九戌年十月廿日	文政八酉年七月十四日	天保二卯年九月廿日		
一〇〇二	永井兌次郎		旗本惣領	小普請組(永井) 右京惣領	替流断	文政十二年正月廿二日	替流断				
八八八	永井小弥太		丹後国田辺藩士	牧野豊前守家来	御門入	文政六年八月八日					
三〇八	長井幡蔵		旗本家来	松平小豊次家来	御門入	寛政三亥年二月七日					
六九一	長坂乙三郎		未詳		替流断	文化七年八月十三日	替流断				
四七	長坂頼母	千石	旗本		御門入	明和五年五月廿四日					
四八九	長坂血鏝九郎	千石	旗本	御小納戸	十二ヶ条目録	寛政九巳年二月十日	享和元酉年九月廿日	享和元酉年九月廿二日			
六二九	長坂半三郎		旗本	御徒	御門入	文化三寅年正月廿六日					
四九〇	長沢常八		陸奥国白河藩士	松平越中守(定信) 家来	御門入	寛政九巳年三月二日					
一九	長田「」進		未詳		御門入	明和二年正月十八日					
一〇五五	永田清兵衛		越前国敦賀藩士	右同人(酒井飛驒守) 家来	御門入	天保四巳年正月廿六日					
四六〇	長田豊次郎		旗本	小普請組	御門入	寛政七卯年閏十一月十八日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	扨捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
一〇〇一	長野岩太郎		旗本	小普請組	御門入	文政十二丑年正月廿二日					
一二七	永野健之丞		和泉国岸和田藩士	岡部美濃守(長住)家来	御門入	明和九辰年二月九日					
一〇三一	永野佐五右衛門		对馬藩士	宗对馬守家来	皆伝	天保二卯年八月七日	未記載	天保十二丑年八月廿五日	嘉永三戌年三月十九日	嘉永七寅年十一月十九日	
七六四	長浜倉八		丹後国田辺藩士	右同人(牧野豊前守)家来	御門入	文化十一戌年八月十八日					
五五〇	奈佐栄蔵	式百俵	旗本	西丸奥御右筆	御門入	寛政十三酉年二月廿二日					
七二六	奈佐榎三郎		旗本弟	西丸奥御右筆(奈佐)栄蔵弟	仮名字目録	文化十四酉年正月廿二日	文化十四丑年九月廿日	文政元寅年十月廿五日	文政六未年三月廿九日		
一〇五七	奈佐勇三郎		旗本養子	西丸奥御右筆(奈佐)□蔵養子	御門入	天保四巳年四月七日					
七三四	那須八郎左衛門		肥後国人吉藩士	相良志摩守(頼徳)家来	皆伝	文化十四酉年七月六日	文化十一戌年十二月	文化十二亥年四月四日	文化十三子年四月四日	文化十四丑年三月十日	
四〇三	那須隼太		旗本家来	同人(小幡又十郎)家来	御門入	寛政五丑年五月十五日					
七〇〇	那須与市		旗本(寄合)	交代寄合	仮名字目録	文化八未年閏二月朔日	文化十一戌年八月朔日	文化十二亥年五月朔日	文政二卯年四月十六日		
一〇〇〇	那須六郎左衛門		肥後国人吉藩士	相良志摩守(頼之)家来	皆伝	文政十一子年十二月廿一日	文政十二寅年九月廿日	文政十三寅年十二月六日	天保八酉年四月廿五日	弘化二巳年四月廿九日	
四四一	並河 勇		出雲国広瀬藩士	松平淡路守(直義)家来	御門入	寛政七卯年三月廿日		文政七申年六月廿日			
八二七	並河伊三郎		旗本家来	松平兵庫頭家来	十二ヶ条目録	文化八未年三月十九日					
七〇三	並河小藤次		旗本家来	松平兵庫頭家来	御門入	文化八未年三月十六日					
六二八	名村禎助		陸奥国会津藩士	松平肥後守(容住)家来	御門入	文化二丑年十一月廿六日					
五六九	奈良富次郎		旗本家来	平賀式部家来	御門入	享和二戌年四月廿七日					
九	成瀬城之助		未詳		御門入	明和元申年七月廿九日					
二〇六	南条富五郎		未詳		御門入	安永五申年六月十七日					
四五	贅善之丞		旗本惣領	御小性組(贅)楠五郎惣領	十二ヶ条目録	明和五子年二月十九日	安永五申年正月廿二日	未記載			
二〇一	西岡 亘		未詳		御門入	安永五申年正月廿二日					
六七一	西崎刑部左衛門		陸奥国二本松藩士	右同人(丹羽加賀守)家来	御門入	文化六巳年三月四日					
三九八	仁科番次郎		旗本家来	池田筑後守(長発)家来	御門入	寛政五丑年四月廿六日					
六八二	西村正吉		未詳	御内弟子	御門入	文化七午年五月十六日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
三三〇	野本金十郎		旗本(交代寄合)	同人(榊原越中守) 家来	御門入	寛政四子年二月七日					
四四五	野本卯之助		和泉国岸和田藩士	岡部美濃守(長修) 家来	御門入	寛政七卯年十月廿七日					
二八八	野村次郎兵衛		越前国鯖江藩士	間部若狭守(詮熙) 家来	御門入	寛政二戌年八月十二日					
三五〇	野々山清蔵	四百石	旗本	西丸御徒頭	十二ヶ条目録	寛政四子年閏二月廿七日	未記載	寛政十年年正月七日			
四七五	野津寅之丞		旗本次男	高家 大友式部大輔次男	御門入	寛政八辰年八月廿五日					
四五九	野田定五郎		旗本	小普請組	御門入	寛政七卯年閏十一月十三日					
六八五	能勢六郎		未詳		御門入	文化七午年七月五日					
二八三	能勢帯刀	四千石	旗本(寄合)	寄合(能勢) 筑前守惣領	十二ヶ条目録	寛政二戌年六月二日	未記載	寛政七卯年八月十九日			
八二二	能勢清吉		旗本家来	室賀兵庫家来	御門入	文政二卯年二月廿二日					
一六二	能勢源太夫		旗本嫡孫	御先手(能勢) 助十郎嫡孫	御門入	安永三年年二月廿二日					
六八四	能勢熊之助		未詳		御門入	文化七午年七月五日					
一四五	能勢菊三郎		未詳		御門入	明和九辰年九月十四日					
七五	能勢筑前守	四千石	旗本(寄合)	寄合	仮名字目録	明和七寅年二月十四日	安永三年年四月	未記載	寛政三亥年十月十三日		
一〇五〇	野口 保		越前国敦賀藩士	右同人(酒井飛驒守) 家来	御門入	天保四巳年正月廿六日					
一〇一二	野口重平次		越前国敦賀藩士	右同人(酒井飛驒守) 家来	御門入	六月十六日					
三六七	野口重蔵		和泉国岸和田藩士	岡部美濃守(長修) 家来	御門入	文政十二丑年八月廿七日					
一〇三〇	根来金弥		旗本	(清水徳川) 恒之丞(斎彊) 殿小性	御門入	寛政四子年八月十二日					
五三〇	根岸森愛		旗本家来	大久保信濃守家来	御門入	三月十五日					
八六三	丹羽亭九郎		播磨国三草藩主次男	御奏者番(丹羽) 長門守次男	御門入	正月十五日					
六六七	丹羽加賀守		陸奥国二本松藩主	(丹羽加賀守長貴)	十二ヶ条目録	文化六巳年二月九日	文化八未年三月廿六日	文化八未年四月廿一日			
八四二	西山和三郎		旗本	小普請組	十二ヶ条目録	月廿二日	文政七申年二月廿日	文政八酉年八月九日			
五三八	西山鉄次郎		旗本惣領	(西山) 鞆負惣領	御門入	正月七日					
九九三	西村大二郎		丹後国田辺藩士	牧野山城守家来	御門入	正月十二日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
一七二	萩野 亘		未詳		御門入	安永三年七月十二日					
二三二	萩原定吉		旗本家来	中山勝太郎家来	御門入	寛政元酉年三月十七日					
六一四	橋本千太郎		未詳		御門入	文化元子年八月晦日					
二七一	橋本文蔵		旗本家来	同人(平賀式部少輔)家来	御門入	寛政二戌年五月十二日					
七八二	長谷川寛次郎		旗本	西丸御小性組	御門入	文化十二亥年三月十二日					
七二一	長谷川弥門		旗本家来	鈴木清兵衛家来	御門入	文化九申年二月「」日					
九三四	長谷川輪平		出羽国上山藩士	(松平)中務少輔(信)家来	御門入	文政八酉年九月廿一日					
三六六	八田定次郎		未詳		御門入	寛政四子年八月廿一日					
四七一	服部一郎右衛門	千石	旗本	御徒頭	御門入	寛政八辰年七月廿二日					
一〇〇	服部斧太郎		未詳		御門入	明和七寅年九月朔日					
五一六	服部斧吉		旗本三男	(服部)庄三郎三男	御門入	寛政十午年三月十一日	文化二午年三月廿日	文化三寅年四月十六日			
六三九	服部九十郎		旗本	大御番	御門入	文化三寅年十月十九日					
五四	服部耕蔵		旗本家来	菅沼又兵衛家来	御門入	明和五子年十月四日					
八四一	服部駒之助		旗本惣領	御書院番 (服部)剛次郎惣領	皆伝	文政四巳年八月廿二日	文政七申年三月廿日	文政八酉年七月廿四日	天保二卯年九月廿日		
五五三	服部剛次郎		旗本	御書院番	十二ヶ条目録	享和元酉年二月廿二日	享和三亥年二月廿日	文化四卯年十月十五日		天保十二丑年八月九日	
六八一	服部繁之丞		未詳		御門入	文化七午年五月十六日					
五一五	服部信太郎	九百五拾石	旗本惣領	御小性組 (服部)庄三郎惣領	御門入	寛政十午年三月十二日					
七一三	服部□(金+廷)之助		未詳		御門入	文化八未年六月八日					
一六七	服部又市		未詳		御門入	安永三年五月十七日					
四一二	服部弥平		和泉国岸和田藩士		御門入	寛政五丑年九月廿日					
五五五	早川勝蔵		旗本家来	岡部美濃守(長修)家来	御門入	享和元酉年三月廿七日					
二七八	早崎仙蔵		旗本家来	土岐大膳大夫家来	御門入	寛政二戌年五月廿八日					
二七五	林 左兵衛		旗本家来	同人(能勢筑前守)家来	御門入	寛政二戌年五月廿八日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
一六	早野弥「」		旗本家来	松平□之助家来	御門入	明和元年九月十九日					
八八一	原 重太郎		肥前国大村藩士	大村上総介(純昌)家来	十二ヶ条目録	文政五年十一月十七日	文政五年三月廿日	文政六年二月十三日			
六一六	原田源阿弥		旗本	御同朋	御門入	文化元子年十一月七日					
七五一	原田得三		丹後国田辺藩士	牧野豊前守(牧野豊前守)家来	御門入	文化十一年八月十八日					
九三二	原田半阿弥		旗本	御同朋	御門入	文政八酉年七月廿二日					
一〇三八	伴 清之助		旗本	(清水徳川)恒之丞(齐彊)殿小十人	御門入	天保三辰年正月廿九日					
九五六	樋口金太郎		秋田藩士	右同人(佐竹右京大夫義厚)家来	御門入	文政九戌年十一月十二日					
九九九	日野吉十郎		旗本	(清水徳川)恒之丞(齐彊)殿近習番	御門入	文政十一年正月十一日					
八六二	日向庫之進		旗本次男	(日向)次郎八次男	御門入	文政五年閏四月廿七日					
八〇三	日向七郎		旗本	御小性組	十二ヶ条目録	文政五年閏正月十一日	文政四巳年三月廿日	文政四巳年十月六日			
八六一	日向為次郎		旗本惣領	御書院番 (日向)次郎	御門入	文政五年正月十一日					
八四七	平岩栄三郎		旗本惣領	御小性組 (平岩)与次	十二ヶ条目録	文政五年正月廿四日	文政九戌年十月廿日	文政十亥年十月廿日			
五四六	平岩与次右衛門		旗本	右衛門惣領	仮名字目録	寛政十二申年五月廿七日	享和三亥年二月十一日	文化元酉年五月十日	文化四卯年十月十五日		
二九四	平賀三五郎	四百俵	旗本	御小納戸	十二ヶ条目録	寛政二戌年十月十三日	寛政十一年六月廿九日	寛政十二申年四月十二日			
一四八	平賀式部少輔	四百俵	旗本	御普請奉行	御門入	安永二巳年正月十九日					
一四七	平賀新五郎		旗本伯父	御普請奉行 (平賀)式部少輔伯父	御門入	安永二巳年正月十九日					
七八三	平賀丹宮		旗本	御書院番	御門入	文化十二年三月十七日					
五九	平島民之助		未詳		御門入	明和六丑年二月十九日					
一〇〇四	平田直之丞		対馬藩士	宗対馬守家来	御門入	文政十二丑年二月廿一日					
九六三	平塚強左衛門		秋田藩士	右同人(佐竹右京大夫義厚)家来	御門入	文政九戌年五月十三日					
九五五	平塚 蒔		秋田藩士	右同人(佐竹右京大夫義厚)家来	御門入	文政九戌年五月十三日					
一七五	平野源次		旗本家来	大久保荒之助家来	御門入	安永三年七月廿二日					
二五七	平野太膳		下野国烏山藩士	大久保山城守家来	御門入	寛政元酉年十二月十五日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・統柄	極位	御門入	扨捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
六七	平野彦市		常陸国麻生藩士	新庄駿河守(直侯)家来	御門入	明和六丑年八月九日					
七八	平野六右衛門 牛歩下改		下野国烏山藩士	大久保山城守(忠卿)家来	皆伝	明和七寅年二月廿九日	未記載	未記載	寛政三亥年十月十二日	未記載	
八八四	平山金太郎		秋田藩士	右同人(佐竹右京大夫義厚)家来	御門入	文政五年十月廿四日					
三二六	平山新六郎		秋田藩士	佐竹右京大夫(義厚)家来	御門入	寛政三亥年八月廿七日					
九四一	蛭川甲之助		旗本次男	奥御右筆組頭(蛭川)伊兵衛次男	御門入	文政九戌年正月廿二日					
八八九	広瀬岩次郎		丹後国田辺藩士	牧野豊前守家来	御門入	文政六未年三月八日					
五一九	広瀬平蔵		旗本家来	高井新十郎家来	御門入	寛政十年六月七日					
一八	広野軍五郎		和泉国岸和田藩士	岡部内膳正(長住)家来	皆伝	明和元申年十月廿三日	未記載	未記載	未記載	未記載	
三二	深見久太夫	五百五十俵	旗本	小普請	御門入	明和三戌年三月十三日					
五一三	深見新八	貳百五十拾俵	旗本	西丸御小納戸	十二ヶ条目録	寛政九巳年十一月五日	寛政十二申年三月廿日	寛政十二申年四月十二日			
二二六	深谷政之助		旗本	西丸御小納戸	御門入	天明八申年十二月二日					
六〇	府川新次郎		越後国新発田藩士	溝口主膳正(直養)家来	御門入	明和六丑年二月廿九日					
七一九	吹野仙蔵		旗本	川勝主馬	御門入	文化八未年六月八日					
七九	福井友次郎		下野国烏山藩士	同人(大久保山城守)家来	御門入	明和七寅年四月九日					
五〇〇	福井文次		下野国烏山藩士	大久保山城守家来	御門入	寛政九巳年十月晦日					
七四七	福尾周助		丹後国田辺藩士	牧野豊前守家来	御門入	文化十一戌年八月十八日					
八七〇	福尾東馬		旗本家来	内藤新太郎家来	御門入	文政五年二月二日					
七五八	福尾元也		丹後国田辺藩士	右同人(牧野豊前守)家来	御門入	文化七午年二月三日					
六七八	福士喜十郎		旗本家来	吉良式部家来	御門入	文化七午年二月七日					
六五八	福田小三郎死		美濃国大垣藩士	戸田采女正(氏教)家来	御門入	文化四卯年十月廿五日					
三八〇	福本 蒨		旗本家来	同人(伊東山城守)家来	御門入	安永二巳年正月廿九日					
一五一	藤井吉五郎		未詳		御門入	文化十二亥年二月廿一日					
七七三	藤井重太郎		未詳		御門入						

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
一五三	藤井長蔵		未詳		御門入	安永二巳年正月廿九日					
一八三	藤井鉄作		未詳		御門入	安永三年十一月十二日					
六〇九	藤枝帯刀		未詳		御門入	文化元子年四月二日					
四八三	藤田宇右衛門		旗本家来	伊東主膳家来	御門入	寛政九巳年正月廿二日					
二二九	藤田兵蔵		旗本家来	川勝金次郎家来	御門入	寛政元酉年閏六月廿七日					
七五四	藤田弥太夫		丹後国田辺藩士	右同人(牧野豊前守)家来	御門入	文化十一巳年八月十八日					
七六〇	藤田与一郎		丹後国田辺藩士	右同人(牧野豊前守)家来	御門入	文化十一巳年八月十八日					
七六	藤波 半		旗本家来	能勢筑前守家来	御門入	明和七寅年二月十四日					
二九	藤卷久次郎		三河国西尾藩士	松平和泉守(乗完)家来	御門入	明和二酉年十一月八日					
一五八	藤間弥市		未詳		御門入	安永二巳年五月四日					
三三八	藤本万之助		旗本(交代寄合)	同人(榊原越中守)家来	御門入	寛政四子年正月廿二日					
六八	布施定之進		未詳		御門入	明和六丑年八月廿四日					
八五一	布施東十郎		秋田藩士	右同人(佐竹右京大夫義厚)家来	御門入	文政五午年正月廿八日					
九五〇	布施篤蔵		秋田藩士	右同人(佐竹右京大夫義厚)家来	御門入	文政九巳年正月十二日					
四四三	二葉徳次郎		御家人伴	御玄関番(二葉)丈助伴	御門入	寛政七卯年五月十二日					
九四三	船本又六		常陸国笠間藩士	牧野越中守(貞幹)家来	御門入	文政九巳年正月廿二日					
五〇二	船山久吾		下野国烏山藩士	右同人(大久保山城守)家来	御門入	寛政九巳年十月晦日					
八七九	古田新次郎		丹後国田辺藩士	牧野豊前守家来	御門入	文政五午年十一月九日					
二七	古谷逸平		未詳		御門入	明和二酉年九月廿九日					
四六	別所 弼		未詳		御門入	明和五子年五月十三日					
五六〇	北条李之丞		旗本家来	右同人(土岐大膳大夫)家来	御門入	享和元酉年三月廿七日					
九九二	細井鑽次郎		旗本	小普請組	御門入	文政十一子年正月七日					
五七九	細井新五郎	三百俵	旗本	御小性組	十二ヶ条目録	享和二巳年九月十七日	文化二丑年十一月廿日	文化十二亥年十一月十二日			

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
二八	細川口蔵		未詳		御門入	明和二酉年九月廿九日					
二一五	細田弥三郎	五百石	旗本(寄合)	寄合	御門入	安永七戌年六月二日					
七三六	堀田金之丞		未詳		替流断	文化十酉年八月七日					
六〇七	堀内久甫		未詳	御内弟子	御門入	文化元子年三月三日					
二三八	堀江周次		秋田藩士	御内弟子 御内弟子 厚)家来 佐竹右京大夫(義厚)家	御門入	寛政元酉年閏六月二日					
八八三	堀江弁蔵		秋田藩士	佐竹右京大夫(義厚)家	御門入	文政五年十一月廿四日					
五九二	堀越吉蔵		出羽国山形藩士	右同人(秋元但馬守)家	御門入	享和三亥年三月廿七日					
三八七	堀 九十九		常陸国麻生藩士	新庄駿河守(直侯)家来	御門入	寛政五丑年二月廿二日					
四七〇	堀中郡治		未詳		御門入	寛政八辰年五月二日					
二八五	本多清兵衛		旗本	一ツ橋殿御膳所改役	御門入	寛政二戌年八月二日					
四一八	本多辰次郎		旗本	小普請	御門入	寛政五丑年十一月廿四日					
六六三	本多鉄三		未詳		御門入	文化五辰年七月十二日					
六三八	本多当太郎		未詳		御門入	文化三寅年十月十七日					
八	本間右源太		未詳		御門入	明和元申年七月廿九日					
七五六	本間外男蔵		丹後国田辺藩士	右同人(牧野豊前守)家来	御門入	文化十一戌年八月十八日					
三五	前田半右衛門		未詳		御門入	明和三戌年四月廿日					
九三七	前田馬兵太		旗本家来	松平小豊次家来	御門入	文政八酉年十一月十日					
七〇	曲淵老之助		未詳		御門入	明和六丑年九月四日					
五七	牧野鍼弥		未詳		御門入	明和六丑年二月九日					
七八一	牧野震之丞		旗本惣領	長崎奉行(牧野)長門守惣領	御門入	文化十二亥年三月十二日					
七四三	牧野春之助		丹後国田辺藩主弟	牧野豊前守弟	十二ヶ条目録	文化十一戌年八月十八日	文化十三年八月廿日	文化十三年九月朔日			
二五三	槇野与三郎		下野国烏山藩士	大久保山城守家来	御門入	寛政元酉年十二月十五日					
二六五	牧弥藤次		紀州藩士	紀伊殿家士	払捨刀	寛政二戌年四月廿六日	未記載				

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
五六一	間瀬木五太夫		三河国吉田藩士	松平伊豆守(信明) 家来	十二ヶ条目録	享和元酉年十月二日	享和三亥年二月廿日	文化元酉年九月廿五日			
四〇一	町田 葩		旗本家来	同人(池田筑後守) 家来	御門入	寛政五丑年五月九日					
二九七	町田政六		旗本家来	篠山熊次郎家来	御門入	寛政二戌年十月二日					
九二七	松井慶太		秋田藩士	佐竹右京大夫(義厚) 家来	御門入	文政八酉年五月八日					
一四六	松浦富之助		武蔵国岩槻藩士	大岡式部少輔(忠要) 家来	御門入	明和九辰年十月四日					
三一五	松岡楯之丞		旗本家来	同人(平賀式部少輔) 家来	御門入	寛政三亥年五月十二日					
九七四	松風正吉		旗本家来	右同人(曾根主税) 家来	御門入	文政十亥年正月七日					
三八五	松崎長次郎		御家人伴	御置方手代(松崎) 六助伴	御門入	寛政五丑年二月十二日					
四七四	松田稻之助	三百俵	旗本	小普請組	御門入	寛政八辰年八月廿二日					
八四五	松平栄三郎		旗本	御小納戸	十二ヶ条目録	文政四巳年十一月九日	文政九戌年十一月廿日	文政十亥年十一月七日			
三七三	松平栄次郎		旗本家来	黒川近江守家来	御門入	寛政五丑年正月七日					
一〇四一	松平鎌吉		旗本三男	御小性頭取(松平) 左衛門尉三男	御門入	天保三辰年八月廿二日					
三一七	松平龜右衛門		旗本弟	西丸御小性組(松平) 左源次弟	御門入	寛政三亥年六月廿二日					
五四九	松平敬蔵		旗本三男	小普請奉行(松平) 淡路守三男	御門入	寛政十三酉年二月十日					
九三六	松平源三郎		旗本(寄合)	寄合(松平) 小豊次惣領	御門入	文政八酉年十一月十日					
三一八	松平甲太郎		旗本(寄合)	寄合(松平) 小豊次弟	御門入	寛政三亥年六月廿二日					
三〇六	松平小豊次	三千石	旗本(寄合)	寄合	十二ヶ条目録	寛政三亥年二月七日	寛政七卯年正月廿五日	寛政七卯年八月十九日			
九三三	松平三郎太郎		出羽国上山藩主惣領	御側衆(松平) 中務少輔(信行) 惣領	御門入	文政八酉年九月廿一日					
四四二	松平三助		出雲国松江藩主弟	(松平) 出羽守(治郷) 弟	十二ヶ条目録	寛政七卯年五月十日	寛政九巳年三月十六日	寛政十年年正月七日			
九九六	松平七十郎		旗本弟	御小性(松平) 兵庫頭	十二ヶ条目録	文政十一子年二月七日	文政十三寅年九月廿日	天保三辰年閏十一月十一日			
四八七	松平真次郎		出雲国広瀬藩主三男	(松平) 淡路守(直義) 三男	十二ヶ条目録	寛政九巳年二月七日	享和元酉年九月廿日	享和元酉年十一月廿二日			
四七七	松平末五郎		旗本四男	(松平) 佐五郎四男	御門入	寛政八辰年十月十二日					
四七八	松平千次郎		旗本五男	(松平) 佐五郎五男	御門入	寛政八辰年十月十二日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	扨捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
六	松平伝三郎		未詳		御門入	明和元年七月廿四日					
四四〇	松平舍人	千石	旗本次嫡	小普請奉行 (松平) 淡路守次嫡	十二ヶ条目録	寛政七卯年三月廿日	寛政十二申年四月四日	寛政十二申年二月六日			
六三二	松平隼之助		未詳		替流断	文化三寅年四月十二日	替流断				
八二六	松平兵庫頭		旗本	御小性	十二ヶ条目録	文政二卯年六月十九日	文政五年十月廿日	文政六未年三月廿九日			
四四七	松平文作	七百石	旗本惣領	中興御番 (松平) 弥九郎惣領	御門入	寛政七卯年六月廿日					
二六二	松平和田五郎		旗本次男	(松平) 源六郎次男	御門入	寛政二戌年三月廿七日	文化十一戌年十一月廿日	文化十一戌年十二月七日			
七三〇	松田寛左衛門		肥前国大村藩士	右同人 (大村信濃守) 家来	十二ヶ条目録	文化十酉年正月廿二日					
一三七	松田外記		未詳		御門入	明和九辰年四月九日					
八八七	松田源吉郎		旗本	小普請組	十二ヶ条目録	文政六未年正月廿二日	文政九戌年二月廿日	文政九戌年四月十六日			
四八五	松田進		肥前国大村藩士	大村信濃守家来	皆伝	寛政九巳年正月廿二日	寛政十年年四月廿五日	寛政十年年四月廿五日			未記載
一〇四四	松田進		肥前国大村藩士	大村丹後守 (純昌) 家来	御門入	天保三辰年十一月廿日					
一〇二五	松田伝十郎		旗本弟	(松田) 源吉郎弟	仮名字目録	天保二卯年正月七日	天保六未年十一月廿日	天保八酉年四月十八日	天保十二丑年四月八日		
一〇二四	松田孫三郎		旗本弟	小普請組 (松田) 源吉郎弟	仮名字目録	天保二卯年正月七日	天保六未年十一月廿日	天保八酉年四月十八日	天保十二丑年四月八日		
七三	松原九左衛門		未詳		御門入	明和七寅年正月廿九日					
一三八	松原小右衛門		未詳		御門入	明和九辰年五月九日					
一〇一八	松本栄之助		越前国敦賀藩士	右同人 (酒井飛騨守) 家来	御門入	文政十三寅年三月十六日					
九八五	松本金次		旗本家来	黒川内匠家来	御門入	文政十亥年四月十二日					
六七三	松本金蔵		旗本家来	深見新八家来	御門入	文化六巳年八月廿九日					
五七一	松本十郎兵衛		旗本	小普請組頭	十二ヶ条目録	享和二戌年五月廿二日	文化六巳年三月廿日	文化六巳年十月廿六日			
三〇二	松本茂十郎死		旗本家来	黒川近江守家来	御門入	寛政三亥年正月廿二日					
一九四	松本茂太郎		未詳		御門入	安永四未年八月廿七日					
二〇〇	間宮七五郎	三百俵	旗本養子	御書院番 (間宮) 市兵衛養子	仮名字目録	安永四未年十二月七日	天明四辰年三月十二日	天明四辰年三月十二日	寛政三亥年十月十三日		
六七四	間宮鉄之助		旗本	小普請組	御門入	文化六巳年十一月十七日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
六〇五	丸 勘蔵		未詳		御門入	享和四子年正月廿七日					
五四〇	万年猪之三郎		旗本三男	田安郡奉行 (万年) 三左衛門三男	御門入	寛政十二申年二月十二日	文化二丑年三月廿日	文化四卯年十月十五日	文化十二亥年十一月十二日		
六三五	万年要人死		旗本養子	(万年) 三郎次郎養子	御門入	文化三寅年九月廿七日					
七九五	万年亀吉		旗本四男	(万年) 三左衛門死四男	御門入	文化十二亥年八月十七日					
四三	万年三郎次郎 久昌卜改	四百俵	旗本	西丸御小性	免許(免状)	明和五子年正月八日	安永五申年		天明四辰年二月		
二五九	万年新三郎	百拾俵	旗本惣領	小普請 (万年) 三左衛門惣領	十二ヶ条目録	寛政二戌年二月二日	未記載	未記載	未記載		
二六〇	万年恒次郎	三百俵	旗本	小普請	十二ヶ条目録	寛政二戌年二月二日	未記載	未記載			
八一	万年鉄之丞		旗本	小普請組	十二ヶ条目録	文化十四丑年五月廿七日	文政四巳年三月廿日	文政四巳年十月六日			
一〇三七	万年弥三郎		旗本惣領	西丸御書院番 (万年) 弥一郎惣領	御門入	天保三辰年正月廿二日					
九一	三浦「」		未詳	(三浦) 駿次郎惣領	御門入	寛政元酉年十月十七日					
二四六	三浦喜多之助		旗本惣領		御門入	寛政九巳年正月廿二日					
四八四	三尾熊治		旗本家来	伊東主膳家来	御門入	文化十二亥年二月晦日					
七七六	三河口雲八郎		旗本	御徒目付	御門入	文化十二亥年二月晦日					
七七七	三河口末吉		未詳		御門入	文化十二亥年二月晦日					
一六九	三河三次郎		未詳		御門入	安永三午年七月二日					
一一	三木善八		未詳		御門入	明和元申年七月廿九日					
四三七	三木祐助		旗本家来	右同人(石谷十蔵)家来	御門入	寛政七卯年二月廿日					
五五一	三雲熊之助	六百石	旗本次男	新御番 (三雲) 平左衛門次男	御門入	享和元酉年二月廿二日					
三五六	三島清左衛門	千三百石	旗本次嫡	西丸御留守居 (三島) 但馬守次嫡	十二ヶ条目録	寛政四子年五月朔日	未記載	寛政十二申年四月十二日			
三八六	三島政蔵		旗本	御小性組	御門入	寛政五丑年二月十五日					
四五八	水野吉之助		旗本	小普請組	御門入	寛政七卯年閏十一月三日					
二一七	水野庄次郎		旗本家来	同人(村瀬伊左衛門)家来	御門入	安永七戌年六月十七日					
六五五	水野信吉		未詳		御門入	文化四卯年九月廿三日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	扨捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
六一一	水野鉄五郎死		未詳		御門入	文化元子年五月十八日					
三九九	三田和三郎		旗本家来	同人(池田筑後守)家来	御門入	寛政五丑年四月廿六日					
三五九	水上伊織		旗本弟	(水上)帯刀弟	御門入	寛政四子年五月十五日					
二五	水上九十九		未詳		御門入	明和二酉年六月十日					
三七九	湊 為右衛門		旗本家来	伊東山城守家来	御門入	寛政五丑年正月廿五日					
四八二	美濃部栄之助	百五拾俵	旗本惣領	御勘定(美濃部)恒太郎惣領	十二ヶ条目録	寛政九巳年正月廿二日	享和元酉年十一月廿日	享和三亥年三月十六日			
一七	美濃部恒太郎	五百俵	旗本	御勘定	仮名字目録	明和元申年九月廿三日	未記載		天明〇年七月		
一六〇	美濃部弥富		未詳		御門入	安永二巳年十一月七日					
二一六	宮川得蔵		旗本家来	村瀬伊左衛門家来	御門入	安永七戌年六月十七日					
二〇九	三宅四郎三郎		旗本惣領	御先手(三宅)源左衛門惣領	御門入	安永五申年八月七日					
八三〇	三宅次郎八		三河国田原藩主次男	(三宅)隠岐守次男	御門入	文政三辰年二月廿二日					
六八三	三宅助之丞		旗本	御小納戸	十二ヶ条目録	文化七年年六月十一日	文化十三年二月廿日	文化十五寅年二月晦日			
七二四	三宅忠右衛門		旗本弟	(清水)大納言(斉順)様 御小納戸頭取 青山美濃守弟	十二ヶ条目録	文化十酉年正月七日	「」月廿日	文政元寅年十一月廿五日			
二七四	宮崎七左衛門		旗本家来	同人(能勢筑前守)家来	御門入	寛政二戌年五月廿八日					
九七八	宮原次郎太郎		丹後国田辺藩士	右同人(牧野山城守)家来	御門入	文政十亥年正月廿九日					
九〇九	宮本寿一郎		旗本次男	(清水徳川)恒之丞(齐彊)殿代官(宮本)所右衛門次男	扨捨刀	文政八酉年二月二日	文政十亥年十一月廿日				
四一〇	三好孫惣		常陸国麻生藩士	新庄駿河守(直侯)家来	十二ヶ条目録	寛政五丑年八月廿七日	未記載	享和元酉年十二月廿二日			
四二一	向井幸蔵		未詳	御内弟子	御門入	寛政六寅年四月七日					
六五二	向井将監		旗本	御船手頭	御門入	文化四卯年八月十三日					
一〇五四	武川玄太郎		越前国敦賀藩士	右同人(酒井飛騨守)家来	御門入	天保四巳年正月廿六日					
四七三	武川武次郎	百俵	旗本	小普請組	御門入	寛政八辰年八月廿二日					
一三三	向山豊次		未詳		御門入	明和九辰年三月廿日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
九九七	村井半次郎		旗本家来	松平兵庫頭家来	御門入	文政十一子年 二月七日					
一一五	村上半之助		未詳		御門入	明和八卯年三 月廿九日					
一〇〇三	村越金之助		旗本	小普請組	御門入	文政十二位丑 年二月七日					
二二四	村瀬平四郎	貳千五百石	旗本		御門入	安永七戌年八 月十二日					
一九八	室賀多宮	八百石	旗本養子	新番頭(室賀) 図書養子 御書院番	十二ヶ条目録	安永四未年十 月二日	天明四辰年四 月廿二日	天明四辰年三 月十二日			
一一六	目賀田亀之丞		未詳		御門入	明和八卯年五 月十四日					
四九六	目賀田幸助	七百石	旗本	小普請組	御門入	寛政九巳年五 月十四日					
三四八	最上鉄五郎		旗本(交代寄合)	交代寄合(最上) 監物	十二ヶ条目録	寛政四子年閏 二月七日	寛政九巳年三 月	未記載			
三八三	最上龍五郎	三百俵	旗本惣領	惣領 御小性組(最上) 五郎	御門入	寛政五丑年正 月廿七日					
四四八	望月武助		旗本家来	最上監物家来	御門入	寛政七卯年八 月十二日					
五八	森川千三郎		三河国西尾藩士	松平和泉守(乗完) 家来	御門入	明和六丑年十 月九日					
二七七	森川平助		旗本家来	能勢筑前守家来	御門入	寛政二戌年五 月廿八日					
八一九	森川万之丞		旗本	表御右筆	十二ヶ条目録	文政元寅年六 月二日	文政五年年二 月廿日	文政五年年五 月六日			
三二二	森 左右多		肥前国大村藩士	同人(大村信濃守) 家来	十二ヶ条目録	寛政三亥年四 月六日	寛政四子年十 二月	未記載			
二八二	森田平四郎		紀州藩士	紀伊殿家士	御門入	寛政二戌年五 月廿八日					
六六六	森 長四郎		下野国烏山藩士	大久保山城守家来	御門入	文化六巳年正 月廿二日					
四七九	森 徳治		旗本家来	川勝斎宮家来	御門入	寛政八辰年十 一月十七日					
一九一	守能図書		未詳		御門入	安永四未年八 月七日					
三八一	森本六郎		旗本家来	同人(伊東山城守) 家来	御門入	寛政五丑年正 月廿五日					
四四四	森本六郎		旗本家来	伊東主膳家来	御門入	寛政七卯年五 月十二日					
三四三	八木十左衛門		旗本家来	大岡伊織家来	御門入	寛政四子年二 月七日					
九一四	八木豊太郎		旗本	中奥御小性	御門入	文政八酉年二 月二日					
九一五	八木隆之助		旗本次男	大御番頭(八木) 丹波 守次男	御門入	文政八酉年二 月二日					

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
九三	矢崎幸七		未詳		御門入	明和七寅年閏六月十九日					
八五四	安田敬蔵		秋田藩士	右同人(佐竹右京大夫義厚)家来	十二ヶ条目録	文政五年年閏正月晦日	文政八酉年三月廿日	文政七申年六月廿日			
六四一	安田和平次		旗本家来	溝口駒之助家来	十二ヶ条目録	文政四卯年正月廿三日	文化七未年八月廿日	文化八未年五月十四日			
四三五	柳川藤馬		旗本家来	右同人(石谷十蔵)家来	御門入	寛政七卯年二月廿日					
一〇三四	矢野八郎右衛門		対馬藩士	宗対馬守(義章)家来	御門入	天保三辰年正月廿二日					
九八三	矢部半茶		丹後国田辺藩士	右同人(牧野山城守)家来	御門入	文政十亥年正月廿九日					
七〇九	山内泰蔵		広島藩士	松平安芸守家来 浅野甲斐守家来(浅野齐賢)	御門入	文化八未年三月十二日					
七〇五	山岡栄次		陸奥国二本松藩士	丹羽加賀守(長祥)家来	御門入	文化八未年三月廿九日					
九二	山岸佐野右衛門		未詳		御門入	明和七寅年閏六月十四日					
九八七	山岸紋作		旗本家来	上原藤左衛門家来	御門入	文政十亥年五月廿七日					
七八〇	山口金次		石見国津和野藩士	亀井隠岐守(矩賢)家来	御門入	文化十二亥年三月八日					
六三六	山口周蔵		旗本家来	万年三郎次郎家来	御門入	文化三寅年九月廿七日					
四九七	山口藤吉郎		旗本家来	桜井喜三郎家来	御門入	寛政九巳年八月二日					
一〇三	山崎喜市		未詳		御門入	明和七寅年十月十九日					
一〇四六	山崎大二郎		越前国敦賀藩士	酒井飛騨守(忠口(草冠十盡))家来	御門入	天保四巳年正月廿六日					
八五	山崎富五郎		未詳		御門入	明和七寅年四月九日					
五七〇	山田三十郎		未詳		御門入	享和二戌年五月廿二日					
五〇三	山田忠太		下野国烏山藩士	大久保山城守家来	御門入	寛政九巳年十月晦日					
一三	山口武兵衛		旗本家来	寺島又四郎家来	御門入	明和元申年八月八日					
七七四	山田主水		未詳		御門入	文化十二亥年二月晦日					
七一五	山田雄次郎		旗本家来	桜井政之助家来	御門入	文化八未年六月八日					
三五二	山田良蔵		旗本家来	森川主膳家来	御門入	寛政四子年四月二日					
五八三	山寺妙之助		旗本	小普請組	十二ヶ条目録	享和二戌年十一月二日	文化八酉年七月二十日	文化九申年十月七日			

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
二四二	山名右京	三百俵	旗本惣領	御小性組 (山名) 平左衛門惣領	十二ヶ条目録	寛政元酉年八月二日	寛政七卯年正月廿五日	十二ヶ条目録 寛政七卯年八月十九日			
八六九	山名鎌三郎		丹後国田辺藩士	牧野豊前守家来	御門入	文政五年三月廿一日					
七一	山中弥市郎		未詳		御門入	明和六丑年九月四日					
七二	山中藁次郎		未詳		御門入	明和六丑年九月四日					
三三四	山名鉄三郎		旗本次男	(山名) 平左衛門次男	御門入	寛政四子年正月廿二日					
六九四	山本栄吉		下野国烏山藩士	大久保山城守家来	御門入	文化八未年二月十二日					
四二四	山本金助		旗本家来	平賀式部少輔 (貞愛) 家来	御門入	寛政六寅年十月十七日					
三一四	山本幸蔵		旗本家来	平賀式部少輔 (貞愛) 家来	御門入	寛政三亥年五月十二日					
一五四	山本左膳		未詳		御門入	安永二巳年二月四日					
七九九	山本箴之助		旗本家来	竹田藤右衛門家来	御門入	文化十三子年二月廿二日					
九六五	山本主税		旗本	小普請組	御門入	文政九戌年五月廿八日					
二四八	山本鉄之助		未詳		御門入	寛政元酉年十二月十二日					
五六六	山本徳五郎死		未詳		御門入	享和二戌年二月十二日					
九三一	山本俊次郎		丹後国田辺藩士	牧野豊前守家来	御門入	文政八酉年七月九日					
五〇五	山本直五郎		下野国烏山藩士	右同人 (大久保山城守) 家来	御門入	寛政九巳年十月晦日					
一〇五	山本勇次		未詳		御門入	明和七寅年十一月四日					
六五	由岐東馬		下総国関宿藩士	同人 (久世出雲守) 家来	御門入	明和六丑年六月十九日					
二三三	湯原教馬		御家人侍	(湯原) 栄庵侍	御門入	寛政元酉年三月廿二日					
六六	横江宇八郎		未詳		御門入	明和六丑年六月廿四日					
八七七	横瀬美濃守		旗本	高家	十二ヶ条目録	文政五年十月六日	文政七申年三月廿日	文政八酉年八月九日			
五一八	横田源太郎	千石	旗本養子	新御番頭 (横田) 大和守養子	御門入	寛政十年五月十二日					
六五六	横田三四郎		旗本	御書院番	替流断	文化四卯年十一月朔日	替流断				

記載順	氏名	禄高	身分	主家・統柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
四〇九	依田邦助		旗本次男	同人(依田金十郎)次男	御門入	寛政五丑年八月二日					
四四	依田金十郎	貳千石	旗本	小普請	御門入	明和五子年正月廿九日					
九七	吉山三太		未詳		御門入	明和七寅年八月廿九日					
七二九	吉村要七		肥前国大村藩士	大村信濃守家来	御門入	文化十酉年正月廿二日					
九一二	吉見友三郎		丹後国田辺藩士	来 右同人(牧野豊前守)家	御門入	文政八酉年二月二日					
七四九	吉見唯助		丹後国田辺藩士	右同人(牧野豊前守)家	御門入	文化十一戌年八月十八日					
八九八	吉見斧次郎		丹後国田辺藩士	牧野豊前守家来	御門入	文政六未年五月十四日					
二四五	吉松直五郎	貳百俵	旗本惣領	御徒頭 (吉松)次左衛門惣	御門入	寛政元酉年八月十七日					
五八〇	吉松庄次郎		旗本	(徳川)民部卿(齊位)殿物頭	御門入	享和二戌年九月十七日					
二四四	吉松庄左衛門	三百俵	旗本	御先手	御門入	寛政元酉年八月十七日					
六七七	吉松定之進		旗本三男	御先手 (吉松)庄左衛門三男	假名字目録	文化七午年正月廿二日		文化十酉年四月廿九日	未記載		
八九七	吉松吉五郎		旗本	御書院番	十二ヶ条目録	文政六未年四月二日		文政八酉年八月九日			
八〇八	吉松勝五郎		旗本四男	(吉松)庄右衛門四男	替流断	文化十四丑年二月十七日		文化十二亥年十一月十二日			
六七六	吉松亥十郎		旗本二男	御先手 (吉松)庄左衛門二男	十二ヶ条目録	文化七午年正月廿二日					
四三一	吉田八十郎	百五拾俵	旗本惣領	領 小十人 (吉田)源藏惣	御門入	寛政七卯年二月七日					
三四七	吉田造酒之助		旗本	御徒	御門入	寛政四子年閏二月五日					
五二六	吉田松治		旗本家来	丹羽左京大夫家来	御門入	正月廿二日					
四九三	吉田登市		旗本家来	来 右同人(浅野老岐守)家	御門入	寛政九巳年四月十四日					
六八九	吉田 仕		旗本家来	水上帯刀家来	御門入	文化七午年七月廿日					
六四九	吉田清之助		旗本	大御番	十二ヶ条目録	文化四卯年七月廿二日	文化七午年五月廿日	文化八未年五月十四日			
二四	吉田喜太郎		未詳		御門入	明和二酉年四月廿八日					
二五二	吉沢喜久蔵		下野国烏山藩士	来 同人(大久保山城守)家	御門入	寛政元酉年十月十五日					
九二一	吉川武左衛門		肥前国大村藩士	大村丹波守(純昌)家来	皆伝	文政八酉年二月十二日	未記載	文政九戌年二月六日	天保三辰年閏十一月十一日	天保十二丑年閏正月廿一日	

記載順	氏名	禄高	身分	主家・続柄	極位	御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝	免状
四二七	□田川□市		旗本家来	依田金十郎家来	御門入	寛政七卯年正月七日					
四〇〇	和田多三郎		旗本家来	同人(池田筑後守)家来	御門入	寛政五丑年四月廿六日					
七六二	和田伸八		丹後国田辺藩士	来 右同人(牧野豊前守)家来	御門入	文化十一戌年八月十八日					
九〇一	綿貫儀次郎		御家人伴	野馬掛(綿貫)夏右衛門伴	御門入	文政六未年九月廿一日					
五八八	渡辺弥六		三河国吉田藩士	松平伊豆守家来	御門入	享和三亥年正月廿八日					
九一三	渡辺越三郎		仙台藩士	松平陸奥守(伊達斉義)家来	御門入	文政八酉年二月二日					
六一二	渡辺栄之丞		未詳		御門入	文化八酉年二月十二日					
七七一	鷲巢鎌之助		紀州藩士	左衛門惣領 紀伊殿附(鷲巢)伊義厚)家来	御門入	文化十二亥年二月廿一日					
九五二	鷲尾庫之助		秋田藩士	右同人(佐竹右京大夫義厚)家来	御門入	文政九戌年					
六五三	脇 秀五郎		旗本家来	向井将監家来	御門入	文化四卯年八月十三日					
三〇一	若林文蔵		旗本家来	土岐大膳大夫家来	御門入	寛政二戌年十月四日					
六七〇	依包源兵衛		陸奥国二本松藩士	右同人(丹羽加賀守)家来	御門入	文化六巳年三月四日					
四一三	蓬田習蔵		旗本家来	平賀式部少輔(貞愛)家来	御門入	寛政五丑年九月廿四日					
八四四	米田与五郎		旗本惣領	(米田)吉太夫惣領	十二ヶ条目録	文政四巳年十一月二日	文政七申年三月廿日	文政八酉年八月九日			
一〇八	米田十三郎		旗本	御徒	十二ヶ条目録	明和八卯年二月九日	未記載	未記載			
四九八	米田求馬		下野国烏山藩士	大久保山城守家来	御門入	寛政九巳年八月二日					
二三四	米田久次郎 太夫卜改 吉	百俵	旗本	一ツ橋御用人	皆伝	寛政元酉年三月廿七日	寛政十二申年十二月六日	未記載	享和三亥年十二月廿二日	文化四卯年十二月十五日	
一〇七	米田吉十郎		未詳		御門入	明和八卯年二月九日					
五四七	米田円次郎		未詳		十二ヶ条目録	寛政十二申年九月廿二日	享和三亥年二月廿日	文化元子年五月十日			
八四六	依田茂八郎		旗本惣領	(清水徳川)恒之丞(斎彊)殿番頭(依田)十郎兵衛惣領	仮名字目録	文政四巳年十一月十七日	文政九戌年十月廿日	文政八酉年八月九日	文政十一子年正月廿日		
六九八	依田八郎		未詳		御門入	文化八未年二月廿七日					
四〇八	依田源六郎	貳千石	旗本惣領	小普請(依田)金十郎惣領	御門入	寛政五丑年八月二日					

七四四	一	未詳(欠損)			丹後国田辺藩士	主家・続柄	御門入	御門入	文化十一年 八月十八日						
二	未詳(欠損)		未詳				御門入	御門入	〔明和元年〕 月十九日						
五	未詳(欠損)	六百石	旗本				皆伝	皆伝	〔明和元年〕 六月十九日	未詳(欠損)	寛政元酉年三 月廿五日	寛政八辰年三 月十日	寛政十一年 十一月十九日		
記載順	氏名	禄高	身分				極位		御門入	払捨刀	十二ヶ条目録	仮名字目録	皆伝		免状

翻刻 小野派一刀流剣術 分限帳 全

(表紙、板くるみ装)

一刀流

分限帳

巻

剣術

御門入明和元申年六月十九日	〔 〕	久津見伊藤太	御門入明和元申年九月十九日	〔 〕	松平□之助家来	御門入明和元申年七月廿九日	〔 〕	白井藤太	御門入明和元申年七月廿九日	〔 〕	〔 二酉年正月十八日	〔 〕	楠本弥市
御門入明和元申年六月十九日	〔 〕		御門入明和元申年九月十九日	〔 〕	早野弥〔 〕	御門入明和元申年七月廿九日	〔 〕	三木善八	御門入明和元申年七月廿九日	〔 〕	〔 二酉年四月廿八日	〔 〕	小川求馬
御門入明和元申年六月十九日	〔 〕		御門入明和元申年九月十九日	〔 〕	美濃部恒太郎	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	植月□馬	御門入明和元申年八月八日	〔 〕	〔 二酉年六月十日	〔 〕	吉田喜太郎
御門入明和元申年六月十九日	〔 〕		御門入明和元申年九月十九日	〔 〕	御勘定	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	寺島又四郎家来	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	〔 二酉年九月廿日	〔 〕	水上九十九
御門入明和元申年六月十九日	〔 〕		御門入明和元申年九月十九日	〔 〕	高百五拾俵	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	山口武兵衛	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	〔 二酉年九月廿九日	〔 〕	御徒頭
御門入明和元申年六月十九日	〔 〕		御門入明和元申年九月十九日	〔 〕	岡部内膳正家来	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	岡部小左衛門家来	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	〔 二酉年九月廿九日	〔 〕	石河惣右衛門
御門入明和元申年六月十九日	〔 〕		御門入明和元申年九月十九日	〔 〕	広野軍五郎	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	恩田八十次	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	〔 二酉年九月廿九日	〔 〕	高五百五拾石
御門入明和元申年六月十九日	〔 〕		御門入明和元申年九月十九日	〔 〕	宿所浜町袋町	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	牧野兵部家来	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	〔 二酉年九月廿九日	〔 〕	古谷逸平
御門入明和元申年六月十九日	〔 〕		御門入明和元申年九月十九日	〔 〕	〔 捨捨刀	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	加藤□之進	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	〔 二酉年九月廿九日	〔 〕	細川□蔵
御門入明和元申年六月十九日	〔 〕		御門入明和元申年九月十九日	〔 〕	十二ヶ条目録	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	松平□之助家来	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	〔 二酉年十一月八日	〔 〕	松平和泉守家来
御門入明和元申年六月十九日	〔 〕		御門入明和元申年九月十九日	〔 〕	〔 捨捨刀	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	早野弥〔 〕	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	〔 二酉年十一月十四日	〔 〕	藤巻久次郎
御門入明和元申年六月十九日	〔 〕		御門入明和元申年九月十九日	〔 〕	〔 捨捨刀	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	御勘定	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	〔 二酉年十一月廿五日	〔 〕	田沼右衛門督家来
御門入明和元申年六月十九日	〔 〕		御門入明和元申年九月十九日	〔 〕	〔 捨捨刀	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	美濃部恒太郎	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	〔 二酉年十一月廿五日	〔 〕	浅岡喜右衛門
御門入明和元申年六月十九日	〔 〕		御門入明和元申年九月十九日	〔 〕	〔 捨捨刀	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	高百五拾俵	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	〔 二酉年三月十三日	〔 〕	石□□八
御門入明和元申年六月十九日	〔 〕		御門入明和元申年九月十九日	〔 〕	〔 捨捨刀	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	岡部内膳正家来	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	〔 二酉年三月十三日	〔 〕	小普請
御門入明和元申年六月十九日	〔 〕		御門入明和元申年九月十九日	〔 〕	〔 捨捨刀	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	松平伝三郎	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	〔 二酉年三月十三日	〔 〕	深見久太夫
御門入明和元申年六月十九日	〔 〕		御門入明和元申年九月十九日	〔 〕	〔 捨捨刀	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	松平因幡守家来	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	〔 二酉年三月十三日	〔 〕	高式百五拾俵
御門入明和元申年六月十九日	〔 〕		御門入明和元申年九月十九日	〔 〕	〔 捨捨刀	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	山村小左衛門	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	〔 二酉年三月十五日	〔 〕	内田栄次郎
御門入明和元申年六月十九日	〔 〕		御門入明和元申年九月十九日	〔 〕	〔 捨捨刀	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	本間右源太	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	〔 二酉年四月廿日	〔 〕	島田庄五郎
御門入明和元申年六月十九日	〔 〕		御門入明和元申年九月十九日	〔 〕	〔 捨捨刀	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	成瀬城之助	御門入明和元申年八月廿八日	〔 〕	〔 二酉年四月廿日	〔 〕	前田半右衛門

宿所浅草堀田原 御門入明和三戌年五月廿日	御小性組四番 五十嵐市五郎	御門入明和五子年五月十三日	別所 弼	御門入明和六丑年十月九日	牧野鉞弥
宿所浜町山伏井戸 御門入明和三戌年八月廿日	高四百俵	宿所浜町袋町 御門入明和五子年五月廿四日	高千石 長坂頼母	御門入明和六丑年二月十九日	松平和泉守家来 森川千三郎
御門入明和三戌年十一月五日	鈴木東□	宿所下谷新シ橋通 御門入明和五子年五月廿五日	御書院番 中根勘ヶ由	御門入明和六丑年二月廿九日	溝口主膳正家来 府川新次郎
御門入明和三戌年十一月五日	筒井 □	御門入明和五子年六月九日	高式千石	御門入明和六丑年三月十四日	新庄駿河守家来 千賀弥太郎
御門入明和四亥年八月十九日	兼田安五郎 岩崎喜十郎	御門入明和五子年九月十四日	奥屋六太郎 大道寺 極	御門入明和六丑年四月四日	五島彦助
御門入明和四亥年八月十九日	阿部左門	御門入明和五子年九月十四日	富永岩次郎	御門入明和六丑年六月十九日	久世出雲守家来 井上又次郎
御門入明和五子年正月八日	西丸 御小性	宿所本所菊川町 御門入明和五子年十月四日	御書院番 大岡忠四郎	御門入明和六丑年六月十九日	同人家来 高橋鉄弥
御門入明和五子年正月八日	御小性 万年三郎次郎 久昌卜改	御門入明和五子年十月四日	高千四百石 秋元撰津守家来 近藤弁蔵	御門入明和六丑年六月廿四日	同人家来 由岐東馬
御門入明和五子年正月廿九日	宿所式番丁 高四百俵	御門入明和五子年十月四日	菅沼又兵衛家来 服部耕蔵	御門入明和六丑年八月九日	横江宇八郎
(宿所未記載) 御門入明和五子年二月十九日	小普請 依田金十郎	御門入明和五子年十月九日	新庄駿河守家来 河田伊三郎	御門入明和六丑年八月廿四日	新庄駿河守家来 平野彦市
御門入明和五子年二月十九日	高式千石 御小性組 楠五郎惣領 贊 善之丞	御門入明和六丑年二月九日	御腰物方 竹田藤右衛門	御門入明和六丑年九月四日	布施定之進 相沢糸八
十二ヶ条目録 (宿所未記載) 御門入明和五子年五月十三日	高三百俵	宿所本所菊川町 御門入明和六丑年二月九日	高八百石	御門入明和六丑年九月四日	曲淵老之助
本門与惣次					

御門入明和六丑年九月四日	山中弥市郎	御門入明和七寅年四月九日	同人家来	梅本郡次	宿所市ヶ谷月桂寺	高八百石
御門入明和六丑年九月四日	山中藁次郎	御門入明和七寅年四月九日	岸吉之助	御門入明和七寅年八月九日	荒井定	
御門入明和七寅年正月廿九日	松原九左衛門	御門入明和七寅年四月九日	小松勝之助	御門入明和七寅年八月廿九日	斎藤吉次郎	
御門入明和七寅年正月廿九日	御使番	御門入明和七寅年四月九日	寺田勘兵衛	御門入明和七寅年八月廿九日	鈴木直右衛門	
	大久保弥九郎	御門入明和七寅年四月九日	山崎富五郎	御門入明和七寅年九月朔日	篠崎朴庵	
	高千式百石	十二ヶ条目録	五島百助	御門入明和七寅年九月九日	服部斧太郎	
	(宿所未記載)	十二ヶ条目録	大久保平次郎	宿所浜町袋町	高七百石	
御門入明和七寅年二月十四日	寄合	御門入明和七寅年四月廿九日	高松長太郎	宿所浜町新屋鋪	飯河新右衛門	
御門入明和七寅年二月十四日	能勢筑前守	御門入明和七寅年四月廿九日	佐藤豊八	御門入明和七寅年十月九日	斎藤半次郎	
御門入明和七寅年二月十四日	宿所下谷佐久間町	御門入明和七寅年四月廿九日	加藤吉五郎	御門入明和七寅年十一月九日	山崎喜市	
御門入明和七寅年二月十四日	能勢筑前守家来	御門入明和七寅年五月廿九日	三浦 筈	御門入明和七寅年十一月九日	大御番組頭	
	藤波 半	御門入明和七寅年六月十四日	山岸佐野右衛門	十二ヶ条目録	久四郎養子	
	高四千石余	御門入明和七寅年六月十四日	矢崎幸七	宿所牛込口留口町	坪内右膳	
	菅沼喜内	御門入明和七寅年六月十九日	御門入明和七寅年八月九日	御門入明和七寅年十一月九日	山本勇次	
	大久保山城守家来	御門入明和七寅年八月九日	替流断	御門入明和八卯年二月九日	多田新太郎	
	平野六右衛門		西丸	御門入明和八卯年二月九日	米田吉十郎	
	牛歩卜改		御書院番			
	福井友次郎		瓦林三郎兵衛			
	同人家来					
	同人家来					
	鈴木伝吾					
	御門入明和七寅年四月九日					

御門入明和九辰年九月十四日	能勢菊三郎	御門入安永二巳年七月六日	藤間弥市	寄合
御門入明和九辰年十二月四日	大岡式部少輔家来 松浦富之助	御門入安永二巳年十一月七日	田中安之丞	伊東山城守
御門入安永二巳年正月十九日	御普請奉行 式部少輔伯父 平賀新五郎	御門入安永三午年正月廿二日	美濃部弥富	高五千石
御門入安永二巳年正月十九日	御普請奉行 平賀新五郎	御門入安永三午年二月廿二日	佐野次郎兵衛	萩野 亘
宿所駿河台	御普請奉行 平賀式部少輔 高四百俵	御門入安永三午年二月廿二日	御先手 助十郎嫡孫 能勢源太夫	大道寺内蔵助家来 木島嘉兵衛
御門入安永二巳年正月十九日	越川要助	宿所築地門跡脇 御門入安永三午年二月廿二日	西丸 御書院番 榊原平十郎	津軽土佐守家来 絹笠音吉
御門入安永二巳年正月廿四日	関口忠左衛門	御門入安永三午年二月廿二日	小島一馬	大久保荒之助家来 平野源次
御門入安永二巳年正月廿九日	藤井吉五郎	御門入安永三午年四月十二日	大石金吾	田付又四郎家来 大野常次郎
御門入安永二巳年正月廿九日	磯村清次郎	一払捨 天明四辰年四月廿七日西丸 十二ヶ条目録天明四辰年三月十二日 御書院番	大津泰太郎	田付又四郎家来 大槻此次郎
御門入安永二巳年二月四日	藤井長蔵	宿所浜町蛸殻町 御門入安永三午年五月十七日	高三百石	大久保山城守家来 沢 伴之丞
御門入安永二巳年三月九日	山本左膳	御門入安永三午年五月廿七日	服部又市	大久保山城守家来 青木作左衛門
御門入安永二巳年三月十九日	田中勇助	御門入安永三午年七月二日	伊勢二三太	桑島伊織
御門入安永二巳年三月十九日	鈴木弘司	御門入安永三午年七月二日	三河三次郎	小普請 小幡又十郎
御門入安永二巳年五月四日	岸 兔毛	御門入安永三午年七月六日	岩附大八郎	(高末記載) 鈴木三弥

御門入安永七戌年六月廿二日

大西民次

『(表紙、板くるみ装は欠損。以下)』をもって想定)

御門入寛政元酉年三月廿二日

栄庵倅

湯原数馬

御門入安永七戌年閏七月十七日

村瀬伊左衛門家来
綾部勇八

一刀流
分限帳
二

御門入寛政元酉年三月廿七日
御門入寛政元酉年閏六月廿九日

一ツ橋御用人

吉太夫卜改
米田久次郎

御門入安永七戌年閏七月十七日

生駒監物家来
佐藤直人

劍術

寛政十二申年十二月六日
十二ヶ条目録
仮名字目録享和三亥年十二月廿二日
皆伝文化四卯年十二月十五日

同人家来

井上金吾

西丸

御門入天明八申年十二月二日

高百俵

御門入安永七戌年閏七月十七日

同人家来

同人家来

御小納戸

御門入寛政元酉年四月十九日

千本吉之丞家来

早苗牧太

御門入安永七戌年八月十二日

清水勤番

宿所駿河台鈴木丁

深谷政之助

御門入寛政元酉年六月二日

勘ヶ由弟

中根大之助

十二ヶ条目録(ママ)

宿所浜町蛸殻町

(高未記載)
黒川谷五郎

御門入寛政元酉年二月十七日

小幡又十郎家来

御門入寛政元酉年六月廿二日

佐竹右京大夫家来
奥山老三郎

御門入安永七戌年八月十二日

寄合

御門入寛政元酉年二月廿日

伊奈勇助

御門入寛政元酉年閏六月二日

同人家来

宿所虎之御門内

高式千五百石
村瀬平四郎

御門入寛政元酉年二月廿七日

中山助六郎

御門入寛政元酉年閏六月廿七日

堀江周次

御門入安永七戌年八月十二日

黒川近江守家来

宿所本所二ツ目

高三千石

御門入寛政元酉年閏六月廿七日

川勝金次郎家来

(後欠)

石川 亘

御門入寛政元酉年二月廿七日

中山勝太郎家来
榎本為八

御門入寛政元酉年閏六月廿七日

藤田兵蔵

御門入寛政元酉年二月廿七日

同人家来

御門入寛政元酉年二月廿七日

伊藤和市

御門入寛政元酉年閏六月廿九日

同人家来

御門入寛政元酉年三月十七日

浦上松次郎家来

御門入寛政元酉年三月十七日

小幡小守

御門入寛政元酉年八月二日

土岐大膳大夫家来

御門入寛政元酉年三月十七日

萩原定吉

御門入寛政元酉年三月十七日

中山勝太郎家来

御門入寛政七卯年正月廿五日

高橋平蔵

御門入寛政元酉年三月十七日

御門入寛政元酉年三月十七日

御門入寛政元酉年三月十七日

御小性組

御門入寛政七卯年八月十九日

平左衛門惣領

御門入寛政元酉年八月十日	宿所本所鏡木橋	高三百俵	山名右京	御門入寛政元酉年十二月十五日	吉沢喜久藏	(高末記載)
	御旗奉行	周防守惣領	大久保山城守家来	御門入寛政二戌年四月廿四日	紀伊殿家士	
	中山伊織	御門入寛政元酉年十二月十五日	榎野与三郎	御門入寛政二戌年四月廿四日	筒井松之丞	
(宿所未記載)	高五百石	御門入寛政元酉年十二月十五日	同人家来	御門入寛政二戌年五月十二日	同	
	御先手	御門入寛政元酉年十二月十五日	一色次郎助	御門入寛政二戌年五月廿八日	駒木根伊織	
	吉松庄左衛門	御門入寛政元酉年十二月十五日	同人家来	御門入寛政二戌年五月廿八日	紀伊殿家士	
宿所神田佐久間町	高三百俵	御門入寛政元酉年十二月十五日	田中鉄次郎	御門入寛政二戌年五月廿八日	牧 弥藤次	
御門入寛政元酉年八月十七日	御徒頭	御門入寛政元酉年十二月十五日	同人家来	御門入寛政二戌年五月廿八日	同	
	次左衛門惣領	御門入寛政元酉年十二月十五日	大橋為藏	御門入寛政二戌年五月廿八日	武光文之丞	
	吉松直五郎	御門入寛政元酉年十二月十五日	大久保山城守家来	御門入寛政二戌年五月廿八日	大村信濃守家来	
(宿所未記載)	高式百俵	御門入寛政元酉年十二月十五日	平野太膳	御門入寛政二戌年五月廿八日	黒坂新左衛門	
御門入寛政元酉年十月十七日	駿次郎惣領	御門入寛政元酉年十二月十五日	同人家来	御門入寛政二戌年五月廿八日	同人家来	
	三浦喜多之助	御門入寛政二戌年二月二日	清水富吉	御門入寛政二戌年五月廿八日	佐藤雄之助	
御門入寛政元酉年十月廿四日	津軽定吉	御門入寛政二戌年二月二日	小普請	御門入寛政二戌年五月廿八日	平賀式部少輔家来	
御門入寛政元酉年十二月十二日	山本鉄之助	十二ヶ条目録(ママ)	三左衛門惣領	御門入寛政二戌年五月廿八日	市橋文司	
御門入寛政元酉年十二月十二日	千賀伝藏死	宿所浜町松島町	高百拾俵	御門入寛政二戌年五月廿八日	同人家来	
御門入寛政元酉年十二月十五日	十二ヶ条目録寛政五丑年二月廿日	御門入寛政二戌年二月二日	小普請	御門入寛政二戌年五月廿八日	小林左太夫	
	御門入寛政元酉年十二月十五日	御門入寛政二戌年二月二日	万年恒次郎	御門入寛政二戌年五月廿八日	同人家来	
	大久保山城守家来	宿所当時実父三左衛門同居	高三百俵	御門入寛政二戌年五月廿八日	橋本文藏	
御門入寛政元酉年十二月十五日	多賀三五郎	御門入寛政二戌年三月廿二日	神織部家来	御門入寛政二戌年五月廿八日	能勢筑前守家来	
	同人家来	御門入寛政二戌年三月廿七日	熊倉銀藏	御門入寛政二戌年五月廿八日	奥 新平	
	鈴木常七	御門入寛政二戌年三月廿七日	源六郎次男	御門入寛政二戌年五月廿八日	能勢筑前守家来	
御門入寛政元酉年十二月十五日	同人家来		松平和田五郎			

御門入寛政四子年正月廿二日

三好孫市死

御門入寛政四子年二月七日

斎藤一次郎

御門入寛政四子年四月二日

高五百石

久能御門番

大岡伊織家来

森川主膳家来

榊原越中守

八木十左衛門

山田良蔵

高千八百石

御門入寛政四子年二月廿五日

御作事奉行

御門入寛政四子年四月二日

平賀式部少輔家来

宿所筑地鉄砲河岸

佐渡守惣領

木村貢

越中守弟

神尾伊三郎

岩田 薮

榊原伊三郎

高九百石

御書院番

御門入寛政四子年正月廿二日

宿所小川町神保小路

奥村矢次郎

御書院番

平左衛門次男

御門入寛政四子年閏二月三日

御徒

御門入寛政四子年四月七日

高三百俵

山名鉄三郎

御門入寛政四子年閏二月三日

三郎左衛門養子

十二ヶ条目錄寛政十年正月七日

佐々市五郎

御門入寛政四子年正月廿二日

御門入寛政四子年閏二月五日

岡野権次郎

御門入寛政四子年五月朔日

西丸御留守居

榊原越中守家来

御門入寛政四子年閏二月五日

交代寄合

宿所本所南割下水

但馬守次嫡

津村男成

御徒

吉田造酒之助

十二ヶ条目錄寛政十二申年四月十二日

三島清左衛門

御門入寛政四子年正月廿二日

御門入寛政四子年閏二月七日

最上鉄五郎

宿所小日向

高千三百石

同人家来

御門入寛政四子年閏二月七日

監物惣領

御門入寛政四子年五月十一日

神保佐渡守家来

御門入寛政四子年正月廿二日

御門入寛政四子年閏二月七日

最上鉄五郎

御門入寛政四子年五月十一日

田中多市

同人家来

御門入寛政四子年閏二月七日

同上鉄五郎

御門入寛政四子年五月十一日

同人家来

御門入寛政四子年正月廿二日

御門入寛政四子年閏二月七日

同上鉄五郎

御門入寛政四子年五月十一日

一柳忠吉

御門入寛政四子年正月廿二日

御門入寛政四子年閏二月七日

同上鉄五郎

御門入寛政四子年五月十一日

同上鉄五郎

御門入寛政四子年七月十二日

川勝斎宮家来

宿所浜町蛸殻町
御門入寛政五丑年正月七日

佐々木九十九

御小納戸

御門入寛政五丑年正月廿五日

同人家来

御門入寛政四子年七月廿三日

榑原因幡守家来

(宿所未記載)
御門入寛政五丑年正月七日

黒川内匠
高千六百三石

御門入寛政五丑年正月廿七日

小幡又十郎家来

御門入寛政四子年七月廿三日

御坊主

御門入寛政五丑年正月七日

黒川近江守家来
松平栄次郎

御門入寛政五丑年正月廿七日

御小性組

御門入寛政四子年八月九日

万年三左衛門家来

御門入寛政五丑年正月七日

同人家来
佐藤政次郎

(宿所未記載)
御門入寛政五丑年二月二日

高三百俵
最上龍五郎

御門入寛政四子年八月廿一日

桜井八弥太

御門入寛政五丑年正月七日

大久保山城守家来
今井定六

御門入寛政五丑年二月十二日

万年三郎次郎家来
栗原政右衛門

御門入寛政四子年八月廿七日

岡部美濃守家来

御門入寛政五丑年正月七日

御使番
岡部内記

御門入寛政五丑年二月十二日

御畳方手代
六助伴

御門入寛政四子年九月廿四日

御使番

十二ヶ条目録
宿所深川浄心寺前

高千五百石

御門入寛政五丑年二月十五日

御小性組
松崎長次郎

宿所本所南割下水
御門入寛政四子年十月二日

(高未記載)

稲垣八十五郎

御門入寛政五丑年正月七日

小幡又十郎家来
垣沢金吾

御門入寛政五丑年二月廿二日

三島政蔵

御門入寛政四子年十月二日

御小性組

十二ヶ条目録
助次郎惣領

岡部内記家来

御門入寛政五丑年二月廿二日

新庄駿河守家来
堀 九十九

宿所下谷竹門
御門入寛政四子年十一月十三日

高九百石

御門入寛政五丑年正月七日

岡部内記家来
遠藤官次

御門入寛政五丑年二月廿二日

同人家来
宇留野銀蔵

御門入寛政四子年十一月十三日

御天守番

御門入寛政五丑年正月廿五日

金子藤次郎

御門入寛政五丑年二月廿二日

稲垣八十五郎家来
鈴木政吉

十二ヶ条目録
御門入寛政五丑年正月七日

御小性頭取

御門入寛政五丑年正月廿五日

伊東山城守家来
湊 為右衛門

御門入寛政五丑年三月七日

西丸

御門入寛政五丑年正月七日

近江守惣領

御門入寛政五丑年正月廿五日

同人家来
福本 蒨

御書院番
泰太郎惣領

黒川仙助

(宿所未記載)

御門入寛政五丑年三月廿日

高三百俵

大津吉之助

三島但馬守家来

岡田円平

御門入寛政五丑年四月廿六日

同人家来

三田和三郎

十二ヶ条目録享和元酉年十二月廿二日
御門入寛政五丑年九月五日

小普請

上好孫惣
上条吉之助

(宿所未記載)

高百俵

御門入寛政五丑年三月廿二日

小普請

御門入寛政五丑年五月九日

同人家来

町田 部

十二ヶ条目録寛政十二申年四月十二日

高式百五拾俵

御門入寛政五丑年五月九日

小幡又十郎家来

風間貞市

御門入寛政五丑年三月廿二日

小普請

十二ヶ条目録寛政十二申年四月十二日

高林虎之助

御門入寛政五丑年五月十五日

同人家来

那須隼太

宿所本所縁丁

高五百俵

御門入寛政五丑年三月廿三日

屋敷改

御門入寛政五丑年五月十五日

相良老岐守家来

阿川三太左衛門

(宿所未記載)

高五百石

御門入寛政五丑年五月廿七日

吉良式部弟

東城勘ヶ由

御門入寛政五丑年四月廿二日

小普請

奥山鉄吉

御門入寛政五丑年六月二日

浅尾当太郎

御門入寛政五丑年四月廿六日

高八百石

御門入寛政五丑年六月十二日

田中金蔵

(宿所未記載)

大目付

御門入寛政五丑年八月二日

小普請

金十郎惣領

宿所愛宕下烏森

高九百石

御門入寛政五丑年八月二日

依田源六郎

御門入寛政五丑年四月廿六日

池田筑後守家来

(宿所未記載)

高式千石

御門入寛政五丑年四月廿六日

角田半蔵

御門入寛政五丑年八月二日

同人次男

御門入寛政五丑年四月廿六日

池田筑後守家来
仁科番次郎

御門入寛政五丑年八月廿七日

新庄駿河守家来

御門入寛政五丑年四月廿六日

弘捨刀

(表紙、板くるみ装)

一刀流

分限帳 三

劍術

寛政年中

御門入寛政五丑年九月廿日

岡部美濃守家来

服部弥平

御門入寛政五丑年九月廿四日

平賀式部少輔家来

蓬田習藏

御門入寛政五丑年九月廿七日

千本吉之丞家来

直喜富次郎

御門入寛政五丑年十月朔日

内蔵助弟

弘捨刀寛政十一未年六月廿九日
十二ヶ条目録寛政十二申年四月廿二日

大道寺助四郎

御門入寛政五丑年十一月十八日

小普請

浦野彦太郎

(宿所未記載)

御門入寛政五丑年十一月十八日

高三百俵

小普請

(宿所未記載)

御門入寛政五丑年十一月廿四日

(高未記載)

木村永次郎

宿所本所南割下水

御門入寛政五丑年十二月七日

(高未記載)

本多辰次郎

佐竹右京大夫家来

田村良助

御門入寛政五丑年十二月七日

弘捨刀寛政十二申年四月廿日

十二ヶ条目録寛政十二申年十二月六日

宿所浜町蛸殻丁

御門入寛政六寅年二月廿七日

寄合

金田伝左衛門

高三百俵

松平多膳家来

斎藤東助

御門入寛政六寅年四月七日

御内弟子

向井幸藏

御門入寛政六寅年六月二日

御内弟子

高槌仙藏

御門入寛政六寅年六月二日

大島織之助家来

木暮兔七

御門入寛政六寅年□月十七日

平賀式部少輔家来

山本金助

御門入寛政七卯年正月七日

西丸

御書院番

新右衛門惣領

飯河頼母

宿所浜町蛸殻町

高七百石

御門入寛政七卯年正月七日

新右衛門次男

飯河茂吉

御門入寛政七卯年正月七日

依田金十郎家来

□田川□市

御門入寛政七卯年正月廿二日

弘捨刀寛政十一未年六月廿九日

十二ヶ条目録寛政十二申年四月十二日

宿所浜町山伏井戸

御門入寛政七卯年正月七日

高四百俵

黒川近江守家来

萱田又右衛門

御門入寛政七卯年二月七日

小普請

田辺十左衛門

高四百俵

黒川近江守家来

萱田又右衛門

御門入寛政七卯年二月七日

新十郎弟

高井嘉根吉死

小十人

源藏惣領

吉田八十郎

高百五拾俵

宿所元矢ノ倉

御門入寛政七卯年二月廿日

弘捨刀寛政九巳年三月廿日

十二ヶ条目録寛政十年正月七日

宿所糶町具坂

御門入寛政七卯年二月廿日

弘捨刀寛政九巳年三月廿日

十二ヶ条目録寛政十年正月七日

宿所本所二ツ目

御門入寛政七卯年二月廿日

御門入寛政七卯年三月十一日

大岡伊織家来

大井良助

御門入寛政七卯年三月十三日

小普請

川瀬惣吉

(宿所未記載)

御門入寛政七卯年三月廿日

小普請奉行

御門入寛政七卯年三月廿日

淡路守次嫡

十二ヶ条目録寛政十二申年四月四日

御門入寛政七卯年三月廿日

松平舍人

高千石

御門入寛政七卯年五月十日

松平淡路守家来

御門入寛政七卯年五月十日

並河 勇

御門入寛政七卯年五月十二日

御門入寛政七卯年五月十二日

御門入寛政七卯年五月十二日

御門入寛政七卯年五月十二日

御門入寛政七卯年五月十二日

伊東主膳家来

森本六郎

御門入寛政七卯年五月十二日

右同人家来

右同人家来

御門入寛政七卯年五月十八日

小普請組

猪瀬伴治

御門入寛政七卯年六月廿日

中奥御番

弥九郎惣領

松平文作

高七百石

御門入寛政七卯年八月十二日

最上監物家来

望月武助

御門入寛政七卯年九月十二日

右同人家来

小島常次郎

御門入寛政七卯年九月十二日

坂部能登守家来

直井恩治

御門入寛政七卯年十月十八日

小普請組

浅野鉄之丞

(以下、宿所・高未記載)

御門入寛政七卯年十月十三日

御内弟子

黒川政之進

御門入寛政七卯年十月十三日

御内弟子

佐藤庄八

御門入寛政七卯年十月廿七日

佐竹右京大夫家来

土岐隼太

御門入寛政七卯年十月廿七日

岡部美濃守家来

野本卯之助

御門入寛政七卯年十一月十七日

弥助倅

兼松勘次郎

御門入寛政七卯年閏十一月三日

小普請組

木村定藏

御門入寛政七卯年閏十一月三日

小普請組

水野吉之助

御門入寛政七卯年閏十一月十三日

小普請組

野田定五郎

御門入寛政七卯年閏十一月十八日

小普請組

長田豊次郎

御門入寛政七卯年閏十一月廿八日

小普請組

五十嵐千之丞

御門入寛政七卯年十二月三日

小普請組

大岡織次郎

御門入寛政七卯年十二月三日

小林造酒之助

御門入寛政八辰年正月七日

近江守次男

黒川和三郎

御門入寛政八辰年正月廿二日

泰太郎次男

大津(伴?)幸三郎

御門入寛政八辰年正月廿二日

小普請組

鈴木万五郎

宿所浜町山伏井戸

高百五拾俵

御門入寛政八辰年正月廿二日

久保隼之助

御門入寛政八辰年正月廿五日

西丸

御書院番

三田清八郎弟

宿所本所林町老丁目 御門入寛政八辰年三月十日	宿所小石川水戸殿屋敷前 御門入寛政八辰年四月十五日	宿所浜町山伏井戸 御門入寛政八辰年七月廿二日	宿所(未記載) 御門入寛政八辰年八月廿二日	宿所浜町山伏井戸 御門入寛政八辰年八月廿二日	宿所両国村松丁 御門入寛政八辰年八月廿五日	宿所神田橋外 (高未記載)
稻富音三郎	岡部源八郎家来 斎藤豊吉	堀中郡治	高千石 求馬惣領 竹中鎌吉	高百俵 武川武次郎	高家 大友式部大輔次男 野津寅之丞	(高未記載)
御門入寛政八辰年十月十二日	宿所浜町山伏井戸 御門入寛政八辰年十月十二日	宿所浜町山伏井戸 御門入寛政八辰年十一月十七日	宿所浜町御用屋敷 御門入寛政九巳年正月廿二日	宿所浜町袋町 御門入寛政九巳年正月廿二日	御門入寛政九巳年正月廿二日	御門入寛政九巳年正月廿二日
小普請組 小田切富三郎	佐五郎四男 松平末五郎	川勝齋宮家来 森 徳治	清水勤番 小長谷鉄太郎	高百五拾俵 伊東主膳家来 藤田宇右衛門	伊東主膳家来 三尾熊治	大村信濃守家来
十二ヶ条目録寛政十午年四月廿五日 仮名字目録寛政十一未年二月廿七日 皆伝	御門入寛政九巳年正月廿二日	御門入寛政九巳年二月十日 御門入寛政九巳年二月七日 御門入寛政九巳年九月廿二日 御門入寛政九巳年十二月廿二日	御門入寛政九巳年三月二日 御門入寛政九巳年四月六日	御門入寛政九巳年四月十四日 御門入寛政九巳年四月十四日	御門入寛政九巳年五月四日	御門入寛政九巳年五月十四日
松田 進	清水中ノ口番 玉置富三郎	生駒主殿家来 加川与八郎	御内弟子 大久保新十郎	浅野壱岐守家来 加川弥之助	右同人家来 吉田登市	新庄駿河守家来 中村豊太郎

十二ヶ条目録享和元酉年十二月廿三日 沢勢敬助
仮名字目録享和二戌年十月廿八日 改宮村左久馬
皆伝文化三寅年五月

御門入寛政十一未年正月廿二日

表高家

吉良源六郎

高千五拾弍石

宿所浜町

丹羽左京大夫家来

吉田松治

御門入寛政十一未年二月七日

左近惣領

佐竹富之進

十二ヶ条目録文化元子年五月十日

宿所浅草取(ママ)越

左近次男

佐竹 鼎

御門入寛政十一未年二月七日

御門入寛政十一未年二月十一日

十二ヶ条目録文化元子年五月十日

仮名字目録文化六未年十二月廿日

皆伝文化十二丑年四月四日

御門入寛政十一未年二月十五日

火之番

直三郎伴

小山勝三郎

高百俵五人扶持

宿所本所亀沢町

大久保信濃守家来

根岸森愛

御門入寛政十一未年四月十七日

宿所下谷一枚町組屋鋪

御徒十三番組

榎本林右衛門

(高未記載)

御門入寛政十一未年四月十七日

平賀式部少輔家来

斎藤太仲

御門入寛政十一未年五月十二日 沢勢敬助
御門入寛政十一未年五月十二日 改宮村左久馬
十二ヶ条目録文化二丑年三月廿日 寄合
十二ヶ条目録文化二丑年四月廿五日 右兵衛尉嫡孫

御門入寛政十一未年五月十二日

宿所新大橋手前

高四千字

佐野右兵衛尉家来

竹内元次郎

御門入寛政十一未年五月十二日

御門入寛政十一未年五月十七日

岡部内記家来

猪倉俣次

御門入寛政十一未年十二月七日

奥医師

元達次男

太田熊次郎

御門入寛政十二申年正月七日

宿所八町堀

(高未記載)

靱負惣領

西山鉄次郎

御門入寛政十二申年正月七日

小普請組

市五郎惣領

佐々儀三郎

御門入寛政十二申年二月十二日

御門入寛政十二申年三月廿日

田安

十二ヶ条目録文化四卯年十二月十五日郡奉行

仮名字目録文化十二亥年十一月十二日 三左衛門三男

万年猪之三郎

(宿所未記載)

御門入寛政十二申年三月二日

柳沢伊勢守家来

御門入寛政十二申年三月二日

御門入寛政十二申年三月二日

御門入寛政十二申年三月二日

御門入寛政十二申年三月二日

御門入寛政十二申年三月二日

御門入寛政十二申年三月二日 久城鎌蔵
御門入寛政十二申年三月二日 斎藤熊三郎

御門入寛政十二申年三月七日

御門入寛政十二申年三月七日 久城鎌蔵
御門入寛政十二申年三月七日 斎藤熊三郎

御門入寛政十二申年三月七日

御門入寛政十三酉年二月廿二日

西丸奥御右筆

御門入享和元酉年三月廿七日

宇都諫見

御門入享和二戌年四月廿七日

桜井金弥

宿所浜町

高式百俵

御門入享和元酉年三月廿七日

右同人家来

御門入享和二戌年五月廿二日

平賀式部家来
奈良富次郎

享和年中

新御番

御門入享和元酉年十月二日

右同人家来

御門入享和二戌年五月廿二日

山田三十郎

平左衛門次男

御門入享和三亥年二月廿日

北条空之丞

御門入享和元酉年五月廿二日

小普請組頭
松本十郎兵衛

三雲熊之助

十二ヶ条目録文化元酉年九月廿五日

間瀬木五太夫

御門入享和二戌年五月廿七日

(高未記載)

塚原藤蔵

宿所浜町松島町

高六百石

御門入享和元酉年十月七日

寄合

御門入享和二戌年六月九日

御内弟子
行木新左衛門

御門入享和元酉年二月廿二日

御小性組

御門入享和元酉年二月廿二日

藤堂栄次郎

御門入享和二戌年八月四日

竹本祐八

十二ヶ条目録文化元子年五月十日

芦屋五郎三郎

御門入享和元酉年十月七日

織部

御門入享和二戌年八月四日

竹本小膳

仮名字目録文化四卯年十二月十五日

(高未記載)

宿所下谷三味縁堀

高千石

御門入享和二戌年八月九日

松平伊豆守家来
栗原勝三郎

御門入享和元酉年二月廿二日

御書院番

御門入享和三亥年二月廿日

榊

御門入享和二戌年八月九日

御小性組
内藤新太郎死

十二ヶ条目録文化四卯年十二月十五日

服部剛次郎

御門入享和二戌年正月廿二日

六左衛門惣領

御門入享和二戌年十一月廿日

御小性組
皆伝文政五年五月六日

御門入享和元酉年二月廿七日

佐竹右京大夫家来

宿所小川町一ツ橋通

高七百石

御門入享和二戌年八月廿二日

御門入享和二戌年八月廿二日

御門入享和元酉年三月廿七日

土岐大膳大夫家来

御門入享和二戌年二月十二日

山本徳五郎死

御門入享和二戌年八月廿二日

高百五拾俵

御門入享和元酉年三月廿七日

川勝金次郎家来

宿所浜町山伏井戸

(高未記載)

御門入享和二戌年二月十二日

京都御代官
小堀中務

御門入享和元酉年三月廿七日

早川勝蔵

御門入享和二戌年二月十二日

境野金次郎死

御門入享和二戌年九月十七日

御小性組
細井新五郎

御門入享和元酉年三月廿七日

笠原源吾

御門入享和二戌年二月十二日

黒川八左衛門家来

御門入享和二戌年十一月十二日

御小性組

御門入享和元酉年三月廿七日

右同人家来

御門入享和二戌年二月十二日

土岐大膳大夫家来

御門入享和二戌年十一月十二日

御小性組

御門入享和元酉年三月廿七日

小川丈助

御門入享和二戌年二月十二日

土岐大膳大夫家来

御門入享和二戌年十一月十二日

御小性組

御門入享和元酉年三月廿七日

土岐大膳大夫家来

御門入享和二戌年二月十二日

黒川八左衛門家来

御門入享和二戌年十一月十二日

御小性組

御門入享和元酉年三月廿七日

右同人家来

御門入享和二戌年二月十二日

土岐大膳大夫家来

御門入享和二戌年十一月十二日

御小性組

宿所両国薬研堀
御門入享和二戌年九月廿二日

高三百俵

民部卿殿物頭

吉松庄次郎

御門入享和三亥年三月廿四日

右同人家来

大塚半三郎

御門入享和三亥年十月二日

右同人家来

高木破出助

宿所向柳原

(高未記載)

御門入享和二戌年九月廿二日

桜井栄五郎

御門入享和三亥年三月廿七日

秋元但馬守家来

高取新太郎

御門入享和三亥年十一月十二日

水戸殿医師

勝浦道益

御門入享和二戌年十一月二日

御藏奉行

御門入享和三亥年三月廿七日

右同人家来

堀越吉藏

御門入享和三亥年十二月七日

小普請組

中山大吉

御門入享和二戌年七月廿日

小普請組

御門入享和三亥年五月廿二日

相良老岐守家来

内藤佐十郎

御門入享和四子年正月廿七日

(宿所・高未記載)

丸勘蔵

御門入享和二戌年十一月二日

山寺妙之助家来

小玉銀次

御門入享和三亥年五月廿二日

松平伊豆守家来

秋山恵一郎

御門入享和四子年二月十二日

御使番

三枝左兵衛

御門入享和二戌年十一月廿七日

岩五郎弟

五十嵐長之助

御門入享和三亥年九月十七日

右同人家来

児玉矢柄

御門入享和四子年四月八日

宿所妻恋坂上

文 化 年 中

御門入享和三亥年正月廿八日

宿所木挽町

御小納戸

宇田川郷右衛門

御門入享和三亥年九月十七日

寄 合

加藤平内

御門入文化元子年三月三日

御内弟子

堀越久甫

御門入享和三亥年正月廿八日

宿所本郷御茶之水

御小納戸

松平伊豆守家来

御門入享和三亥年九月十七日

加藤平内家来

江崎文治

御門入文化元子年四月二日

秋元但馬守家来

市川友太郎

御門入享和三亥年正月廿八日

宿所本郷御茶之水

御小納戸

渡辺弥六

御門入享和三亥年十月二日

右同人家来

菊地牧太

御門入文化元子年五月十二日

松平肥後守家来

大竹四郎

御門入文化元子年五月十八日	水野鉄五郎死	宿所小川町一ツ橋通	御門入文化二丑年二月七日	溝口駒之助家来	神 亀八郎家来
御門入文化元子年七月十二日	渡辺栄之丞	宿所小川町一ツ橋通	御門入文化四卯年三月廿日	赤堀清助	小杉万次郎
御門入文化元子年七月十二日	木下新吉死	御門入文化二丑年五月廿七日	十二ヶ条目録文化四卯年十二月十五日	小普請組	大御番
御門入文化元子年八月晦日	橋本千太郎	御門入文化七午年八月廿日	十二ヶ条目録文化八未年十二月七日	柴野弥十郎	宿所本所弁天小路
御門入文化元子年十一月七日	長野佐左衛門家来	(宿所・高未記載)	御門入文化二丑年五月廿七日	黒川鉄三郎	御門入文化三寅年九月廿七日
御門入文化元子年十一月七日	小俣千蔵	御門入文化二丑年閏八月廿七日	御勘定	久保寺院平	三郎次郎養子
御門入文化二丑年正月廿一日	大村信濃守家来	宿所本所亀沢町	御門入文化二丑年九月廿五日	久助次男	万年三郎次郎家来
御門入文化六巳年七月廿日	土屋右源太	御門入文化二丑年十一月廿六日	川口政蔵	松平肥後守家来	山口周蔵
御門入文化二丑年正月廿二日	鶴殿与六郎	御門入文化三寅年正月廿六日	御徒	名村禎助	大御番
御書院番	黒川権九郎	御門入文化三寅年正月廿七日	長坂半三郎	御門入文化四卯年正月廿三日	服部九十郎
宿所小川町広小路	大前孫兵衛家来	(宿所・高未記載)	大井約郎	御門入文化七未年八月廿日	小山弥一郎
御門入文化二丑年正月廿二日	大村古邑	御門入文化三寅年三月廿七日	大前孫兵衛家来	十二ヶ条目録文化八未(ママ)年五月十四日	溝口駒之助家来
御門入文化二丑年二月七日	溝口駒之助家来	御門入文化三寅年四月十二日	田中政蔵	御門入文化四卯年正月廿九日	大村信濃守家来
御門入文化五辰年五月廿日	赤堀徳兵衛	替流断	松平隼之助	御門入文化四卯年三月廿三日	朝長平太
十二ヶ条目録文化五辰年八月廿八日	御書院番	宿所浜町矢ノ倉	御門入文化三寅年四月十六日	松平因幡守家来	大村信濃守家来
御門入文化二丑年二月七日	糸原勘三郎	御門入文化三寅年四月十六日		中村弥平次	土屋七郎
御門入文化六巳年三月廿日					
十二ヶ条目録文化六巳年十二月廿六日					
仮名字目録文化十二亥年十一月十二日					

御門入文化四卯年正月廿七日	大久保山城守家来	御門入文化四卯年九月廿三日	水野信吉	御門入文化五辰年八月七日	鶴殿重五郎
弘捨刀文化七午年五月廿日	大塚孫八郎	御門入文化四卯年十一月朔日	御書院番	弘捨刀文化十酉年四月廿日	
十二ヶ条目録文化七午年九月十日			横田三四郎	十二ヶ条目録文化十一戌年十二月七日	
御門入文化四卯年六月十四日	御使番			御門入文化六巳年正月廿二日	大久保山城守家来
弘捨刀文化七午年五月廿日	大島雲四郎	替流断			森長四郎
十二ヶ条目録文化八未年十二月七日		宿所築地中通り		御門入文化六巳年二月九日	
御門入文化四卯年六月十九日	宿所本所中ノ橋向	御門入文化四卯年十二月七日	小普請組	弘捨刀文化八未年三月廿六日	丹羽加賀守
			千本小太郎	十二ヶ条目録文化八未年四月廿一日	
御門入文化四卯年六月十九日	坂口八郎兵衛	宿所浜町		宿所永田馬場	
		御門入文化四卯年十二月七日	戸田采女正家来	御門入文化六巳年二月九日	丹羽加賀守家来
御門入文化四卯年七月廿二日	松平兵庫頭家来		福田小三郎死	弘捨刀文化八未年三月廿六日	戸城伝左衛門
弘捨刀文化七午年五月廿日	田中猶之助	御門入文化五辰年正月廿九日	溝口駒之助家来	御門入文化六巳年二月九日	
十二ヶ条目録文化八未年五月十四日	大御番		石原忠藏	弘捨刀文化八未年三月廿六日	丹羽加賀守家来
御門入文化四卯年七月廿二日	宿所小日向	御門入文化五辰年六月二日	西丸	十二ヶ条目録文化八未年四月廿一日	神田求馬
弘捨刀文化七午年五月廿日	大御番	弘捨刀文化七午年五月廿日	御小性組	御門入文化六巳年三月四日	右同人家来
十二ヶ条目録文化八未年五月十四日	大津勝太郎	十二ヶ条目録文化八未年五月十四日	神尾権八郎	御門入文化六巳年三月四日	依包源兵衛
御門入文化四卯年七月廿二日	宿所浜町	宿所芝新銭座		御門入文化六巳年四月十二日	右同人家来
		御門入文化五辰年六月二日	大久保山城守家来		西崎刑部左衛門
御門入文化四卯年八月十三日	宿所松島町		戸村門太郎	御門入文化六巳年八月廿九日	溝口駒之助家来
		御船手頭	右同人家来		石原卯之助
		向井将監	熊谷雲之助	御門入文化六巳年十一月十七日	深見新八家来
(宿所・高未記載)					松本金藏
御門入文化四卯年八月十三日	向井将監家来	御門入文化五辰年七月十二日	本多鉄三	御門入文化六巳年十一月十七日	小普請組
		御門入文化五辰年八月七日			間宮鉄之助
		弘捨刀文化七午年五月十四日	御書院番頭	御門入文化七午年正月廿二日	西丸奥御右筆
		十二ヶ条目録文化八未年十二月七日	讃岐守惣領	弘捨刀文化十酉年四月廿日	
御門入文化四卯年八月十三日	右同人家来		近藤宮内	十二ヶ条目録文化十一戌年十二月七日	源五右衛門三男
	小侯志津摩	宿所神田橋外			

宿所築地

芦屋巳之助死

能勢熊之助家来

土屋伊左衛門

御門入文化七年年正月廿二日

御門入文化七年年七月五日

奥 新平

御門入文化八未年二月廿一日

松平因幡守家来

弘捨刀文化十酉年四月廿日

御先手

右同人家来

御門入文化八未年二月廿七日

白井源助

十二ヶ条目録文化十二亥年十一月十二日庄左衛門二男

御門入文化七年年七月五日

小坂市太郎

御門入文化八未年三月廿七日

依田八郎

御門入文化七年年正月廿二日

御先手

右同人家来

御門入文化八未年閏二月朔日

津輕越中守

弘捨刀文化十酉年四月廿日

御先手

東 倩太郎

御門入文化八未年閏二月朔日

津輕越中守

十二ヶ条目録文化十一戌年十二月七日 庄左衛門三男

御門入文化七年年七月廿日

水上帯刀家来

御門入文化八未年閏二月朔日

津輕越中守

仮名字目録(年未記載)

吉松定之進

古田 仕

御門入文化八未年閏二月朔日

津輕越中守

御門入文化七年年二月三日

吉良式部家来

御門入文化七年年七月廿八日

恒之丞殿

御門入文化八未年閏二月朔日

交代寄合

福士喜十郎

御門入文化七年年七月廿八日

御近習番

御門入文化八未年閏二月朔日

那須与市

御門入文化七年年二月十一日

溝口駒之助家来

御門入文化七年年八月十三日

坂間清助

御門入文化八未年閏二月二日

兼子金次

御門入文化七年年四月廿二日

御小性組

御門入文化七年年八月十三日

長坂乙三郎

御門入文化八未年三月七日

神 龜八郎家来

弘捨刀文化十一戌年十月廿日

御小性組

御門入文化七年年十一月廿三日

大村信濃守家来

御門入文化八未年三月廿七日

兼子金次

十二ヶ条目録文化十二亥年十一月十二日 曾根孫之丞死

御門入文化七年年十一月廿三日

江頭晋太郎

御門入文化八未年三月廿七日

後藤清三郎

宿所飯田町中坂上

服部繁之丞

御門入文化八未年十一月廿七日

丹羽加賀守家来

御門入文化八未年三月廿七日

御小納戸

御門入文化七年年五月十六日

御内弟子

御門入文化八未年二月四日

城田弥五兵衛

御門入文化八未年三月十六日

後藤清三郎

御門入文化七年年五月十六日

御内弟子

御門入文化八未年二月四日

丹羽加賀守家来

御門入文化八未年三月十六日

後藤清三郎

御門入文化七年年六月十一日

御小納戸

御門入文化八未年二月十二日

大久保山城守家来

御門入文化八未年三月廿七日

松平兵庫頭家来

弘捨刀文化十三子年二月廿日

御小納戸

御門入文化八未年二月十七日

山本栄吉

御門入文化八未年三月廿七日

並河小藤次

十二ヶ条目録文化十五寅年二月晦日

三宅助之丞

御門入文化八未年二月十七日

御書院番

御門入文化八未年三月廿九日

竹田甚五郎

宿所本所南割下水

能勢熊之助

御門入文化八未年二月十七日

曾根八十吉

御門入文化八未年三月廿九日

丹羽加賀守家来

御門入文化七年年七月五日

能勢熊之助

御門入文化八未年二月十七日

御書院番

御門入文化八未年三月廿九日

山岡栄次

御門入文化七年年七月五日

能勢六郎

御門入文化八未年二月廿一日

松平因幡守家来

御門入文化八未年四月廿八日

御小納戸

十二ヶ条目録文政元寅年十二月廿五日

川勝主税

御門入文化九申年正月廿二日

宿所駿河台袋町

金平弟

仮名字目録文政六未年三月廿九日
御門入文化十酉年正月廿二日

奈佐榎三郎

御門入文化八未年五月二日

御小納戸

御門入文化九申年正月廿二日

鈴木修理

御書物奉行

御門入文化十酉年正月廿二日
御門入文化十四丑年九月廿日
十二ヶ条目録文政元酉年十二月廿五日
仮名字目録文政五年八月十七日

奥御右筆
志賀金八郎

御門入文化八未年五月十二日

松平安芸守家来(ママ)

宿所小川町広小路
御門入文化九申年二月三日

浅野甲斐守家来

御小性

御門入文化十酉年正月廿二日
宿所浜町矢ノ倉

裏(ママ)御右筆組頭

佐々木忠蔵

柴田主水正

御門入文化十酉年正月廿二日
御門入文化十酉年正月廿二日

藤四郎次男

御門入文化八未年五月十二日

松平安芸守家来(ママ)

宿所本所法恩寺橋脇
御門入文化九申年二月「」日

浅野甲斐守家来

鈴木清兵衛家来

御門入文化十酉年正月廿二日

大村信濃守家来

山内泰蔵

長谷川弥門

御門入文化十酉年正月廿二日

吉村要七

御門入文化八未年五月十二日

右同人家来

御門入文化九申年十月七日

十河佐善太

西丸奥御右筆

御門入文化十酉年正月廿二日
御門入文化十一戌年十一月廿日
十二ヶ条目録文化十一戌年十二月七日

右同人家来

松田寛左衛門

御門入文化八未年五月廿六日

替流断

近藤平五郎

十二ヶ条目録文政元寅年十二月廿五日源五右衛門四男
宿所築地
御門入文化九申年十月十七日

丹羽加賀守家来

御門入文化八未年五月廿六日

丹羽加賀守家来

御門入文化九申年十月十七日

井上茂平太

小川次郎兵衛

御門入文化十酉年二月十六日

浅見三弥

御門入文化八未年六月八日

服部鋌之助

御門入文化十酉年正月七日

桜井政之助

「」月廿日 大納言様
「」文政元寅年十一月廿五日御小納戸頭取

宿所本所割下水

高井右京亮

御門入文化八未年六月八日

桜井政之助

「」年二月十二日
青山美濃守弟
三宅忠右衛門

御門入文化十酉年正月廿二日

御小性

御門入文化八未年六月八日

桜井政之助家来

宿所浜町

御門入文化十酉年正月七日

御小性

御門入文化八未年六月八日

川勝主馬家来

御門入文化十酉年正月七日

青山美濃守家来

御門入文化八未年六月八日

山田雄次郎

御門入文化十酉年正月七日

黒川勝次郎

御門入文化九申年正月廿一日

吹野仙蔵

御門入文化十酉年正月廿二日

黒川勝次郎

御門入文化九申年正月廿一日

小普請

御門入文化十酉年正月廿二日

西丸奥御右筆

替流断

笹本金平

十二ヶ条目録文政元寅年十二月廿五日栄蔵弟

(表紙、板くるみ装)

一刀流

分限帳

四

劍術

宿所本所南割下水

大河内善右衛門

御門入文化十一戊年八月十八日

牧野豊前守家来

御門入文化十一戊年六月二日

近藤恒次郎

御門入文化十一戊年八月十八日

原田得三

替流 断

向井将監家来

御門入文化十一戊年八月十八日

小花五郎八

御門入文化十一戊年八月八日

小俣新之丞

御門入文化十一戊年八月十八日

右同人家来

御門入文化十一戊年八月十八日

大羽半助

御門入文化十一戊年八月十八日

関林八郎

十二ヶ条目録文政三辰年三月

豊前守弟

御門入文化十一戊年八月十八日

藤田弥太夫

御門入文化十一戊年八月十八日

牧野豊前守家来

御門入文化十一戊年八月十八日

右同人家来

御門入文化十一戊年八月十八日

牧野春之助

御門入文化十一戊年八月十八日

本間外男蔵

御門入文化十一戊年八月十八日

□川□次郎

御門入文化十一戊年八月十八日

右同人家来

御門入文化十一戊年八月十八日

神田□之進

御門入文化十一戊年八月十八日

木寺勘右衛門

御門入文化十一戊年八月十八日

右同人家来

御門入文化十一戊年八月十八日

右同人家来

御門入文化十一戊年八月十八日

木寺勘右衛門

御門入文化十一戊年八月十八日

右同人家来

十二ヶ条目録文化十三子年八月廿日

牧野豊前守家来

御門入文化十一戊年八月十八日

福尾周助

御門入文化十一戊年八月十八日

福尾周助

御門入文化十一戊年八月十八日

右同人家来

宿所浜町矢ノ倉

御門入文化十酉年八月七日

堀田金之丞

御門入文化十酉年十月十九日

牧野豊前守家来

渥美鎌蔵

御門入文化十一戊年正月七日

西丸

御小性組

文政六未年十二月

大輔養子

十二ヶ条目録

杉浦銃吉

皆伝天保三辰年十一月十一日

西丸御切手番之頭

御門入文化十一戊年六月二日

滝口武右衛門

御門入文化十一戊年六月二日

大草鑓三郎

御門入文化十一戊年八月十八日	右同人家来 和田伸八	御門入文化十二亥年二月廿一日	伊儀左衛門惣領 鷺巢鎌之助	宿所本所 宿所本所	御小性組 長谷川寛次郎
御門入文化十一戊年八月十八日	牧野豊前守家来 新井敬助	宿所浜町御屋敷 御門入文化十二亥年二月廿一日	恒之丞殿 書院番 近藤鋤五郎	御門入文化十二亥年三月十七日	御書院番 平賀丹宮
御門入文化十一戊年八月十八日	右同人家来 長浜倉八	御門入文化十二亥年二月晦日	御門入文化十二亥年二月晦日	御門入文化十二亥年三月十九日	牧野豊前守家来 下田亦八郎
御門入文化十一戊年八月十八日	大村信濃守家来 富永小太郎	御門入文化十二亥年二月晦日	御門入文化十二亥年二月晦日	御門入文化十二亥年三月十九日	右同人家来 白石大八郎
十二ヶ条目録 文化九申年十一月廿日	皆伝文政四巳年十月廿五日	御門入文化十二亥年二月晦日	御徒目付 三河口雲八郎	御門入文化十二亥年三月十九日	牧野豊前守家来 徳田濇之助
御門入文化十一戊年八月十八日	佐竹右京大夫家来 石原久助	御門入文化十二亥年二月晦日	御門入文化十二亥年三月八日	御門入文化十二亥年三月十九日	御門入文化十二亥年三月十九日
御門入文化十二亥年正月廿六日	牧野豊前守家来 中西堅蔵	御門入文化十二亥年三月八日	御門入文化十二亥年三月八日	御門入文化十二亥年三月十九日	御門入文化十二亥年三月十九日
替流断 御門入文化十二亥年二月二日	小十人組 津田武兵衛	御門入文化十二亥年三月八日	御門入文化十二亥年三月八日	御門入文化十二亥年三月十九日	御門入文化十二亥年三月十九日
宿所浜町元矢ノ倉 御門入文化十二亥年二月六日	御細工所頭 清兵衛弟 鈴木厚吉郎	御門入文化十二亥年三月十二日	御門入文化十二亥年三月十二日	御門入文化十二亥年三月十九日	御門入文化十二亥年三月十九日
御門入文化十二亥年二月十日	宿所本所御竹屋敷 牧野豊前守家来 河村幸吉	御門入文化十二亥年三月十二日	御門入文化十二亥年三月十二日	御門入文化十二亥年三月十九日	御門入文化十二亥年三月十九日
御門入文化十二亥年二月廿一日	紀伊殿附	御門入文化十一(二)亥年三月十二日	宿所本所相生町 西丸	御門入文化十二亥年四月廿九日	牧野豊前守家来 小倉銀平

御門入文化十二亥年四月廿九日

牧野豊前守家来

宿所下谷

甲斐庄助太郎

御門入文化十四丑年五月廿八日

大道寺内蔵助家来

御門入文化十二亥年六月十七日

尾高新悦

御門入文化十三子年四月廿七日

御小性組

御門入文化十五寅年正月七日

鈴木八弥

御門入文化十二亥年七月十二日

平賀信濃守家来

御門入文化十三子年四月廿七日

日向七郎

御門入文化十五寅年二月七日

牧野豊前守家来

御門入文化十二亥年八月十七日

永井隠岐守家来

御門入文化十四丑年正月廿二日

森越中守家来

御門入文化十五寅年八月廿日

御使番

御門入文化十二亥年八月十七日

三左衛門死四男

御門入文化十三子年十月廿七日

青山勘六死

御門入文化十五寅年二月七日

内記惣領

万年亀吉

宿所築地

御門入文化十四丑年正月廿二日

小善請組

御門入文化十五寅年三月廿日

岡部長三郎

御門入文化十二亥年八月廿二日

善右衛門弟

御門入文化十四丑年正月廿二日

江坂勘之丞

御門入文化十五寅年二月七日

内記弟

十二ヶ条目録文政六未年四月二日

大河内鉄五郎

十二ヶ条目録文政四巳年十二月六日

諏訪結之助

御門入文化十五寅年二月七日

栗島藤吉

御門入文化十三子年正月七日

大河内鉄五郎

御門入文化十四丑年正月廿二日

御小性組

御門入文化十五寅年二月十日

大御番

十二ヶ条目録文政十亥年十二月廿日

大河内鉄三郎

十二ヶ条目録文政四巳年十二月六日

新之丞次男

御門入文化十五寅年二月十日

岡部金十郎

御門入文化十三子年二月二日

中山勘之丞次男

御門入文化十四丑年二月十七日

諏訪錠吉

御門入文化十五寅年三月廿二日

田安殿

御門入文化十三子年二月廿二日

加納擧郎

御門入文化十四丑年三月廿八日

庄右衛門四男

御門入文化十五寅年八月廿日

物頭

御門入文化十三子年二月廿七日

竹田藤右衛門家来

御門入文化十四丑年三月廿八日

吉松勝五郎

御門入文化十五寅年五月六日

大沢三七郎

御門入文化十三子年二月廿七日

山本箴之助

御門入文化十四丑年四月十四日

松平中務少輔家来

御門入文化十五寅年六月二日

表御右筆

御門入文化十三子年二月廿七日

平五郎弟

御門入文化十四丑年四月十四日

金田極太

御門入文化十五寅年五月六日

森川万之丞

御門入文化十三子年三月七日

近藤平五郎家来

御門入文化十四丑年五月廿七日

高山平左衛門

御門入文化十五寅年八月十二日

御書院番

御門入文化十三子年三月七日

市村歛五郎

御門入文化十四丑年五月廿七日

小善請組

御門入文化十五寅年八月十二日

御書院番

御門入文化十三子年三月七日

御書院番

御門入文化十四丑年五月廿七日

万年鉄之丞

御門入文化十五寅年八月十二日

御書院番

御門入文化十三子年三月七日

長三郎惣領

御門入文化十四丑年五月廿七日

宿所本所南割下水

御門入文化十五寅年八月十二日

御書院番

替 流 断

源三郎惣領

川口源八郎

御門入文政三辰年二月廿二日

隱岐守次男

宿所浅草鳥越

源三郎弟

御門入文政三辰年三月廿九日

又兵衛惣領

御門入文政二卯年正月廿二日

川口綱五郎

替 流 断

小幡勘兵衛

紀伊殿附

小野喜三郎

御門入文政三辰年三月廿九日

小幡又兵衛家来

宿所市ヶ谷

室賀兵庫家来

御門入文政三辰年四月十二日

右同人家来

御門入文政二卯年二月廿二日

能勢清吉

御門入文政三辰年四月十二日

柿沢邦助

右同人家来

飯田万吉

御門入文政三辰年八月十二日

小幡又兵衛家来

御門入文政二卯年閏四月十三日

御書院番

御門入文政三辰年八月十二日

御小納戸

十二ヶ条目録文政四巳年三月廿日

大前熊次郎

十二ヶ条目録文政五年五月六日

修理弟

御門入文政二卯年六月十九日

御小性

御門入文政三辰年九月十六日

寄 合

十二ヶ条目録文政六未年三月廿九日

松平兵庫頭

御門入文政三辰年九月十七日

多宮惣領

御門入文政二卯年六月十九日

松平兵庫頭家来

宿所浜町

小十人頭

十二ヶ条目録文政七申年六月廿日

並河伊三郎

御門入文政三辰年九月十七日

備後守惣領

御門入文政三辰年二月廿三日

治部右衛門伴

替 流 断

岡村桑次郎死

御門入文政三辰年十月四日

神 長十郎家来

宿所神田橋外

牧野豊前守家来

御門入文政三辰年十一月廿七日

御小性頭取

對馬守次男

高井本次郎

宿所本所南割下水

御門入文政四巳年三月十二日

諏訪新之丞家来

黒川弥録

御門入文政四巳年八月廿二日

御書院番

十二ヶ条目録文政八酉年七月廿四日

剛次郎惣領

御門入文政四巳年八月廿二日

宿所本所林町

御門入文政四巳年八月廿二日

小普請組

十二ヶ条目録文政八酉年八月九日

宿所牛込

御門入文政四巳年九月七日

牧野豊前守家来

十二ヶ条目録文政十亥年十一月七日

坂寄道次郎

御門入文政四巳年十一月二日

吉太夫惣領

十二ヶ条目録文政八酉年八月九日

宿所下谷口堀小路

米田与五郎

御門入文政四巳年十一月九日

宿所浜町元矢ノ倉

御小納戸

御門入文政四巳年十一月十七日

恒之丞殿番頭

十二ヶ条目録文政八酉年八月九日

十郎兵衛惣領

十二ヶ条目録文政十亥年正月廿日

宿所両国薬研堀

依田茂八郎

御門入文政五年正月廿四日

御門入文政九戌年十月廿日

十二ヶ条目録文政十亥年十二月廿日

御小性組

与次右衛門惣領

平岩栄三郎

宿所本所南割下水

御門入文政五年正月廿四日

与次右衛門次男

平岩金五郎

御門入文政五年正月廿八日

佐竹右京大夫家来

石川大助

御門入文政五年正月廿八日

佐竹右京大夫家来

石黒祐助

御門入文政五年正月廿八日

右同人家来

十二ヶ条目録文政七申年六月廿日

御門入文政五年正月廿八日

右同人家来

高瀬伝蔵死

御門入文政五年正月廿八日

右同人家来

布施東十郎

御門入文政五年正月廿八日

佐竹右京大夫家来

大島長八郎

御門入文政五年閏正月朔日

御門入文政八(ママ) 酉年三月廿日

十二ヶ条目録文政七(ママ) 申年六月廿日

御門入文政五年閏正月朔日

右同人家来

大田原龍助

御門入文政五年閏正月朔日

御門入文政八(ママ) 酉年三月廿日

御門入文政五年閏正月朔日

十二ヶ条目録文政七(ママ) 申年六月廿日

御門入文政五年閏正月朔日

佐竹右京大夫家来

知久六蔵

御門入文政五年閏正月朔日

右同人家来

田村千太郎

御門入文政五年閏正月朔日

右同人家来

糸賀駒吉

御門入文政五年閏正月十一日

小普請組

孫四郎養子

亀井孫三郎

宿所裏四番町

御門入文政五年閏正月十一日

御書院番

次郎八惣領

日向為次郎

御門入文政五年閏正月十一日

宿所本所御船蔵後

次郎八次男

日向庫之進

御門入文政五年閏正月十五日

御奏者番

長門守次男

丹羽亭九郎

御門入文政五年閏正月廿五日

大御番組頭

矢部七左衛門次男

大岡金之助

宿所浜町竈河岸

御門入文政五年二月十二日

御門入文政九戌年十月廿日

御書院番

十二ヶ条目録文政八酉年七月十四日

御門入文政五年二月十四日

宿所浜町松島町

御門入文政五年二月十四日

御書院番

権九郎養子

黒川鈔五郎

宿所小川町広小路

御門入文政五年二月十七日

佐竹右京大夫家来

大島惣助

御門入文政五年二月廿七日

御門入文政六未年三月廿日

十二ヶ条目録文政六未年九月

御門入文政五年三月廿一日

牧野豊前守家来

山名鎌三郎

御門入文政五年六月二日

内藤新太郎家来

福尾東馬

御門入文政五年六月廿七日

御門入文政十亥年十一月廿日

十二ヶ条目録文政十亥年十二月廿日

宿所本所横綱

新十郎次男

内藤八百次郎死

御門入文政五年七月廿七日

御門入文政十亥年十一月廿日

御門入文政五年七月廿七日

小普請組

千村安之助死

御門入文政五年八月六日

小普請組

御門入文政五年八月十六日

坂井金之丞

弘捨刀文政六未年三月廿日
十二ヶ条目録文政六未年九月(ママ)
御門入文政五年九月廿七日

大村上総介家来
中村正助

弘捨刀天保三辰年六月廿日

紀伊殿附

喜左衛門次男

宿所本所南割下水
御門入文政六未年三月廿七日

大和守次男

御門入文政五年十月六日

松平主殿頭家来
鈴木清之助

御門入文政六未年正月廿二日
弘捨刀文政九戌年二月廿日
十二ヶ条目録文政九戌年四月十六日

小普請組

松田源吉郎

替流断

御門入文政六未年四月二日
弘捨刀文政九戌年十月廿日

御書院番

吉松吉五郎

十二ヶ条目録文政八酉年八月九日

高家
横瀬美濃守

宿所本所三ツ目通り
御門入文政六未年三月八日

牧野豊前守家来

永井小弥太

宿所下谷三味線堀
御門入文政六未年五月十四日

牧野豊前守家来

吉見斧次郎

御門入文政五年十月六日

横瀬駿河守家来
田部田從蔵

御門入文政六未年三月八日

牧野豊前守家来

広瀬岩次郎

御門入文政六未年五月十四日

佐竹右京大夫家来

内田小六

御門入文政五年十一月九日

牧野豊前守家来

古田新次郎

御門入文政六未年三月八日

右同人家来

佐幸田武助

御門入文政六未年七月廿五日

大村上総介家来

常井祥助

御門入文政五年十一月十七日

榊原左衛門家来

寺田長之助

御門入文政六未年三月八日

右同人家来

中川小一郎

十二ヶ条目録文政十二丑年八月廿五日
仮名字目録文政十三寅年十月廿七日

皆伝天保三辰年閏十一月十一日
免状弘化四未年四月十四日

御門入文政六未年九月廿一日

野馬掛

夏右衛門伴

御門入文政五年十一月十七日

大村上総介家来

原重太郎

十二ヶ条目録文政六未年二月十三日

右同人家来

向後喜三郎

御門入文政七申年正月廿二日

御召御馬預り

綿貫儀次郎

弘捨刀文政十亥年三月廿日

大村上総介家来

宇都小十郎

御門入文政六未年三月八日

牧野豊前守家来

岩崎新蔵

御門入文政七申年正月廿二日

御召御馬預り

汶九郎惣領

諏訪部鎌五郎

御門入文政五年十二月廿四日

右同人家来

平山金太郎

御門入文政六未年三月十一日

寄合

外記惣領

宿所西丸下御廐

諏訪部汶九郎次男

安藤鉄蔵

御門入文政五年十二月廿四日

佐竹右京大夫家来

海老原栄蔵

宿所浅草取(鳥)越
御門入文政六未年三月十六日

御書院番

兵橋養子

御門入文政七申年正月廿二日
弘捨刀文政十三寅年九月廿日
十二ヶ条目録天保二卯年九月廿日

御門入文政七申年二月七日

横瀬駿河守次男

御門入文政六未年正月廿二日

替流断

三枝右馬之助

弘捨刀文政十亥年十一月廿日

横瀬駿河守次男

御門入文政八酉年九月廿一日

御側衆

中務少輔惣領

松平三郎太郎

伊兵衛次男

蛭川甲之助

御門入文政九戌年(ママ)

布施篤藏

右同人家来

鷲尾庫之助

宿所八丁堀

御門入文政八酉年九月廿一日

松平中務少輔家来

長谷川輪平

宿所浜町元矢ノ倉
御門入文政九戌年正月廿二日
弘捨刀文政十亥年十一月廿日
十二ヶ条目録天保二卯年九月廿日

御小納戸
内匠惣領

御門入文政九戌年(ママ)

弘捨刀文政十三寅年九月廿日
十二ヶ条目録文政十三寅年十二月六日
仮名字目録天保三辰年閏十一月十一日

御門入文政九戌年(ママ)

右同人家来

高根金弥

御門入文政八酉年九月廿一日

右同人家来

中村才次

宿所浜町蛸殻町
御門入文政九戌年正月廿二日

御門入文政九戌年(ママ)

免状嘉永七寅年十二月十一日
皆伝弘化二巳年四月廿一日

牧野越中守家来

船本又六

御門入文政九戌年(ママ)

御門入文政九戌年(ママ)

佐竹右京大夫家来

石井駒之助

佐竹右京大夫家来

石井駒之助

御門入文政八酉年十一月十日

宿所牛込揚場

寄合

小豊次惣領

松平源三郎

御門入文政九戌年正月廿二日

御門入文政九戌年(ママ)

御門入文政九戌年二月十二日

御書院番

神尾隈五郎

右同人家来

井上鹿蔵

御門入文政九戌年(ママ)

御門入文政九戌年(ママ)

右同人家来

大槻助吉

御門入文政八酉年十一月十日

松平小豊次家来

前田馬兵太

宿所芝新銭座
御門入文政九戌年四月九日

御門入文政九戌年(ママ)

右同人家来

鈴木九五

松平中務少輔家来

白井源助

御門入文政九戌年(ママ)

御門入文政九戌年(ママ)

右同人家来

樋口金太郎

御門入文政九戌年正月七日

恒之丞殿近習番

久左衛門惣領

黒川鋒次郎

御門入文政九戌年四月九日

御門入文政九戌年(ママ)

右同人家来

杉田桓次

御門入文政九戌年(ママ)

御門入文政九戌年(ママ)

十二ヶ条目録弘化二巳年四月十八日

御門入文政九戌年(ママ)

右同人家来

飯塚伝也

御門入文政九戌年正月七日

宿所浜町御屋鋪内

恒之丞殿近習番

清助惣領

坂間錦之助

御門入文政九戌年(ママ)

御門入文政九戌年(ママ)

佐竹右京大夫家来

石井彦七

御門入文政九戌年(ママ)

御門入文政九戌年(ママ)

右同人家来

瀬谷幡吉

御門入文政九戌年正月廿二日

宿所浜町御屋鋪内

奥御右筆組頭

御門入文政九戌年(ママ)

御門入文政九戌年(ママ)

佐竹右京大夫家来

石井庄司

御門入文政九戌年(ママ)

御門入文政九戌年(ママ)

右同人家来

佐藤多門

御門入文政九戌年(ママ)

佐竹右京大夫家来

宿所浜町元矢倉
御門入文政九戌年九月廿三日

右同人家来

坂寄壮四郎

御門入文政九戌年(ママ)

小貫小平

松捨刀天保三辰年四月廿日

小普請組

御門入文政十亥年正月廿九日

牧野山城守家来

黒川喜八郎

右同人家来

宿所下谷式丁町
御門入文政九戌年十一月廿七日

御門入文政九戌年五月十三日

右同人家来

御門入文政十亥年正月七日

牧野山城守家来

御門入文政十亥年正月廿九日

右同人家来

中西鉞蔵

御門入文政九戌年五月廿八日

西丸

御書院番

御門入文政十亥年正月七日

西丸御小納戸
主税次男

御門入文政十亥年四月十二日

右同人家来

矢部半茶

宿所芝三田

御門入文政九戌年五月廿八日

小普請組

御門入文政十亥年正月七日

右同人家来

御門入文政十亥年四月十二日

黒川内匠家来

松本金次

宿所当時芝三田大道寺仁太郎方之同居

御門入文政九戌年八月十七日

牧野山城守家来

御門入文政十亥年正月廿二日

右同人四男

御門入文政十亥年五月廿七日

小普請組

藤左衛門惣領

上原新之丞

上野繁太郎

御門入文政十亥年九月廿日

小普請組

御門入文政十亥年五月廿七日

上原藤左衛門家来

右同人家来

御門入文政十亥年四月廿五日

黒川寅三郎

宿所本所石原町

山岸紋作

御門入文政九戌年八月十七日

右同人家来

御門入文政十亥年正月廿五日

牧野山城守家来

御門入文政十亥年八月廿六日

牧野山城守家来

今村栄次

御門入文政九戌年八月十七日

右同人家来

御門入文政十亥年正月廿九日

右同人家来

御門入文政十亥年八月廿六日

牧野山城守家来

池田鉄平

御門入文政十亥年正月廿九日

宮原次郎太郎

御門入文政十亥年八月廿六日

牧野山城守家来

御門入文政九戌年八月廿五日

新御番

新御番
宋五郎惣領

御門入文政十亥年正月廿九日

右同人家来

御門入文政十亥年十一月三日

御小納戸

田中為次郎

御門入文政十亥年正月廿九日

上野小十郎

御門入文政十亥年十一月三日

御小納戸

若狭守三男

大前綱三郎

近習番

日野吉十郎

十二ヶ条目録天保六未年九月十一日 飛驒守惣領 改右京亮

仮名字目録天保七申年五月十一日 酒井松之丞

宿所小川町一ツ橋

御門入文政十亥年十一月三日

宿所本所石原

御門入文政十一子年十二月廿一日

相良志摩守家来

御門入文政十二寅年九月廿日

免状嘉永五年九月朔日

宿所外桜田御門外

若狭守四男

大前勝之進死

那須六郎左衛門

御門入文政十二寅年六月十六日

御門入文政十二寅年六月十六日

御門入文政十二寅年六月十六日

御門入文政十一子年正月七日

小普請組

細井鑽次郎

皆伝弘化二巳年四月廿九日

御門入文政十二丑年正月廿二日

小普請組

長野岩太郎

御門入文政十二丑年六月十六日

飛驒守次男

酒井忠象

宿所小川町御台所町

御門入文政十一子年正月廿二日

牧野山城守家来

西村大次郎

宿所本郷御弓町

御門入文政十二丑年正月廿二日

小普請組

右京惣領

御門入文政十二丑年六月十六日

御門入文政十二丑年六月十六日

酒井飛驒守家来

中村宗蔵

御門入文政十一子年正月廿二日

右同人家来

織田捨次郎

宿所新大橋向

替 流断

小普請組

永井兌次郎

御門入文政十二丑年六月十六日

御門入文政十二丑年六月十六日

右同人家来

真田元蔵

御門入文政十一子年正月廿二日

黒川権九郎家来

新庄伝之助

御門入文政十二丑年二月七日

小普請組

村越金之助

御門入文政十二丑年四月十八日

御門入文政十二丑年四月十八日

右同人家来

加藤兵次郎

御門入文政十一子年二月七日

御門入文政十三寅年九月廿日

十二ヶ条目録天保三辰年閏十一月十一日兵庫頭弟

御小性

松平七十郎

宿所浜町元矢ノ倉

御門入文政十二丑年二月廿一日

宗

对馬守家来

御門入文政十二丑年六月十六日

御門入文政十二丑年六月十六日

右同人家来

野口重平次

宿所深川浄心寺脇

御門入文政十一子年二月七日

松平兵庫頭家来

村井半次郎

御門入文政十二丑年二月廿九日

西丸御小納戸

勝五郎惣領

御門入文政十二丑年六月十六日

御門入文政十二丑年六月十六日

酒井飛驒守家来

寺町孫兵衛

御門入文政十一子年十月七日

御代官

源右衛門三男

大岡清之助

宿所浜町山伏井戸

御門入文政十二丑年二月廿九日

勝五郎次男

小野三千吉

御門入文政十二丑年六月十六日

御門入文政十二丑年六月十六日

右同人家来

井上宇平

宿所駿河台池田坂上

御門入文政十一子年十一月十二日

恒之丞殿

御門入文政十二丑年六月十六日

御門入文政十二丑年六月十六日

大坂御城番

御小納戸

御門入文政十二丑年八月十六日

御門入文政十二丑年五月廿日

右同人家来

高野大八

十二ヶ条目録天保十五辰年四月九日

主税惣領

川勝貞之丞

御門入天保二卯年正月七日

源吉郎弟

御門入天保三辰年正月廿二日

小野鎌三郎

宿所駿河台

御門入文政十三寅年三月十六日

酒井飛騨守家来

御門入天保二卯年正月廿二日

吉良式部家来

御門入天保三辰年正月廿二日

宗 对馬守家来
矢野八郎右衛門

御門入文政七申年十一月廿日

井沢喜右衛門

御門入天保二卯年正月廿七日

曾根八十吉弟
高坂一二

御門入天保三辰年正月廿二日

牧野山城守家来
宇慶亥三雄

十二ヶ条目録天保八酉年四月十八日

右同人家来

御門入天保二卯年正月廿七日

谷 泉吉

御門入天保三辰年正月廿二日

小普請組
万之助弟
岡部龍之助

御門入文政十三寅年閏三月十二日

内藤紀伊守家来

御門入天保二卯年三月十二日

御小性組
五郎三郎惣領
芦屋郡次郎

御門入天保三辰年正月廿二日

西丸御書院番
弥一郎惣領
万年弥三郎

御門入文政十三寅年八月廿二日

御書院番

御門入天保二卯年三月十二日

宿所築地小田町

御門入天保三辰年正月廿九日

恒之丞殿小十人
伴 清之助

次左衛門養子
筒井李之助

御門入天保二卯年三月十二日

西丸奥御右筆組頭
源五右衛門五男
芦屋磯吉

宿所四番町

宿所市ヶ谷田町

御門入文政十三寅年八月廿七日

黒川権九郎家来

御門入天保二卯年四月十二日

恒之丞殿小性
根来金弥

御門入天保三辰年二月二日

亀井大隅守家来
神代次郎兵衛

御門入文政十三寅年八月廿七日

御小納戸

御門入天保二卯年四月十二日

宿所湯島切通

御門入天保三辰年三月十七日

御小納戸
内匠三男
黒川巳之吉

修理惣領

御門入天保二卯年八月七日

御門入天保二卯年八月廿五日

御門入天保三辰年三月十七日

御門入天保三辰年八月廿二日

鈴木久次郎

十二ヶ条目録天保十二丑年八月廿五日

对馬守家来

御門入天保三辰年三月十七日

御小納戸
内匠三男
黒川巳之吉

御門入文政十三寅年十一月二日

宗 对馬守家来

御門入天保二卯年十月七日

皆伝嘉永七寅年十一月十九日

御門入天保三辰年八月廿二日

御小性頭取
左衛門尉三男
松平鎌吉

梅野滝之助

御門入天保二卯年十月七日

御徒頭
左太夫次男
小野鏡次郎

御門入天保三辰年八月廿二日

御門入天保三辰年九月廿日

天 保 年 中

御門入天保二卯年正月七日

小普請組

御門入天保二卯年七月七日

宿所浜町矢ノ倉

御門入天保三辰年九月廿日

宿所浜町元矢ノ倉

十二ヶ条目録天保八酉年四月十八日

源吉郎弟
松田孫三郎

御門入天保二卯年七月七日

左太夫三男

御門入天保三辰年九月廿日

相良志摩守家来

御門入天保三辰年十一月十三日

大童雄助

御門入天保四巳年正月廿六日

石川富藏

亀井大隅守家来

右同人家来

飯田勇次郎

武川玄太郎

御門入天保三辰年十一月廿日

大村丹後守家来

右同人家来

松田進

永田清兵衛

御門入天保三辰年閏十一月二日

恒之丞殿小十人

酒井飛驒守家来

佐々木鉄五郎

安藤喜八

宿所浜町恒之丞殿御屋敷内

御門入天保四巳年四月七日

御門入天保四巳年正月廿六日

酒井飛驒守家来

西丸奥御右筆

山崎大次郎

□藏養子
奈佐勇三郎

御門入天保四巳年正月廿六日

右同人家来

宿所浜町
(裏表紙、板くるみ装)

榎本典

御門入天保四巳年正月廿六日

酒井飛驒守家来

石川源次郎

御門入天保四巳年正月廿六日

右同人家来

上田謙藏

御門入天保四巳年正月廿六日

右同人家来

野口保

御門入天保四巳年正月廿六日

右同人家来

大平龍藏

御門入天保四巳年正月廿六日

酒井飛驒守家来

内山鈇司

御門入天保四巳年正月廿六日

右同人家来

日野市ふるさと文化財課紀要 第2号

令和7年3月31日発行

編集・発行 日野市ふるさと文化財課

〒191-0016 東京都日野市神明4-16-1
Tel : 042-583-5100 Fax : 042-584-5224
Mail : bunkazai@city.hino.lg.jp